

東京成徳短期大学・東京成徳大学  
学修調査(行動・成果調査)報告書

東京成徳短期大学・東京成徳大学  
教育研究改善委員会

2022年12月14日

## はじめに

大学にとっては7回目、短期大学にとって4回目の全学生対象の学修調査（行動・成果調査）の報告書です。この調査は、「教育の質保証」のための自己点検・評価の一環として行われています。本学の教育活動がどのような成果を得ているのか、その実態を把握するためのものでもあります。

平成30年（2018年）度の「私立大学等改革総合支援事業タイプ1」の「⑭学修成果等の活用」においては、アンケート等により把握した学生の学修時間や学修行動及び学修成果について、学生の学修指導やキャリア相談等に活用することが求められました。調査を「やりっぱなし」にすることなく、一定の基準値を設けて、それ以下の学生については、個別的または集団的な学修指導あるいは各種相談等を行うことが必要とされています。本学もこのガイドラインに沿って、一定の基準値を設けて、それ以下（以上）の学生を教育組織である学部学科に連絡し、各教育組織が個別に指導する仕組みを翌年度（2019年度）に作りしました。

また令和元年（2019年）度の「教育の質に係る客観的指標」では、本調査結果を経年比較可能な形で公表が求められるとともに（④-1情報の公開）、学生本人の学修成果の把握や学修の動機づけのために学生自身へのフィードバックが求められました（⑬学修成果の把握）。前者については、すでに実施済みですが、後者については、令和5年度から、新しく導入される「教学・学生情報新システム」を用いて実施する予定です。

さらに令和2年（2020年）度の「改革総合支援事業タイプ1」の「①IR情報を活用した教育課程の検証」で「学修時間・学修実態、学修成果などの情報を教育課程の適切性等の検証」に使用することが、同年度の「教育の質に係る客観的指標」の「③IR機能の整備」では「IR情報を教育や学生支援の点検・評価へ活用すること」が求められています。

そして令和4年（2022年）度に受審した「日本高等教育評価機構の認証評価」においても、学修調査（行動・成果調査）の結果は、「学修成果（学習到達度）」を測定する重要な役割を果たしていると評価されました。

毎年7月ごろに本学の全学生に対して定期的に行われる本調査の結果を、全学的に活用することで今後の教育活動に役立てることを衷心より願っております。

### 「謝辞」

本調査にあたり、次の方々にご尽力いただきました。ここに記して謝意を表します。

長谷部孝司（主査：企画・IR室長）、池田善英、石黒万理子、石崎一紀、岩瀬弘和、内田善浩（企画・IR室員）、岡本和彦、篠誠、津久井康明、福山裕宣（企画・IR室員）、古山尚（敬称略、アイウエオ順）

2022年12月14日

東京成徳大学

学長 吉田富二雄

東京成徳短期大学

学長 木内 秀樹

## 目 次

はじめに .....	i
I 調査の目的と概要 .....	1
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
II 調査の結果と考察 .....	2
1 短期大学 .....	2
(1) 調査結果の概要と課題	2
1) - 1 調査結果の概要	2
1) - 2 考察と課題	7
(2) 2022年度在学生の集計結果(図表)	10
2 大 学 .....	19
(1) 大学全体 .....	19
1) - 1 調査結果の概要と課題・対策	19
A. 調査結果の概要	19
B. 考察と課題	20
1) - 2 2022年度在学生の集計結果(図表)	25
(2) 2022年度在学生 学科別の集計結果(図表) .....	31
2) - 1 国際学科	31
2) - 2 臨床心理学科	38
2) - 3 健康・スポーツ心理学科	46
2) - 4 子ども	53
2) - 5 経営学科	60
3 自由記述 .....	68
III 資 料 .....	69
1 アンケート票	69
2 回答用紙	76
3 回収状況	77

# I 調査の目的と概要

## 1 調査の目的

本調査は、全学生を対象に、一人ひとりの学修行動・成果について毎年調査することで、2年間あるいは4年間を通じた教育の成果がどの程度上がっているのかを調べるものである。これによって、今後の教育プログラムのあり方やFD・SDの進め方、さらには学生指導のあり方等の見直しのために役立つ情報を得ようとするものである。IRの主要課題は、学修成果の達成度の検証とそれを踏まえたDPの達成度の検証にあるといえる。その意味から本調査は、IR活動の重要課題に答えようとするものである。

## 2 調査の概要

- (1) 実施期間 2022年7月8日(金)～7月30日(土)
- (2) 調査対象者 東京成徳短期大学と東京成徳大学の全学生
- (3) 調査方法 Webによる記名式アンケート(選択および一部記述)配布と回収
- (4) 調査内容
  - ・学修行動 学修環境、通学時間、アルバイト、部活、登校・出席状況、授業興味度・難易度、授業への取組姿勢、予修・復修・関連学修、授業以外の学修活動など
  - ・学修成果 教育理念、外国語能力、ICTリテラシー、教養・基礎的スキル、専門知識・専門的スキル、社会で活躍する力、総合力、大学満足度
- (5) 実施主体
  - ・監修 大学学長、短期大学学長
  - ・主催 東京成徳大学教育研究改善委員会、東京成徳短期大学教育研究改善委員会
  - ・企画・運営 学修調査(行動・成果調査)ワーキンググループ  
企画・IR室(主査:長谷部孝司、内田義浩、福山裕宣)  
池田善英、石黒万里子、石崎一紀、岩瀬弘和、岡本和彦、篠 誠、津久井康明、古山 尚(敬称略、アイウエオ順)
- (6)回収状況

表 I-1 短期大学・大学の回収状況

(無効回答:4)

学部・科	回収数	対象者数	回収率(%)
短期大学 幼児教育科	189	221	85.5%
大学計	991	2028	48.9%
国際学科	102	165	61.8%
臨床心理学科	273	470	58.1%
健康・スポーツ心理学科	72	225	32.0%
子ども学科	370	573	64.6%
経営学科	174	595	29.2%

(注) 詳細は「Ⅲ 資料」の「3 回収状況」を参照

## II 調査の結果と考察

### 1 短期大学

#### (1) 調査結果の概要と課題

##### 1)-1 調査結果の概要

下記の「表Ⅱ-1-1 学修行動の概要」「表Ⅱ-1-2 学修成果の概要」および後掲の「(2) 2022年度在学生の集計結果(図表)」により、2022年度在学生(1年生～2年生)の学修行動・成果の状況を整理すると、以下のようになる。

なお、表Ⅱ-1-1および表Ⅱ-1-2中の「①及第者の割合」は、各質問項目について、上位の選択肢を選んだ学生を「及第者」として、その割合がどの程度あるかを整理したものである。「②2年間の変化の傾向」は、及第者の割合が学年進行に伴って上昇傾向にあるのか低下傾向にあるかを整理したものである。最後に、①と②の括弧内の数字は、卒業年次である2年生の割合である。2年間の学修の結果として、及第者がどの程度の割合にまで到達したかを示している。

#### 【学修行動】

表Ⅱ-1-1 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は2年生)		②2年間の変化の傾向(⑤) (在学生の学年間較)
		④60%以上、5(6)段階中上位2(3)段階	⑤80%以上、5(6)段階中上位1(2)段階	
授業時間内	出席	96.8% <b>v</b> (96.4%)	76.2% (75.5%)	やや↓
	興味ある授業	58.2% (54.5%)	12.7% (6.4%)	↓
	授業が難しい	20.1% (17.3%)	1.6% (0.9%)	↓
	授業への積極的取組	81.5% (79.1%)	48.1% (42.7%)	↓
	PC・スマホ使用時間	65.1% (64.5%)	25.9% (20.9%)	↓
	卒業の自信	91.5% (93.6%)	67.2% (68.2%)	やや↑
授業時間外	指示された課題	16.4% (14.5%)	5.8% (4.5%)	↓
	予習	1.1% (0.0%)	1.1% (0.0%)	やや↓
	復習・ピアノの練習	9.5% (4.5%)	4.2% (2.7%)	↓
	資料・文献調べ	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	→
授業以外	ニュース・情報収集	76.2% (81.8%)	3.7% (1.8%)	↓
	新聞・雑誌定期的講読	19.0% (20.9%)		↑
	授業外のネット利用	57.7% (59.1%)	26.5% (29.1%)	↑
	読書	34.4% (39.1%)		↑

(注)「新聞・雑誌定期的講読」は「どれか一種類でも読んでいる」割合、「読書」は「1冊以上読んでいる」割合

### ① 1週間（平均的な）における学修行動

授業の出席については、約 8 割の学生が 80%以上に出席しており、60%以上も含めると約 9 割 5 分となっている。学年間での大きな差は見られなかった。なお、昨年度の 1 年生は、ほぼすべての学生(99.2%)が授業の 80%以上に出席していた。昨年度は遠隔授業の期間が長く単純な比較はできないが、出席率が昨年度よりも低下していることが読み取れる。

興味のある授業の割合は、全体で約 9 割の学生が 40%以上と回答しており、80%以上と回答している学生も約 2 割いる。1 年生の方が興味のある授業の割合がやや高い傾向にある。

授業全体の難易度については、約 7 割の学生が「普通」と回答しているのに対して、約 2 割の学生は「やや難しい」と回答している。「非常に易しい」あるいは「非常に難しい」と感じている学生はほとんどいなかった。1 年生の方が授業全体の難易度をやや難しく感じている傾向にある。

授業に積極的に取り組めたかについては、約 8 割の学生が「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答している。1 年生の約 5 割 5 分の学生が「ほぼ・よくできている」と回答しているのに対して、2 年生は約 4 割に留まっており、1 年生の方が授業に積極的に取り組めたと回答していることがわかる。なお、昨年度は 9 割以上の学生が「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答しており、授業への積極性がやや低下していることが読み取れる。

1 日のパソコン等の平均使用時間は、「90 分～3 時間」と回答した学生が最も多く、約 5 割となっている。「90 分未満」と合わせると 8 割を超えており、遠隔授業の期間が長かった昨年度に比べると、パソコン等の平均使用時間は大幅に短くなっている。学年間での大きな差は見られなかった。

2 年間で卒業できる自信については、約 7 割の学生が「80～100%」と答えている。学年間での大きな差は見られなかった。なお、昨年度は「80～100%」と答えた学生は約 5 割に留まっていた。先行きの見えにくい遠隔授業の期間が終了し、今年度は全面的な対面授業となったことで、卒業に対するイメージがより具体的にできるようになったのではないだろうか。

### ② 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動

授業で指示された課題等にかかる時間は、「90 分～3 時間未満」と回答した学生が最も多く、約 5 割となっている。「90 分未満」と合わせると約 8 割 5 分となっている。学年間での大きな差は見られなかった。なお、昨年度は「90 分～3 時間未満」と「3 時間～4 時間 30 分未満」がそれぞれ約 3 割となっていた。昨年度に比べると大幅に時間が減っているが、これは遠隔授業の際に課題の提出を原則として必須としていたことによる影響と考えられる。

授業の予習にかかる時間は、約 5 割の学生が「90 分未満」と回答しており、「やっていない」と回答している学生も約 4 割いる。1 年生の約 3 割の学生が「やっていない」と回答しているのに対して、2 年生は約 4 割 5 分に上っており、2 年生の方が予習の時間は短くなっている。

授業の復習にかかる時間は、「90 分未満」と回答した学生が最も多く、約 4 割 5 分となっている。次に多いのが「90 分～3 時間未満」で約 4 割である。1 年生の方が復習にかかる時間はやや長い傾向にある。また、前の質問との比較から、学生が予習よりも復習に時間をかけていることが読み取れる。

授業に関連する調べものの時間は、授業の予習にかかる時間とほぼ同様の傾向であり、「90 分未満」「やっていない」を合わせると約 9 割となっている。

### ③ 授業時間外での普段の行動

ニュースや新しい情報については、約 7 割の学生がテレビ、インターネットなどで確認している。1 年生よりも 2 年生の方が情報収集にインターネットを利用している傾向が読み取れる。

定期的に読んでいる新聞、雑誌、週刊誌があるかについては、「読まない」という学生が約 8 割いる。

学年間での大きな差は見られなかった。

授業以外のインターネットの1日の利用時間は、「90分～3時間未満」と「3時間～4時間30分未満」がそれぞれ約3割となった。「6時間以上」という学生も約1割いる。学年間での大きな差は見られなかった。なお、これらの割合は、昨年度と比較して大きな変化はなかった。授業時間外でのインターネットの利用時間については、遠隔授業から対面授業になったことの影響は少ないことが伺える。

専門書を含む読書については、約9割5分の学生が月に2冊以下となっており、そのうち「読まない」と回答している学生も約6割5分いる。1年生で「読まない」と回答した学生が約7割なのに対して、2年生は約6割であり、2年生の方が読書量はやや多い傾向にある。

## 【学修成果】

表Ⅱ-1-2 学修成果の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は2年生)		②2年間の変化の傾向 (在学生の学年間較)
		㉑6段階中 上位3段階	㉒6段階中 上位2段階	
精神	建学の精神	54.0% (49.1%)	20.6% (14.5%)	↓
外国語	グローバルな姿勢	33.3% (31.8%)	7.4% (7.3%)	→
	会話力	30.2% (28.2%)	11.6% (11.8%)	→
	書く力・読む力	27.1% (26.4%)	9.6% (8.2%)	↓
ICT	ネットで支障なく受講	73.0% (74.5%)	45.5% (47.3%)	↑
	Word,Excel,PowerPoint	72.5% (68.2%)	37.0% (31.8%)	↓
	ネットによる授業・研究情報の検索	74.6% (69.1%)	45.0% (40.0%)	↓
教養・基礎的スキル	幅広い知識と教養	41.8% (41.8%)	0.5% (0.9%)	やや↑
	レポート・論文に必要な情報検索	38.1% (40.9%)	3.2% (4.5%)	↑
	ディスカッション	63.5% (65.5%)	20.6% (17.3%)	↓
専門知識・スキル	専門知識の理解	67.2% (70.0%)	21.2% (20.9%)	→
	専門知識の使用	74.6% (77.3%)	18.5% (21.8%)	↑
	専門的スキル	68.3% (74.5%)	12.7% (13.6%)	↑
	目指している・取得した免許・資格の数	69.8% (69.1%)	24.3% (20.0%)	↓
キャリア・社会人基礎力	働くイメージ	51.3% (48.2%)	18.5% (18.2%)	→
	将来の進路	61.9% (58.2%)	32.8% (27.3%)	↓
	就活を頑張る	87.3% (81.8%)	51.9% (43.6%)	↓
総合力	考えを他者に説明	68.3% (67.3%)	22.8% (21.8%)	↓
	社会人基礎力	60.8% (60.9%)	15.9% (13.6%)	↓
	他者との相互理解	81.0% (77.3%)	37.6% (35.5%)	↓
	入学の満足度	83.0% (80.9%)	48.4% (43.6%)	↓

### ① 建学の精神

建学の精神について、「多少は知っている」と「ある程度は知っている」が拮抗しており、それぞれ約3分の1を占めている。「ほぼ・よく知っている」と回答した学生も約2割いる。1年生の方が2年生よりも「ほぼ・よく知っている」と回答している割合が高く、昨年度も同様の傾向であった。これは、1年生前期の必修科目である「幼児教育基礎演習」のなかで、建学の精神に関する学長講話を実施している影響が大きいのではないかと考えられる。

### ② 外国語能力

外国語の科目選択は、約9割の学生が英語を履修しており、約1割の学生が中国語を履修している。英語を履修している割合は、1年生(93.7%)の方が2年生(84.5%)よりも高い。

外国語の学習をきっかけとしたグローバルな姿勢については、「多少は身につけている」と回答した学生が約5割5分と最も多く、「ある程度・ほぼ身につけている」と回答した学生も約2割5分いる。学年間での大きな差は見られなかった。

外国語の会話力については、「多少はある」と回答している学生の割合が約4割と最も高い。「ある程度・ほぼ・大いにある」と回答している学生も約3割いる。学年間での大きな差は見られなかった。

外国語の書く力・読む力については、「多少はある」と回答している学生の割合が約5割と最も高い。「ある程度・ほぼ・大いにある」と回答している学生も約3割いる。学年間での大きな差は見られなかった。

外国語能力に関して全体的に学年間の差が見られないのは、本学の外国語の履修が1年生のみであることも影響している可能性が考えられる。なお、2年生後期の「教職実践演習」等でも国際理解についての学びを深めているが、本調査は前期時点で実施されているため、結果には反映されていない。

### ③ ICT リテラシー

インターネットを利用した授業の受講が支障なくできているかについては、「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答した学生が約7割5分となっている。一方で、「ほとんど・まったくできない」という回答もわずかながら(3.3%)選択されている。学年間での大きな差は見られなかった。

Word、Excel、PowerPoint等の使用についても、「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答した学生が約7割5分となっている。一方で、「ほとんど・まったくできない」という回答もわずかながら(2.2%)選択されている。1年生の方が2年生よりも「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答している割合が高く、Word、Excel、PowerPoint等については、1年生の方が使いこなせていることが伺える。

インターネットを利用した検索についても、Word、Excel、PowerPoint等の使用とおよそ同様の傾向となっている。

### ④ 教養・基礎的スキル

幅広い知識や教養については、「多少はある」と回答した学生の割合が約5割と最も高く、「ある程度ある」と回答した学生が約4割となっている。学年間での大きな差は見られなかった。

レポートや論文作成に必要な情報収集のスキルについても、「多少はある」と回答した学生の割合が約4割5分と最も高く、「ある程度ある」と回答した学生が約3割5分となっている。1年生よりも2年生の方が「ある程度・かなり・大いにある」と回答した割合がやや高かった。

ディスカッションの能力については、「ある程度できる」と回答した学生の割合が約4割5分と最も高く、「多少はできる」と回答した学生が約3割5分となっている。「ほぼ・よくできる」と回答した学生も約2割いる。学年間での大きな差は見られなかった。



## ⑤ 幼児教育・保育に関する専門知識・専門的スキル

専門知識の理解については、「ある程度理解している」と回答した学生の割合が約4割5分と最も高く、「多少は理解している」が約3割となっている。「ほぼ・よく理解している」と回答した学生も約2割いる。1年生よりも2年生の方が「ある程度・ほぼ・かなり理解している」と回答した割合がやや高かった。

専門知識を実際の実習の場面で使えるかについても傾向は同様で、「ある程度使える」と回答した学生の割合が約5割5分と最も高く、「多少は使える」が約2割5分となっている。「ほぼ・よく使える」と回答した学生も約2割いる。1年生よりも2年生の方が「ある程度・ほぼ・かなり理解している」と回答した割合がやや高かった。

専門的スキルが身につけているかについては、「ある程度身につけている」と回答した学生の割合が約5割5分と最も高く、「多少は身につけている」が約3割となっている。「ほぼ・よく身につけている」と回答した学生も約1割いる。「ほとんど・まったく身につけていない」と回答した学生はいなかった。1年生で「ある程度・ほぼ・よく身につけている」と回答した学生が約6割であったのに対して、2年生は約7割5分となっており、両者には大きな差が浮かび上がった。学年を経ることで、幼児教育・保育に関する専門性がより深まっていることが読み取れる。

取得を目指している免許・資格等については、ほぼすべての学生(97.8%)が2つ以上と回答しており、さらに約7割の学生が3つ以上と回答している。1年生で「5以上」と回答した学生が約1割いたのに対して、2年生は1.8%のみである。昨年度も同様の傾向であり、1年生の時に5つ以上の資格を目指している学生は、2年生に進級する段階で資格の数を絞っているものと考えられる。

## ⑥ 社会で活躍するための力（キャリア・社会人基礎力）

「社会で働く（保育者、一般就職）」ことのイメージについては、「多少はできている」と「ある程度はできている」が拮抗しており、それぞれ約3分の1を占めている。「ほぼ・よくできている」と回答した学生も約2割いる。学年間での大きな差は見られなかった。

将来の進路については、約6割の学生が「ある程度・ほぼ・すでに決まっている」と回答している。「ほぼ・すでに決まっている」と回答した学生も約3割5分いる。1年生で「まったく・ほぼ決まっていない」と回答した学生の割合が約1割5分なのに対して、2年生は約0割5分に留まっている。また、昨年度の2年生で「まったく・ほぼ決まっていない」学生が約1割5分であったことを考えると、進路が決まっていない学生は大きく減少しているといえる。

就職活動を最後まで頑張る自信については、約8割5分の学生が「ある程度・かなり・大いにある」と回答している。1年生で「大いにある」と回答した学生の割合が約3割5分であるのに対して、2年生は約1割5分であり、1年生の方が2年生よりも自信があるという結果になっている。昨年度も類似の傾向となっており、2年生は調査時点で就職活動が間近に迫っている段階で、不安を感じている学生も一定数いることが伺える。

## ⑦ 総合力

自分の考えを文章や口頭で他者に説明することについては、約7割の学生が「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答している。学年間での大きな差は見られなかった。なお、昨年度は「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答した学生が5割程度であり、この1年間で大きく伸びていることがわかる。全面的に対面授業が実施され、教員・学生との直接的なコミュニケーションを重ねるなかで、これらの能力が伸長した可能性が考えられるだろう。

社会人としての仕事や活動を行うために必要な力については、約6割の学生が「ある程度・ほぼ・よく身につけている」と回答している。学年間での大きな差は見られなかった。これについても、昨年度は5

割程度であり、今年度の方が高くなっている。

他者とのコミュニケーション・相互理解については、約 8 割の学生が「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答している。1 年生で「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答している学生の割合が約 8 割 5 分なのに対して、2 年生は約 7 割 5 分に留まっている。入学当初から対面授業であった 1 年生の方が、入学当初に遠隔授業の期間が長かった 2 年生よりも、円滑にコミュニケーションが取れているという可能性もあるのではなかろうか。

東京成徳短期大学に入学してどの程度よかったと思うかについては、約 8 割の学生が「ある程度・ほぼ・大いに思っている」と回答している。1 年生で「ある程度・ほぼ・大いに思っている」と回答している学生の割合が約 9 割なのに対して、2 年生は約 8 割に留まっている。この傾向は昨年度も同様であるが、これが学年の進行によるものなのか、あるいは遠隔授業の期間の長さや相関があるのか等については、来年度以降の結果との比較が必要となるだろう。

## 1)-2 考察と課題

2019 年度より幼児教育科において明文化した「学修成果」を踏まえて、考察と課題の検討を行う。

### ① 本学の教育を通して、保育者として必要な基礎的知識と教養、専門的知識と技能、研究する力を習得している。

幅広い知識と教養について「ある程度・かなり・大いにある」と回答した学生の割合が約 4 割であったのに対して、専門的知識を「ある程度・ほぼ・よく理解している」と回答した学生の割合は約 7 割であった。学生の実感としては、幅広い知識と教養に比べて、専門的知識の方がより習得できていると感じていると推察される。また、昨年度はそれぞれ、約 3 割 5 分、約 6 割 5 分であったことから、この 1 年間で上昇傾向にあることが伺える。

引き続き、幼児教育・保育の専門的知識を確実に教授しつつ、基礎的な知識と教養についても幅広く涵養していくことが必要であろう。本学では、幼稚園教諭免許及び保育士資格取得のためのカリキュラムの構成上、いわゆる一般教養に相当する科目を多数開設することは難しい。「幼児教育基礎演習」等の授業を核としながら、各科目の担当教員が連携して、学生が計画的な基礎的知識と教養を習得できるよう指導していくことが求められる。

研究する力についても、ディスカッションの力はある程度期待できる一方で、情報収集のスキルが十分に習得できているとは言いきれない結果となっている。「課題研究」等においては、これらの能力の向上をさらに意識して、授業を展開することを目指したい。

### ② 本学の教育及び行事を通して、保育や子どもに関わる企画力、指導力、課題発見能力などの実践力や即応力を習得している。

保育者としての実践力や即応力として、専門知識の習得や実際の場面での応用に関する調査結果を参照すると、1 年生よりも 2 年生の方が「身につけている」「使える」と回答する割合が高くなっている。これは、2 年生の方がより多くの専門科目で学びを深めていることに加え、調査時点でほとんどの学生が教育実習（幼稚園）及び保育実習を経験できていることが結果に反映されているものと考えられる。

しかしながら、いずれの質問でも「ある程度身につけている」「ある程度使える」という回答が過半数となっていて、「ほぼ・よく身につけている」「ほぼ・よく使える」と回答している学生は少数派である。もちろん、2 年生の終了時に調査を行えばこの割合が逆転している可能性も考えられるが、1 年生から 2 年生の変化が緩やかであることを考えると、決して楽観することはできない。

この学習成果を達成するためには、実習教育をいかに充実させるかが重要な鍵となるであろう。そのためには、実習の事前指導及び事後指導の体制を整備しつつ、各専門科目間の連携、実習園との連携を深めていくことが必要不可欠である。

**③ 本学の教育及び行事を通して、社会人、保育者として求められるコミュニケーション能力と責任感、倫理観、自己研鑽能力を習得している。**

2022年度の2年生は、1年生の時には遠隔授業の期間も長く、学外研修やスポーツ大会といった多くの行事が大きく制限されてきた。そのなかで、インターネットを介した双方向型のコミュニケーションの方法を模索して、学生同士や教員とのつながりを築いてきた経緯がある。

そして、今年度は全面的に対面授業が実施され、行事についても、一部の制限は伴いながらも、多くの経験を対面で重ねることができている。2022年度の1年生は、コミュニケーションが「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答した学生の割合が8割5分を超えており、昨年度から大きく上昇している。

引き続き、学生の安全は最優先で考慮しつつ、可能な限り対面での授業と行事が実施できるよう、最大限の努力をすることが重要であろう。コミュニケーション能力だけでなく、責任感、倫理観、自己研鑽力のすべてが、教育だけでなく、行事や実習を含めた本学の学生生活全体を通して習得されるものであることを忘れてはならない。

**④ 本学の教育を通して、リテラシー、論理的思考力、協同的課題解決能力を習得している。**

昨年度までの2年間、遠隔授業の受講を継続することにより、学生のICTリテラシーは大きく向上してきてきたものと推測される。今年度からは対面授業に戻っているが、遠隔授業のレガシーを引き継ぎ、ICTリテラシーの維持・向上を目指していきたい。これに関しては、2022年7月に発出された「ICT機器の利用推進支援について」でも、「学生のICT機器の利用推進」として、「課題研究」や「教職実践演習」等での活用を謳っている。学生がノートパソコンやタブレット型デバイスを持つことで、授業での活用の可能性は大きく広がるものと思われる。各授業での積極的な利用が期待される。また、1年生が履修する「情報機器の操作」の授業の役割も、より大きなものとなるであろう。

一方で、レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（図書館の利用など）を「ある程度・かなり・大いにある」と回答した学生の割合は4割以下であり、決して十分とはいえない。読書の時間よりもインターネットの利用時間が圧倒的に多くなっていることもあり、ICT以外のリテラシー全般の習得についても留意が必要である。

論理的思考力や協同的課題解決能力に関連して、先述したように、自分の考えを文章や口頭で他者に説明することについて約7割の学生が「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答している点は特筆すべきである。また、ディスカッションの能力についても6割以上の学生が「ある程度・ほぼ・よくできる」と回答している。例えば、課題解決型学習、グループワーク、プレゼンテーション、双方向授業など、アクティブな要素を取り入れた授業を各教員が積極的に取り入れることで、これらの能力をさらに伸ばしていくことができるのではなかろうか。

**⑤ 本学での学生生活を通して、自己理解を深めながら主体的に学習を進め、ふさわしい進路選択をすることができる。**

進路選択に向けた「社会で働く（保育者、一般就職）」ことのイメージについては、約5割の学生が「ある程度・ほぼ・よくできている」と回答している。しかし、実習を経験している2年生でも、約3割5分の学生が「多少はできている」に留まり、「まったく・ほとんどできていない」という学生も1割5分いる。また、実際の将来の進路については、約6割の学生が「ある程度・ほぼ・すでに決まっている」と回答しており、2年生で「まったく・ほとんど決まっていない」という学生は約0割5分のみであった。

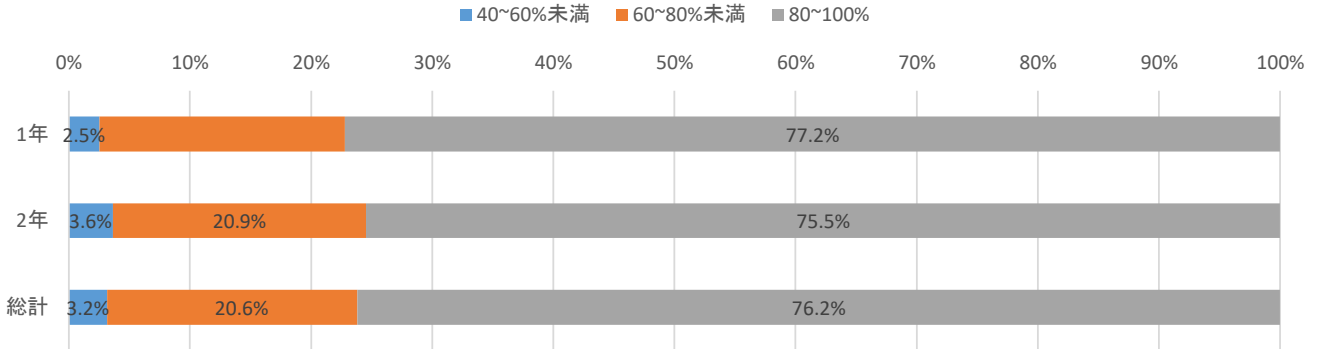
自己理解を深めた上でふさわしい進路を選択するためには、就職ガイダンスや進学ガイダンス等のキャリア支援の充実が欠かせないだろう。それに加えて、ゼミ担当教員や担任を中心として、学生一人ひとりの思いを受け止め、対話を重ねながら学生の進路選択を双方向的に支援していくことが重要である。進路選択というゴールを見据え、入学から卒業まで、幼児教育科の「学習成果」に基づいた一貫した教育と支援が求められている。

(2) 2022年度在学生の集計結果 (図表) 短期大学

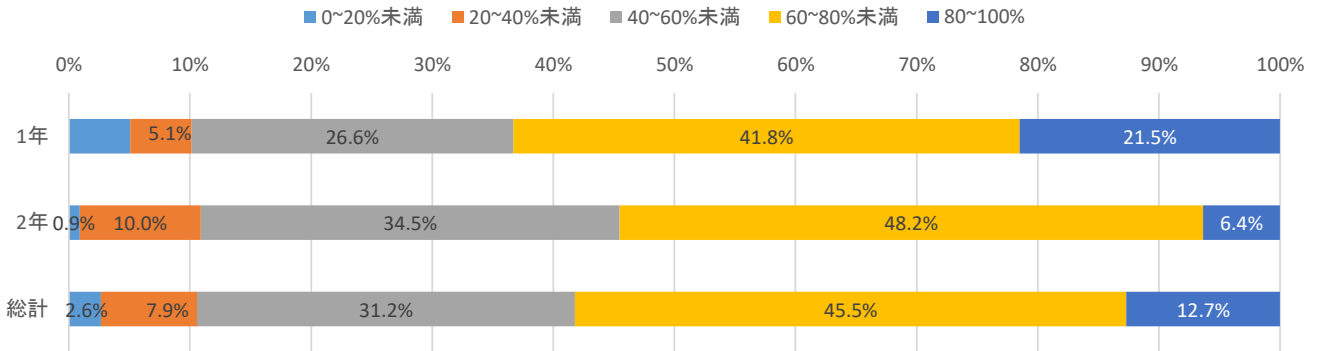
【学修行動調査】

1.一週間 (平均的な) における学修行動について

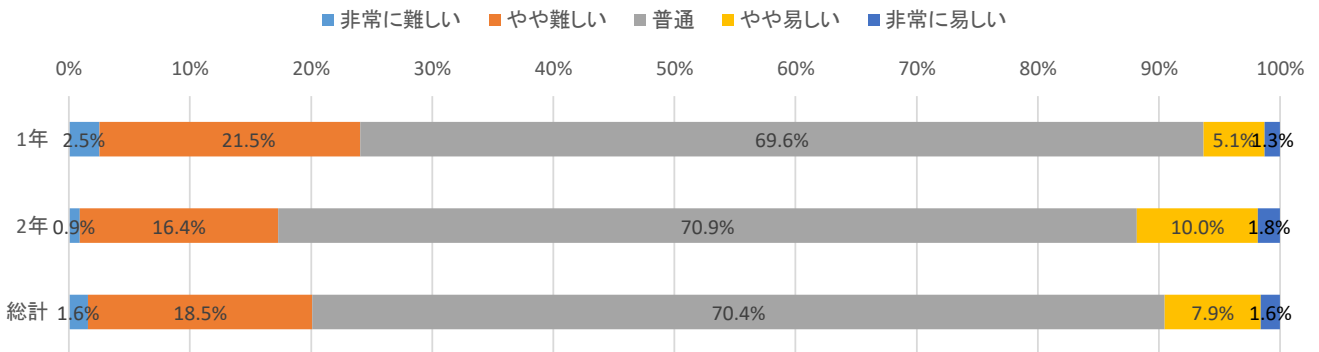
(1) 授業には何割くらい出席していますか。



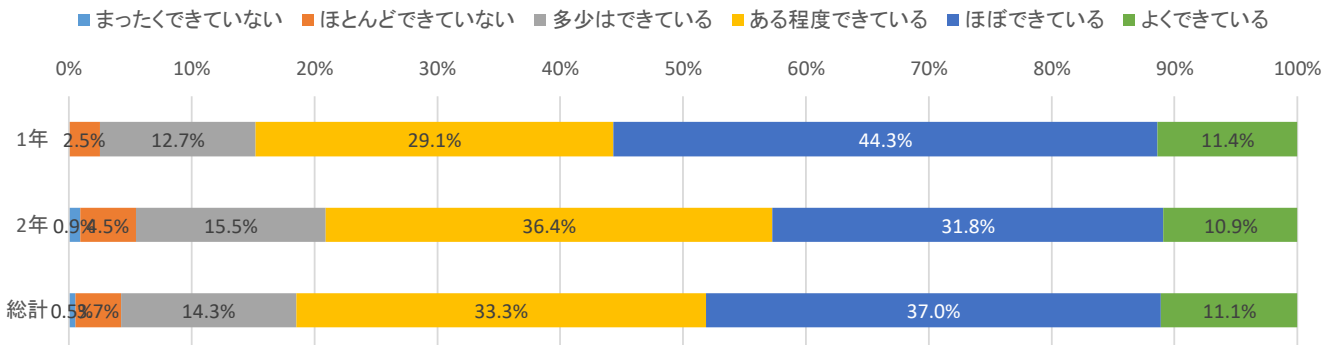
(2) 興味のある授業はどれくらいありますか。



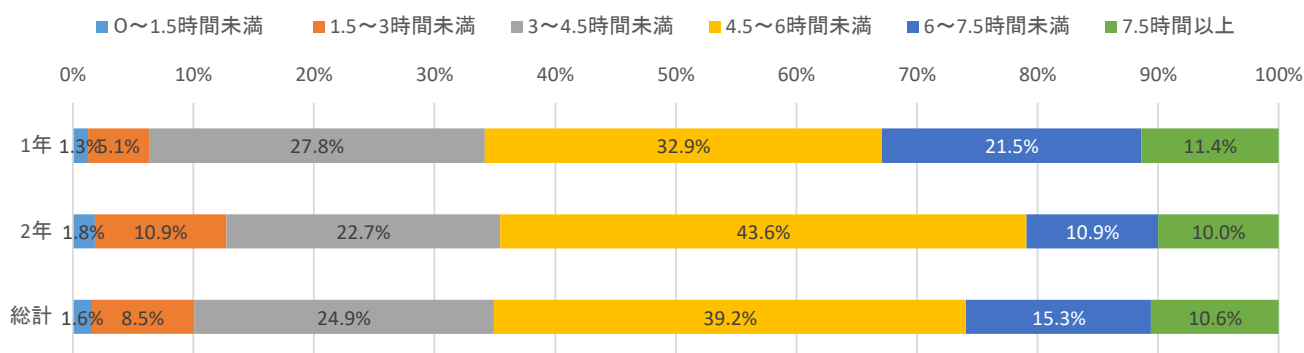
(3) 授業全体の難易度はどの程度ですか。



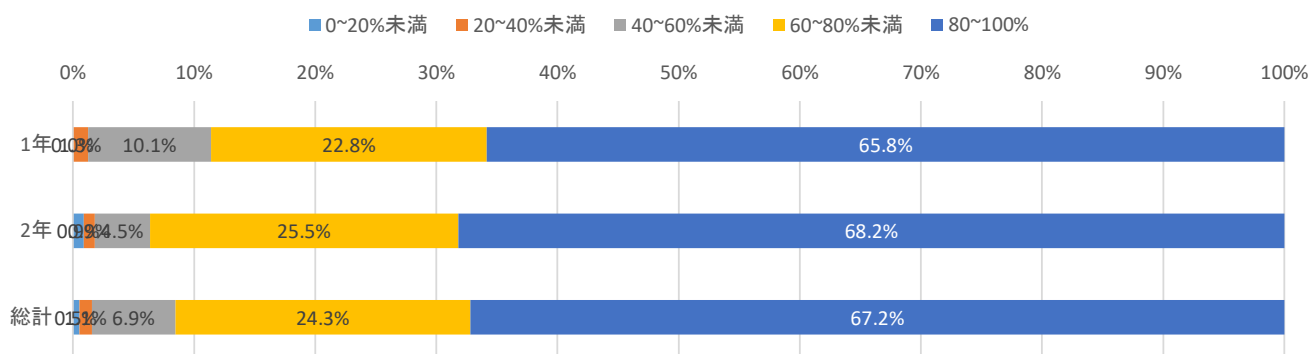
(4) 授業には積極的に取り組みましたか。



(5) 一日に平均何時間ぐらいパソコン(スマホ・タブレット)等を使用していますか。

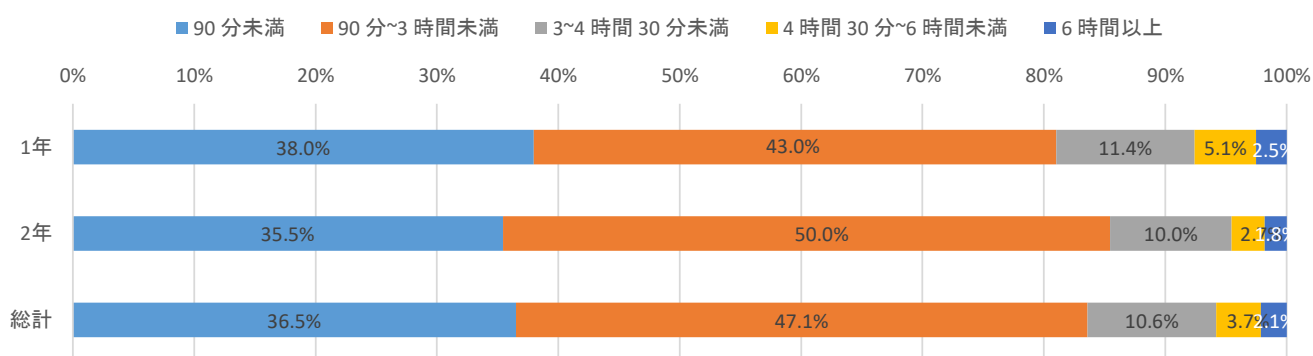


(6) 2年間で卒業できる自信はどのくらいありますか。

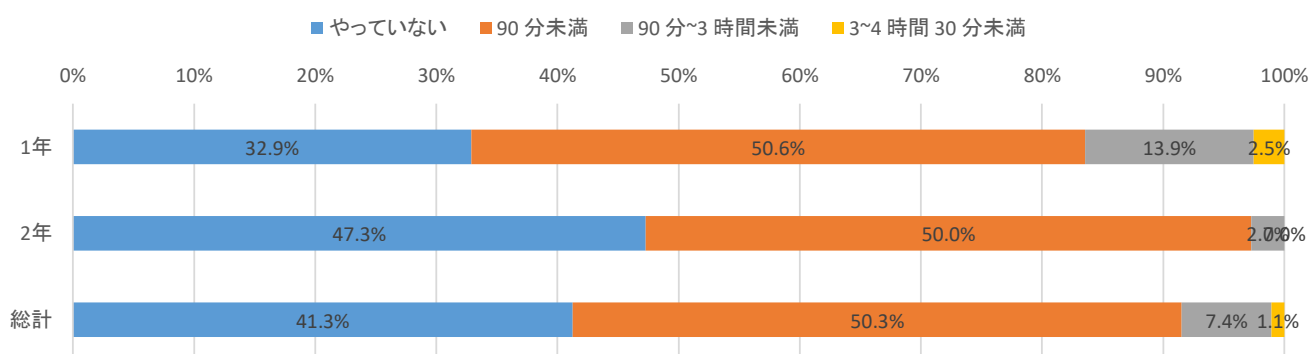


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

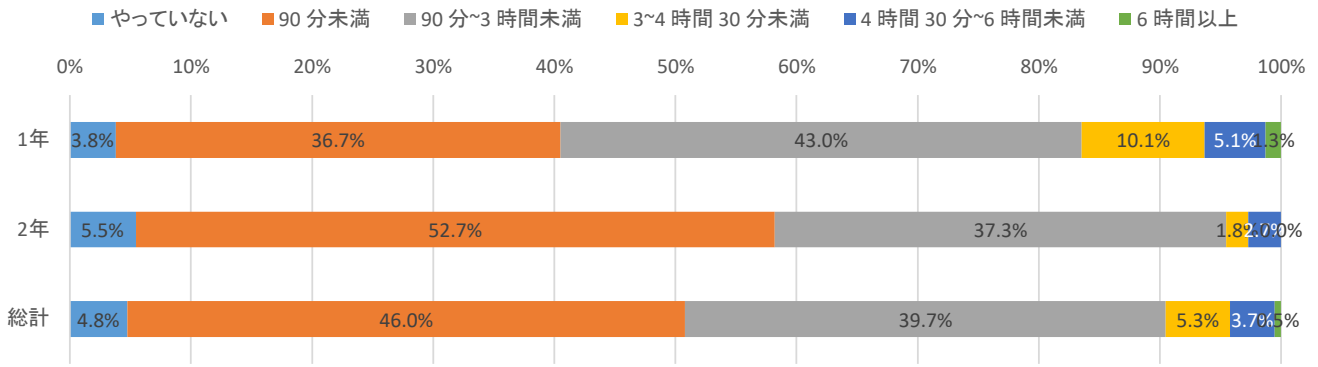
(7) 授業で指示された準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりますか。



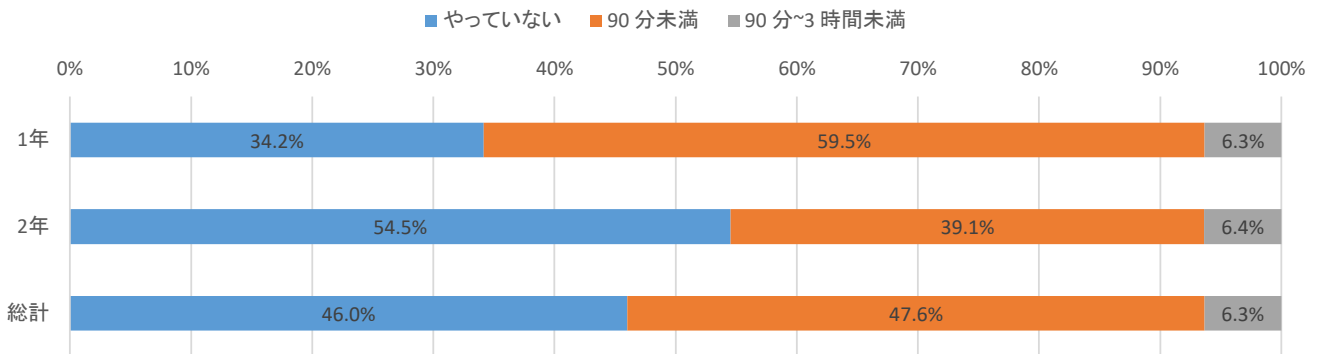
(8) 授業の予習を1週間合計でどのくらいやりますか。



(9) 授業の課題やノートの整理、復習、ピアノ練習などを1週間合計でどのくらいやりますか。

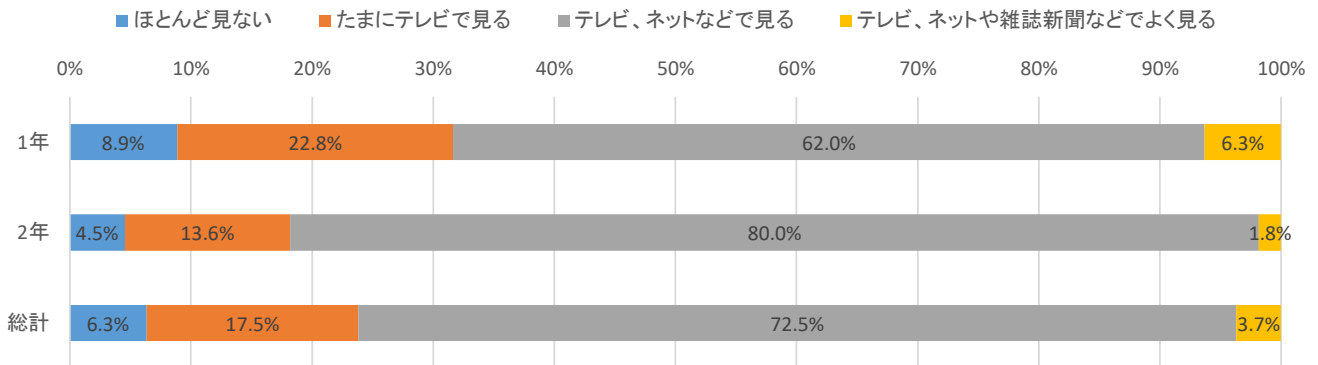


(10) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりますか。

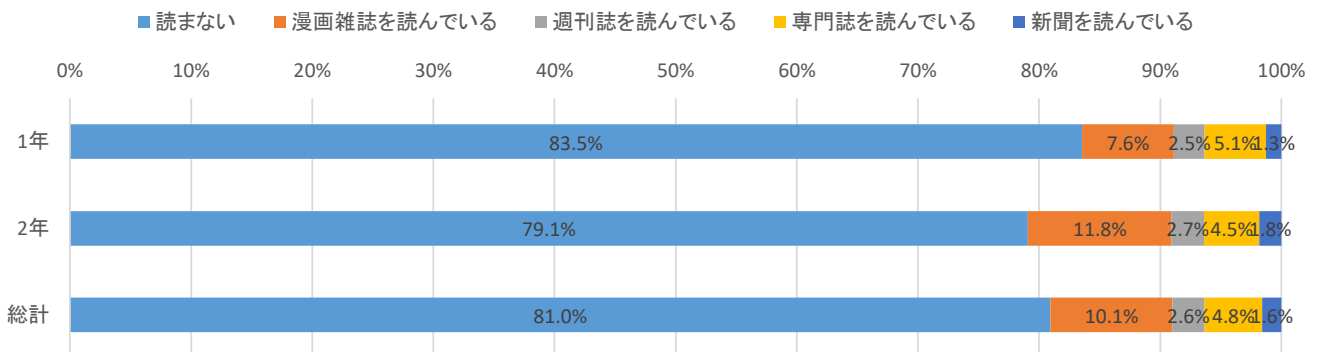


### 3. 授業時間外での普段の行動について

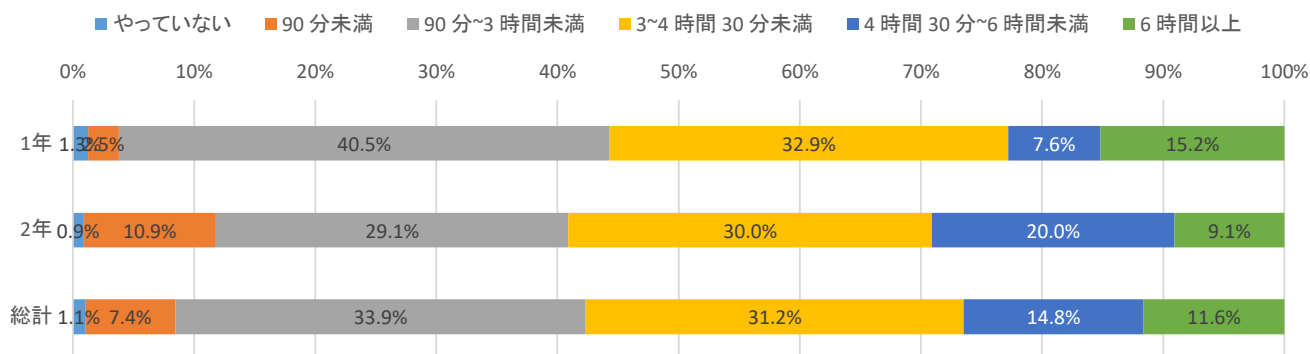
(11) ニュースや新しい情報をどのように取り入れますか。



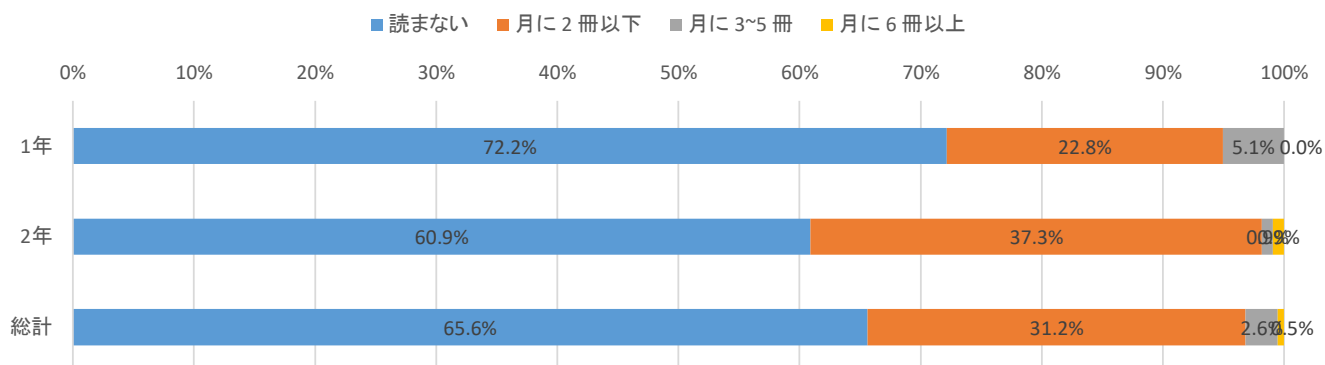
(12) 定期的に読んでいる新聞、雑誌、週刊誌はありますか。



(13)授業以外のインターネット(LINEやその他SNS・オンラインゲームを含む)は1日にどのくらい使っていますか。



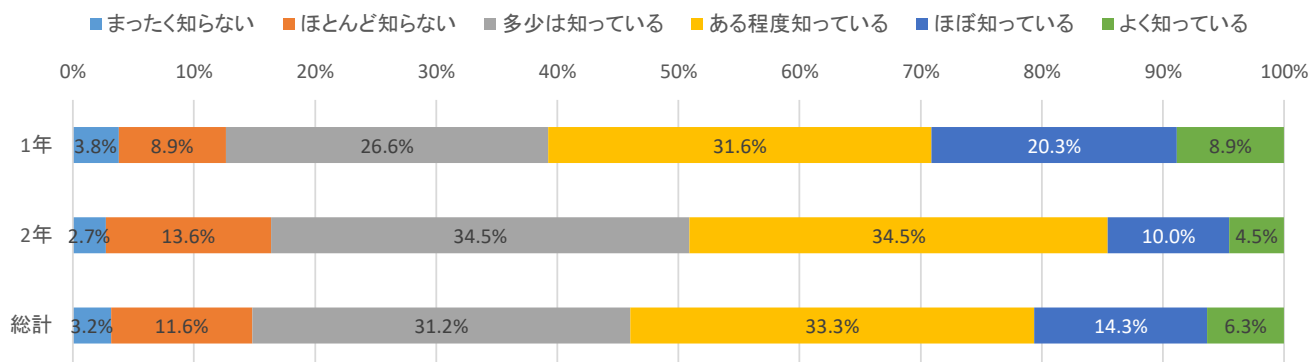
(14)本(専門書を含め)をどのくらい読みますか。



## 【学修成果調査】

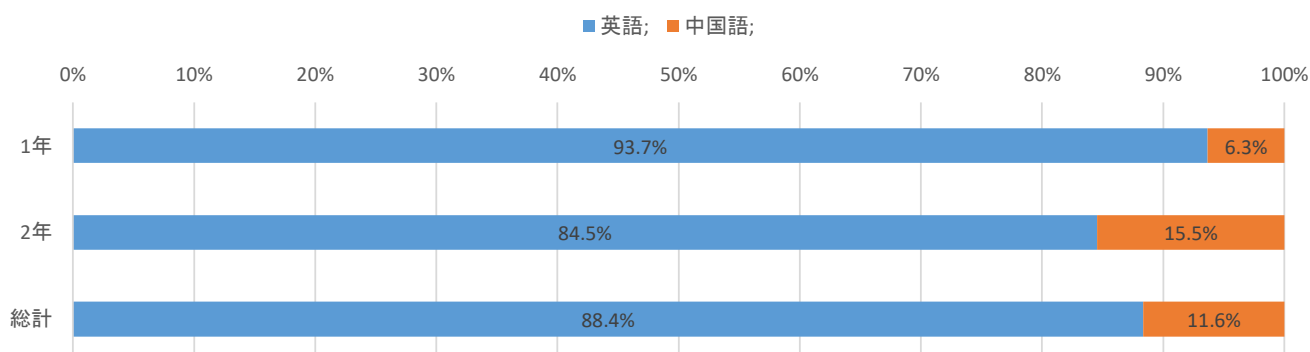
### 1. 建学の精神について

(1)本学の建学の精神『「成徳」すなわち徳を成す人間の育成』を知っていますか。



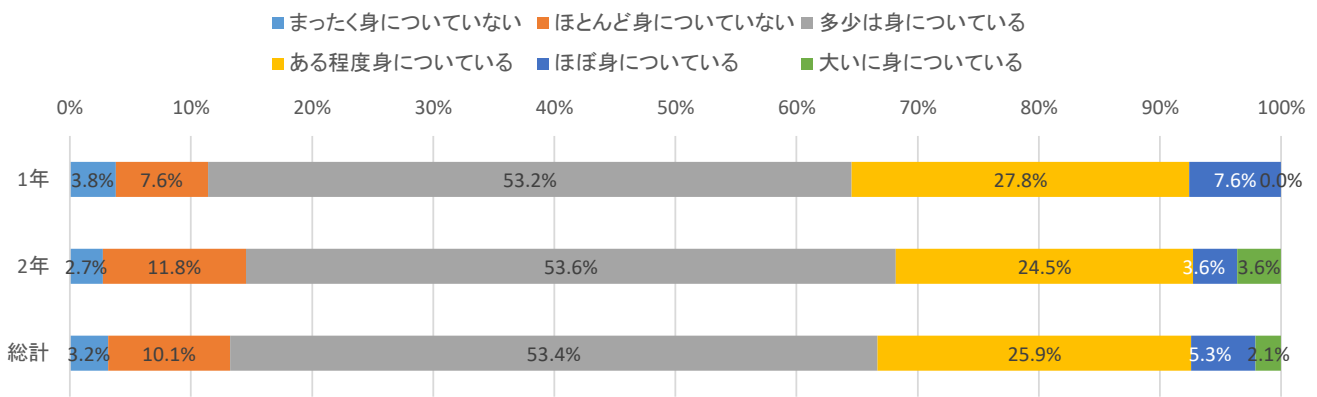
### 2. 外国語能力について

(2)外国語の授業では、何を選択しましたか。

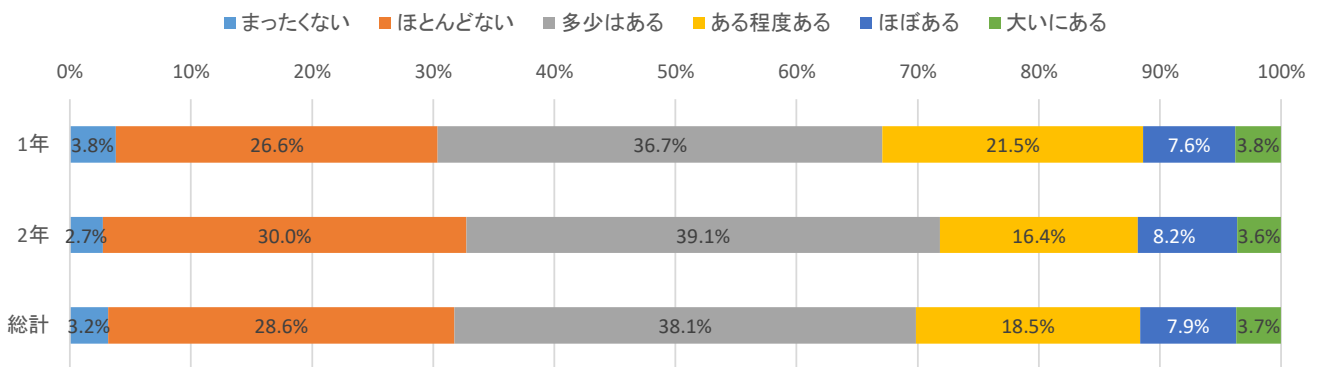




(3) 外国語の学習をきっかけに、グローバルな姿勢が身につきましたか。

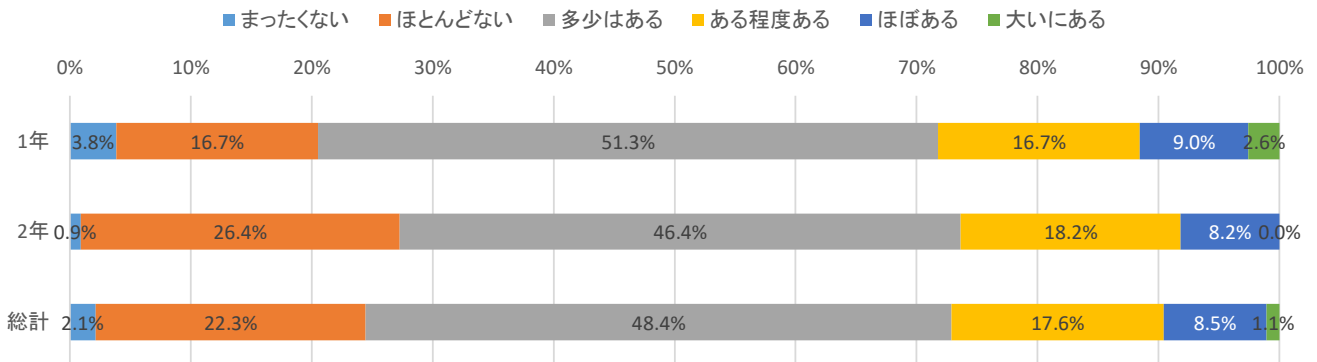


(4) 会話力（話す、聞く）は、どの程度ありますか。



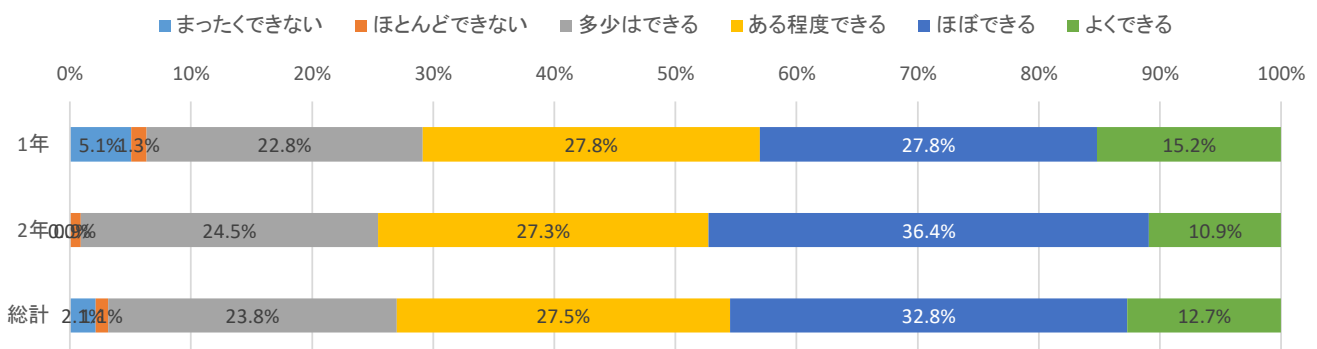
(5) 書く力・読む力はどの程度ありますか。

(無効回答 1年:1)

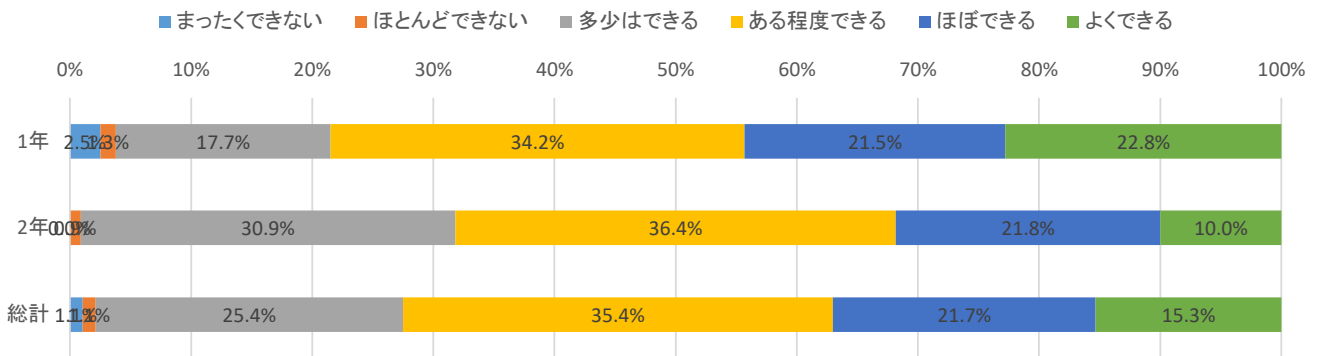


3. ICTリテラシー（=情報機器やインターネットを使う能力）について

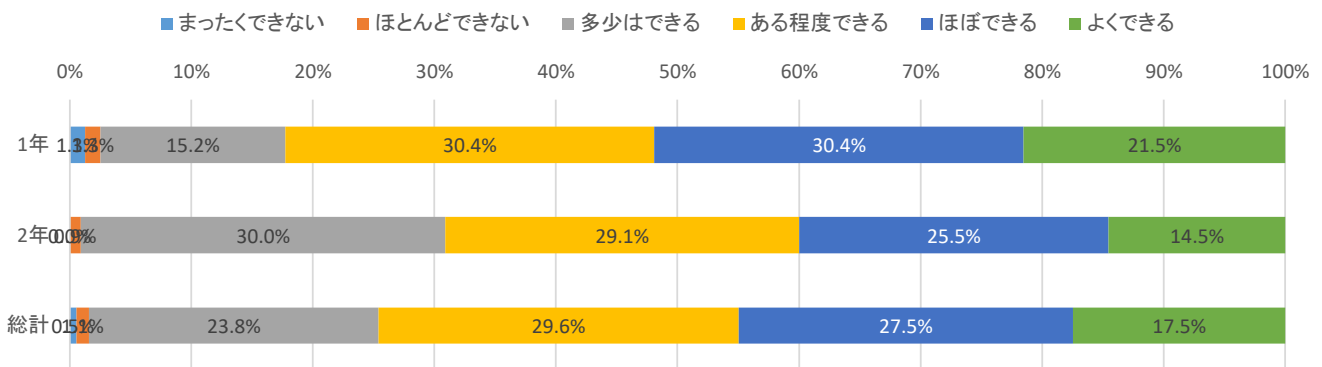
(6) インターネットを利用した授業の受講は支障なくできますか。



(7) 授業課題や研究に、Word、Excel、PowerPointなどのソフトを使うことができますか。

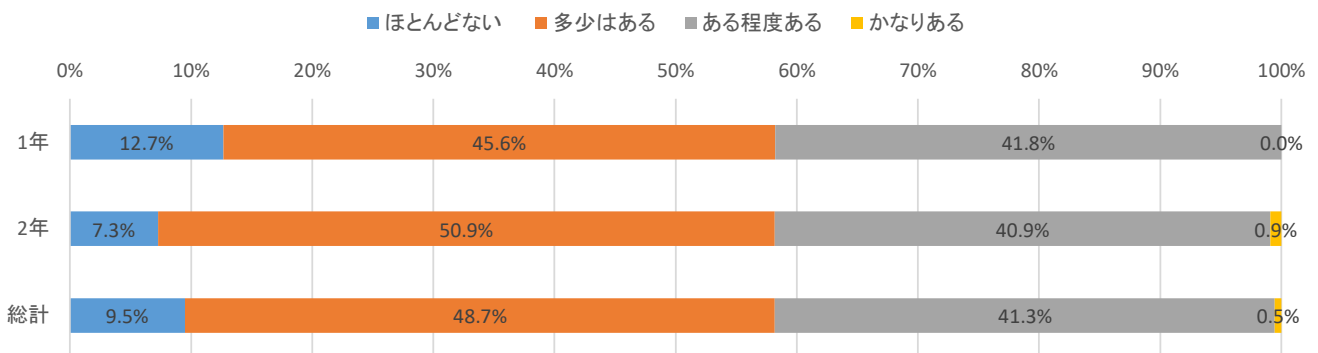


(8) インターネットを利用した授業・研究資料の検索はどの程度できますか。

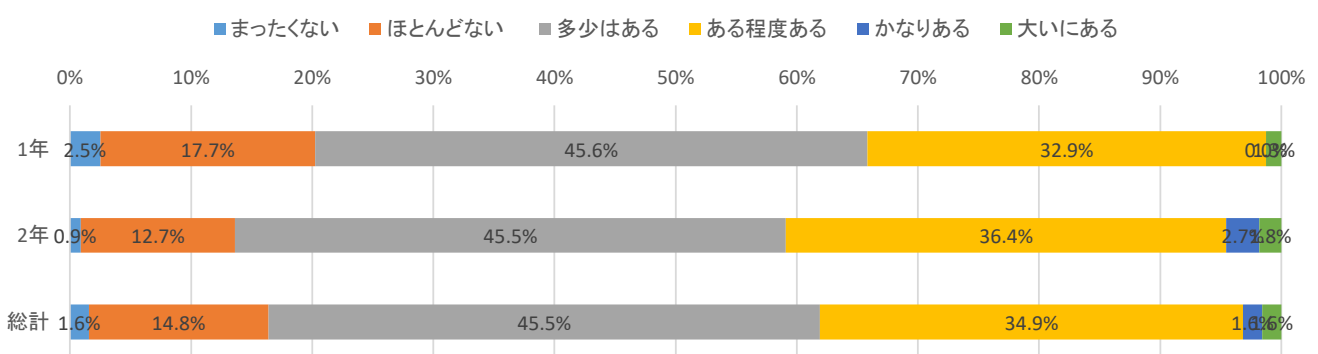


#### 4. 教養・基礎的スキルについて

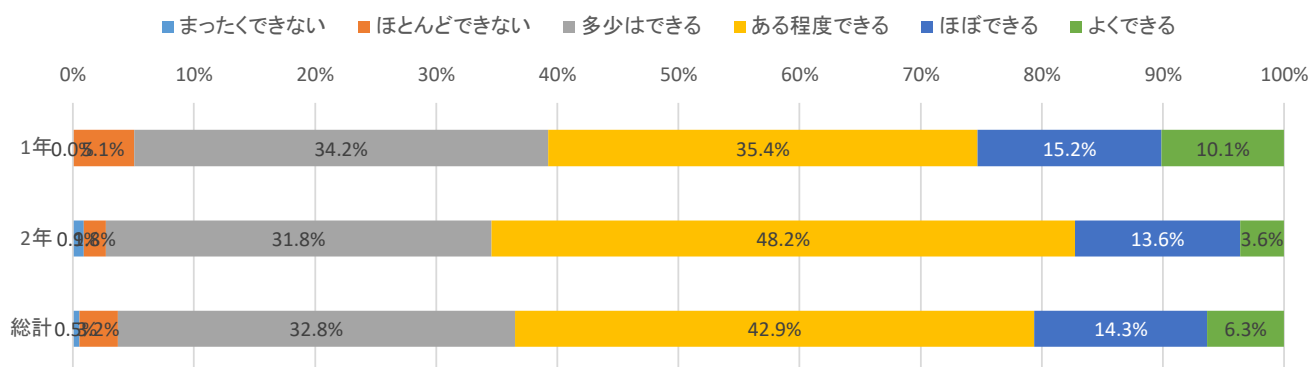
(9) 専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養が、どの程度ありますか。



(10) レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（図書館の利用など）は、どの程度ありますか。

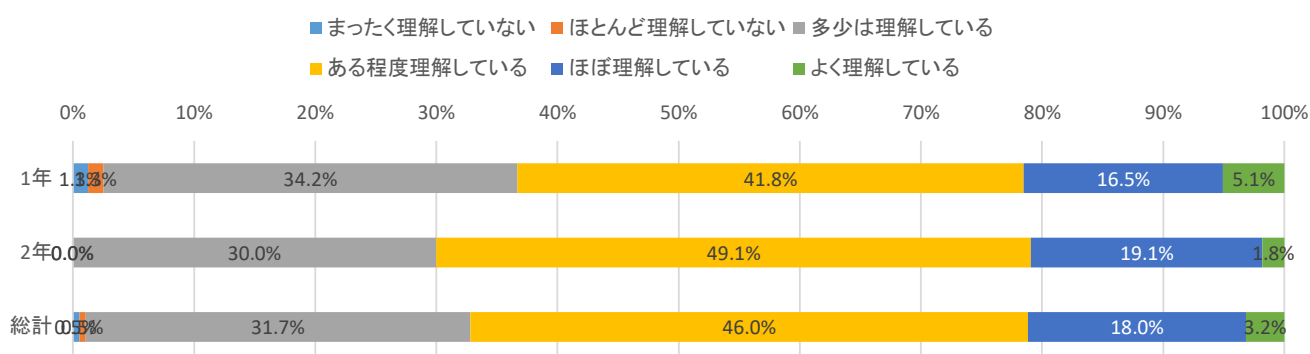


(11) ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べるのが、どの程度できますか。

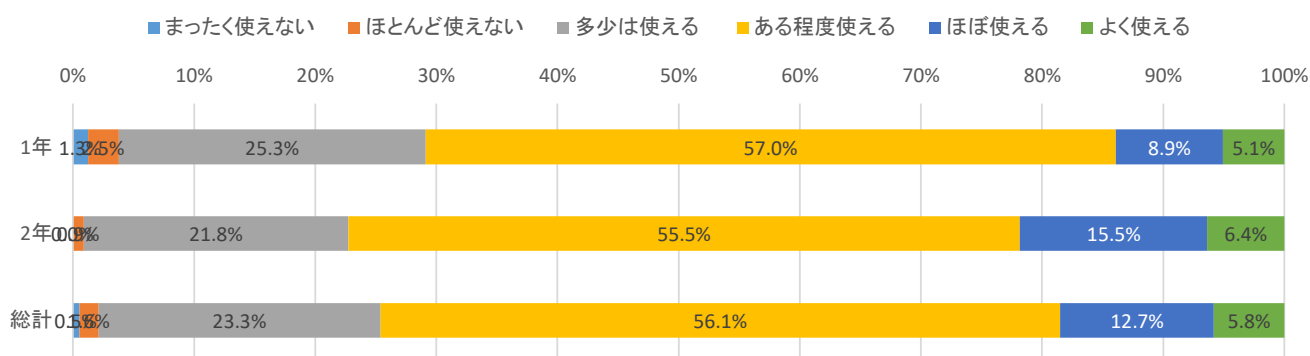


## 5. 幼児教育・保育に関する専門知識・専門的スキルについて

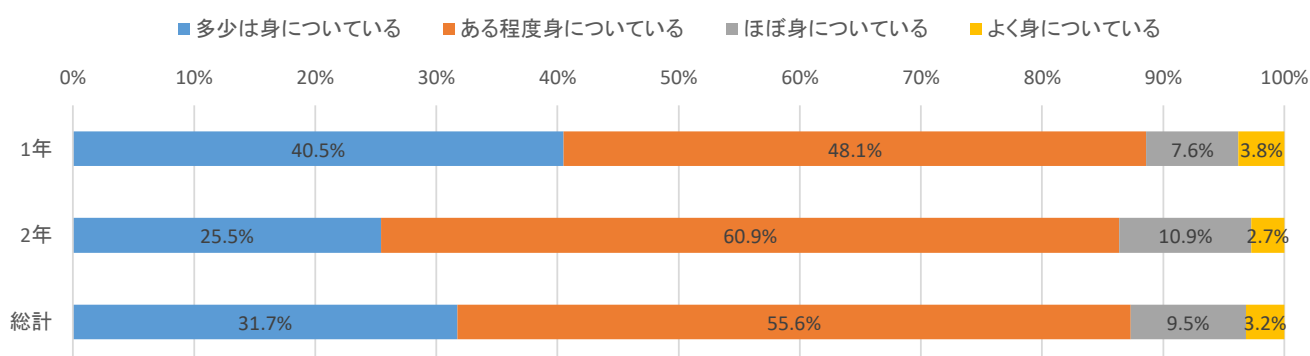
(12) 専門知識を理解している。



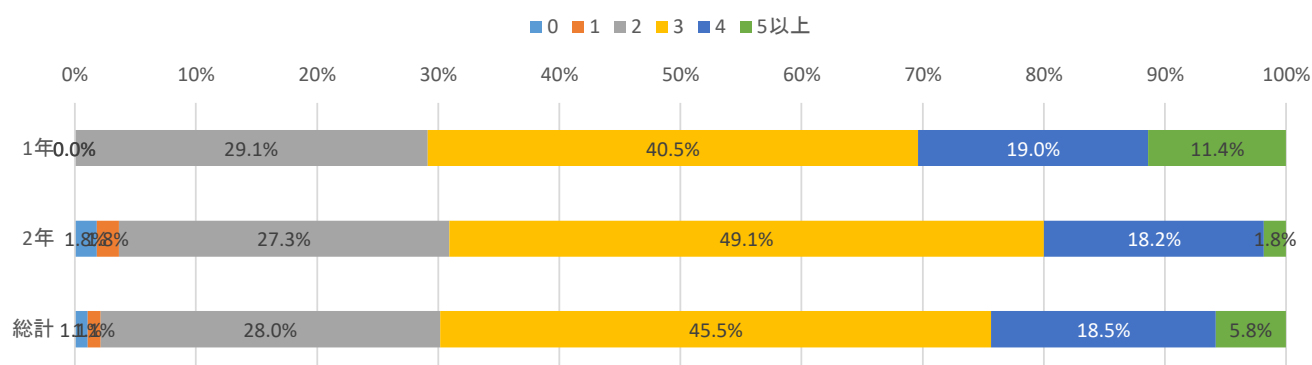
(13) 専門知識を実際の場面で使うことができる。



(14) 専門的スキルが身についている。

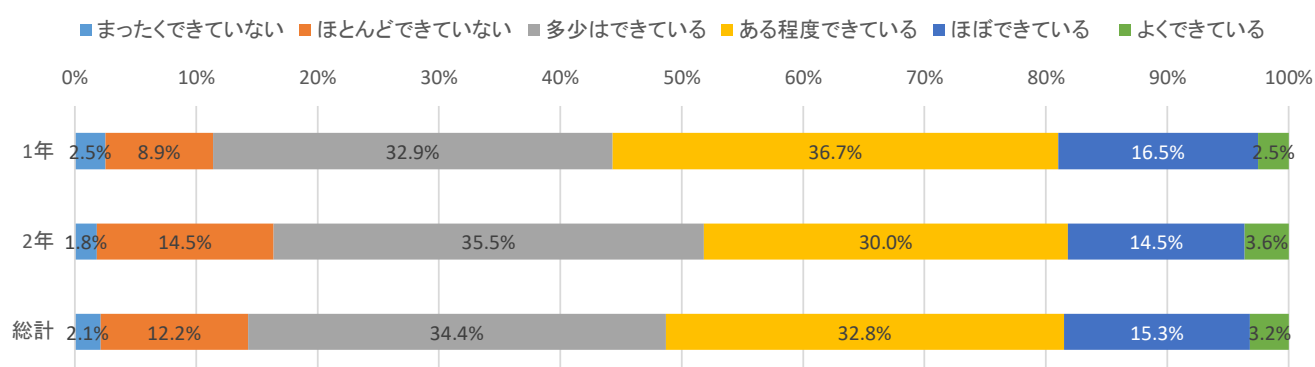


(15) 大学入学後に取得を目指している（取得した）免許・資格等はいくつありますか。

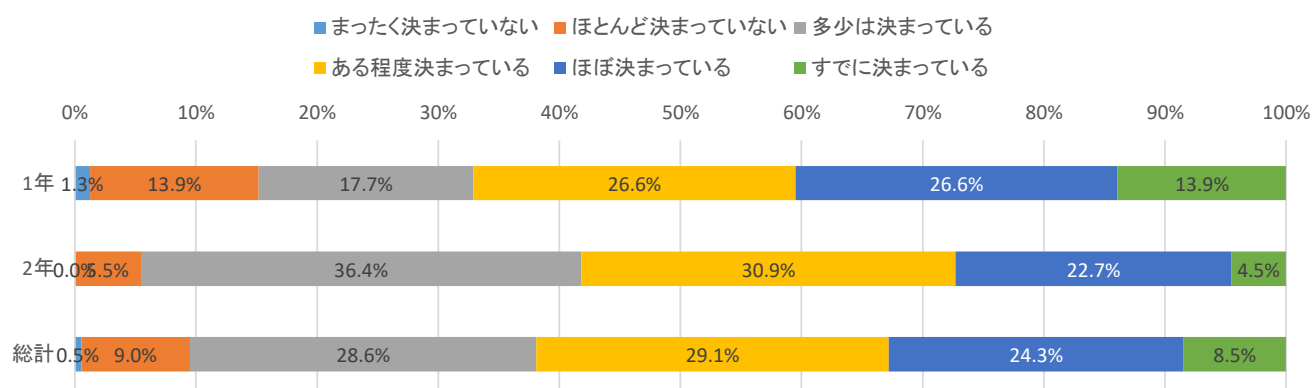


## 6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

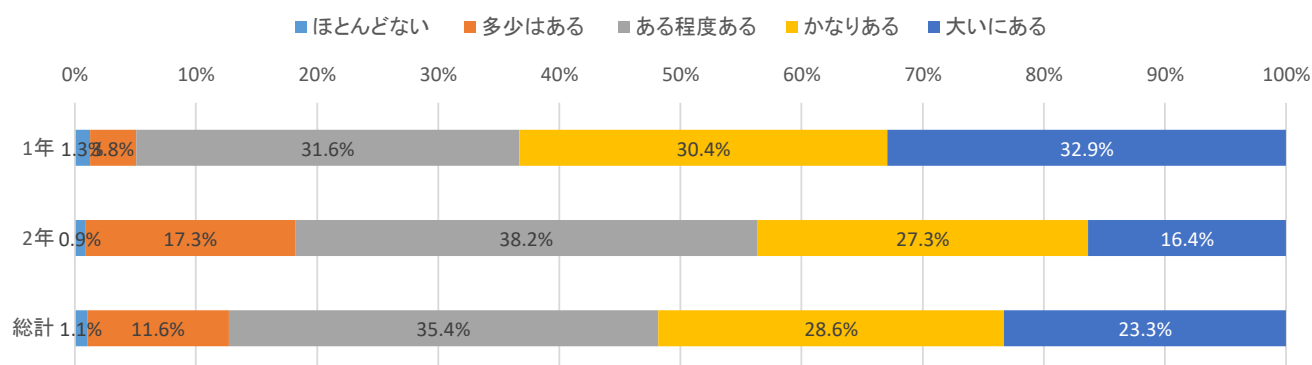
(16) 「社会で働く（保育者、一般就職）」ということについてどの程度イメージできていますか。



(17) 将来の進路（保育者、一般就職、進学など）はどの程度決まっていますか。

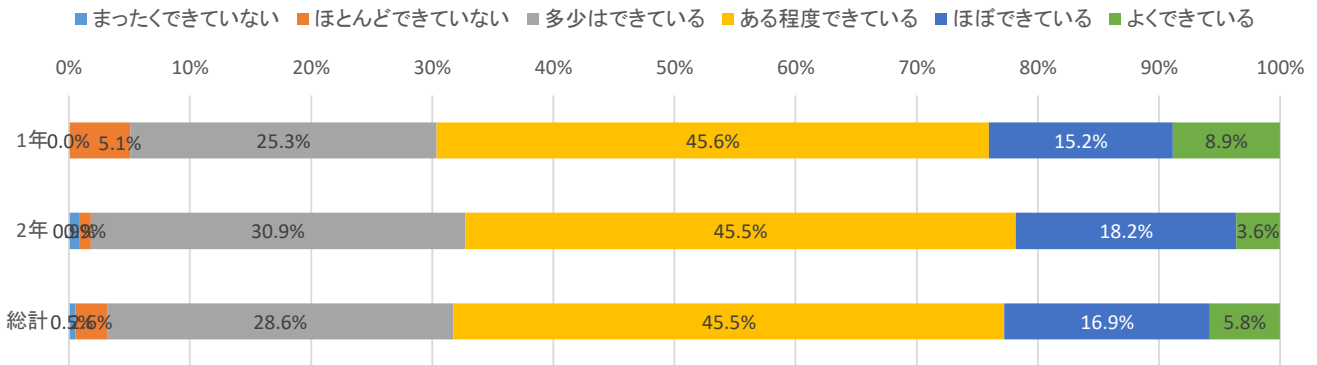


(18) 就職活動を最後まで頑張る自信はどの程度ありますか。

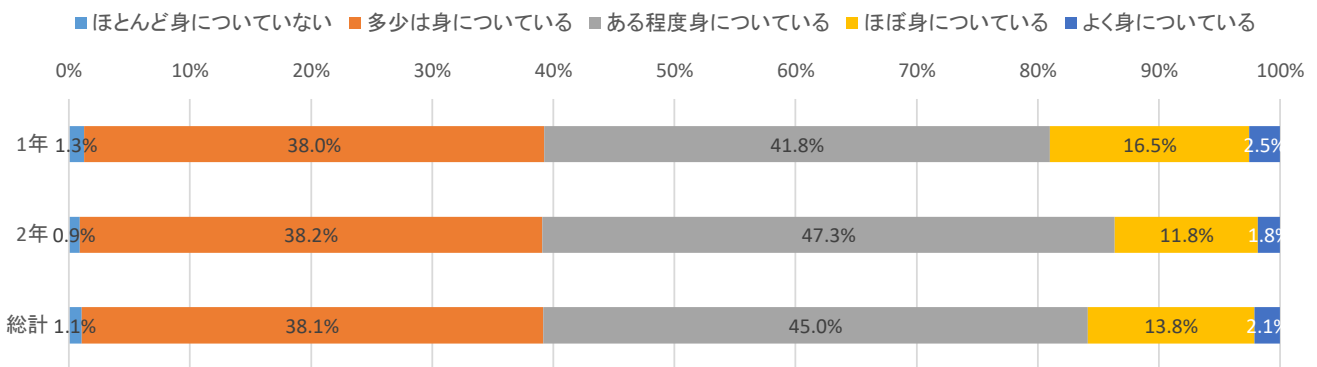


7. 総合力について— 短期大学での学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思いますか。

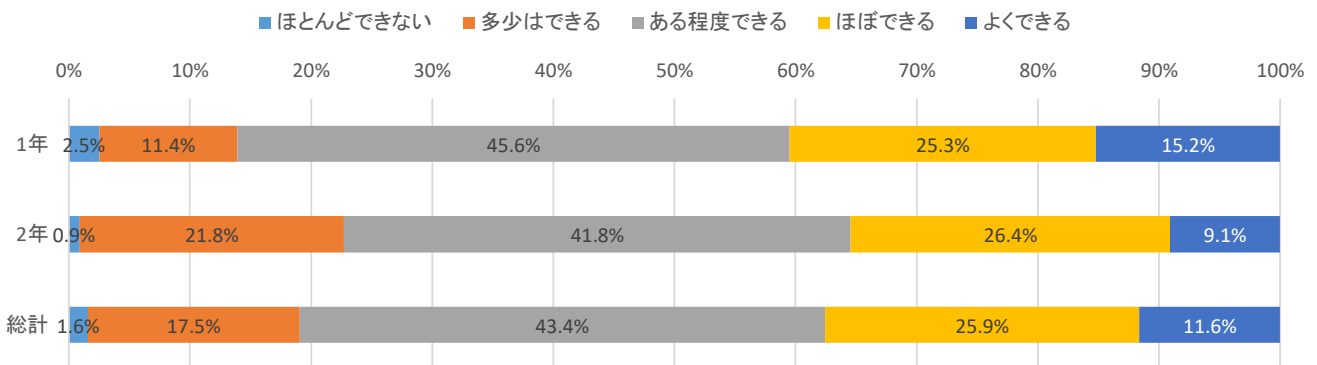
(19) 自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することが、どの程度できるようになりましたか。



(20) 社会人(保育者、一般就職)として仕事や活動を行うために必要な力はどの程度身につきましたか。

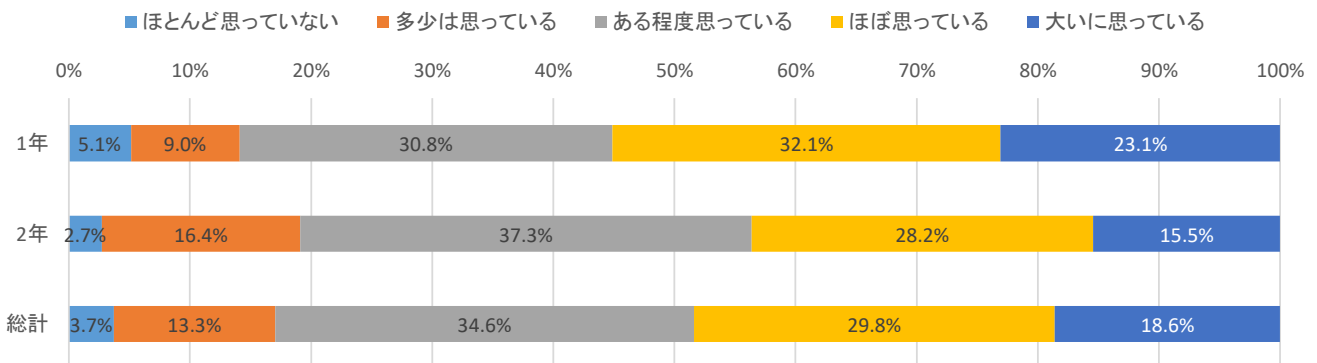


(21) 他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことは、どの程度できますか。



(22) 東京成徳短期大学に入学してどの程度よかったと思いますか。

(無効回答 1年:1)



## 2. 大 学

### (1) 大学全体

#### 1)-1 調査結果の概要と課題・対策

##### A 調査結果の概要

下記の「表Ⅱ-2-1 学修行動の概要」「表Ⅱ-2-2 学修成果の概要」および後掲の「1)-2 2022年度在学生の集計結果(図表)」により、2022年度在学生(1年生～4年生)の学修行動・成果の状況を整理すると、以下のようになる。

なお、表Ⅱ-2-1および表Ⅱ-2-2中の「①及第者の割合」は、各質問項目について、上位の選択肢を選んだ学生を「及第者」として、その割合がどの程度あるかを整理したものである。「②2年間の変化の傾向」は、及第者の割合が学年進行に伴って上昇傾向にあるのか低下傾向にあるかを整理したものである。最後に、①と②の括弧内の数字は、卒業年次である2年生の割合である。2年間の学修の結果として、及第者がどの程度の割合にまで到達したかを示している。

表Ⅱ-2-1 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④60%以上・6段階中上位3段階	⑤80%以上・6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	95.8% (91.2%)	78.4% (66.0%)	1-3年→3-4年↓
	授業が難しい	51.2% (35.8%)	9.9% (6.9%)	↓
	授業への積極的取組	94.8% (95.0%)	73.3% (68.6%)	1-4年↓ (2-3年↑)
	卒業の自信	91.4% (92.5%)	68.2% (82.4%)	↑
授業時間外	指示された課題	32.8% (25.2%)	14.7% (13.2%)	1-3年↑ 3-4年↓
	自発的な予習・復習	3.8% (7.5%)	1.6% (5.0%)	1-2年↓ 2-4年↑
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	85.4% (81.1%)		1-3年↑ 3-4年↓
	友達・知人との交流	70.0% (61.6%)		↓
	趣味	65.2% (66.0%)		1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓

表Ⅱ-2-2 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④6段階中上位3段階	⑤6段階中上位2段階	
精 神	建学の精神	59.8% (52.8%)	33.7% (28.9%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑ (1-2年>3-4年)
外国語	選択している・いた 読む・書く・会話	73.5% (71.1%)		1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
		30.7% (32.7%)	4.8% (8.8%)	1-2年→ 2-4年↑
ICT	文章作成・プレゼン	77.3% (87.4%)	31.6% (43.4%)	1-2年↓ 2-4年↑

	表計算	61.4% (66.0%)	18.8% (25.2%)	1-2年↓ 2-3年→ 3-4年↑
教養・基礎的 スキル	幅広い知識や教養	55.1% (62.3%)	8.7% (8.8%)	1-3年やや↑ 3-4年やや↓
	レポート・論文	56.9% (66.0%)	11.7% (20.8%)	↑
専門知識・ スキル	専門知識・スキルの理解	75.9% (80.5%)	15.8% (18.2%)	↑
	専門知識・スキルの使用	19.7% (28.9%)	18.8% (28.3%)	1-2年↓ 2-4年↑
キャリア・ 社会人基礎力	将来の進路	59.0% (66.7%)	28.0% (48.4%)	1-2年↓ 2-4年↑
	就活を頑張る	83.4% (81.6%)	57.7% (54.4%)	1-3年→ 3-4年↓
総合力	他者との協働	91.9% (93.7%)	61.7% (66.0%)	1-2年→ 2-4年↑
	課題発見と解決	86.0% (86.8%)	37.3% (44.7%)	↑
	ものの見方・考え方	82.3% (84.9%)	34.0% (40.3%)	1-3年ほぼ→ 3-4年↑
AP 適合性	学部の学びとの適合性	88.8% (88.1%)	46.6% (49.1%)	1-2年↓ 2-4年↑

## B 考察と課題

### 【学修行動】

#### ① 授業時間内について

大学全体では、「㉔60%以上・6段階中上位3段階」（以下、㉔という）および「㉕80%以上・6段階中上位2段階」（以下、㉕という）のどちらの基準からみても、「出席」「授業への積極的取組」「卒業の自信」では、及第者の割合は95.8%、78.4%であり、ほぼ良好な状態である。「授業が難しい」は㉔：51.2%、㉕：9.9%である。㉕が10%以下であり、「非常に難しい・難しい」と感じている学生の割合はわずかといえる。

学年進行に伴う変化では、「出席」は低下、「授業への積極的取組」も4年間では低下傾向であるのに対して、「卒業の自信」は上昇、「授業が難しい」と感じる学生は減少している。

以上から、4年次の到達割合は、㉕の基準で見ると、「授業が難しい」では6.9%、「卒業の自信」では82.4%、と相対的に良好な水準であり、また両者とも大学全体を上回っているため、一定の成果がみられるといえる。他方、「出席」では㉔、㉕とも大学全体を下回り、「授業への積極的取組」でも㉔は大学全体とほぼ同水準、㉕は下回っており、学修行動のあり方としては後退傾向といえる。

#### ② 授業時間外について

大学全体では、「指示された課題」は㉔：32.8%、㉕：14.7%、「自発的な予習・復習」は㉔：3.8%、㉕：1.6%、である。「指示された課題」が相対的には高い割合となっているが、全体として低位である。特に、後者の自発的な努力を必要とする学修はほとんど行われていないといえる。

学年進行に伴う変化では、「指示された課題」では1～3年にかけては上昇傾向にあるが、3～4年には低下傾向となっている。「自発的な予習・復習」は2～4年にかけてわずかに上昇しているが、そもそも絶対的な水準自体が低位である。

以上から、4年次の到達割合は、「指示された課題」では㉔：25.2%、㉕：13.2%と低水準である上に、大学全体も下回っており、成果が上がっているとはいえない。「自発的な予習・復習」では大学全体を上回っており、その限りでは学修成果が上がっているもといえそうだが、そもそも数値自体が㉔：7.5%、㉕：5.0%と極めて低位であり、改善の必要がある。

#### ③ 授業以外の活動について

大学全体では、「アルバイト」を行っている学生の割合が 85.4%と最も高く、次いで「友人・知人との交流」が 70.0%、「趣味」が 65.2%となっている。

学年進行に伴う変化では、「アルバイト」は 1～3 年にかけては上昇するが、3～4 年では低下している。「友人・知人との交流」は一貫して低下している。「趣味」は、増減を伴いながら全体では横ばい傾向である。

以上から、4 年次の到達割合は、「アルバイト」と「友人・知人との交流」では大学全体を下回る 81.1%、61.6%であり、「趣味」は大学全体とほぼ同水準の 66.0%となっている。「アルバイト」をする学生は、4 年次には若干減少するが、4 年間を通してほとんどの学生がアルバイトを行っているといえる。「友人・知人との交流」は、一貫して低下しているが、4 年次の低下幅が大きい。

#### ④ 総括

「出席」「授業への積極的取組」など「授業時間内」の学修については、多くの学生がきちんと取り組んでいる。ただし、「出席」「授業への積極的取組」は、学年進行に伴い数値が後退しており、その維持・好転が課題である。

「授業時間外」の学修に取り組む学生は少ない。特に、教員から指示された予習、復習とは別の自発的学修は極めて少ない。授業時間外での学修をいかに増やしていくかが課題である。

「授業以外」では、多くの学生がアルバイトを行っている。過度のアルバイトが学修の障害にならないよう、必要に応じてアドバイスや指導を行うことも必要であろう。

### 【学修成果】

#### ① 建学の精神

大学全体では、㉑：59.8%、㉒：33.7%であり、十分な水準とはいえない。

学年進行に伴う変化は、明確な傾向を持たないが、1・2 年生が相対的に高く、3・4 年生が低い。

以上から、4 年次の到達割合は、㉑、㉒とも大学全体を下回っている。

#### ② 外国語

大学全体では、何らかの外国語を「選択している・いた」学生は 73.5%と大半である。「読む・書く・会話」は、㉑：30.7%、㉒：4.8%と低水準である。

学年進行に伴う変化では、1 年次の「選択している・いた」の割合が高い。これは、今年度から経営学部で英語が必修となったためである。「読む・書く・会話」は 2～4 年次で上昇しており、その限りでは一定の成果が上がっているともいえるが、数値が最も高くなる 4 年次においても、㉑：32.7%、㉒：8.8%と低位である。

以上から、4 年次の到達割合は、「読む・書く・会話」では大学全体を上回っているが、超過幅はわずかであること、また、上記で述べたように数値の水準自体が低位であるので、全体的に見て成果が上がっているとはいえない状況である。

#### ③ ICT リテラシー

大学全体では、「文章作成・プレゼンテーション」は㉑：77.3%、㉒：31.6%と、相対的には高い水準にある。「表計算」では㉑：61.4%、㉒：18.8%であり、前者よりも低くなっている。

学年進行に伴う変化では、「文章作成・プレゼンテーション」は 2～4 年次では上昇しており、「表計算」では 1～2 年次に低下するが、3～4 年次に上昇し 4 年次で最も高位となっている。

以上から、4 年次の到達割合は、「文章作成・プレゼンテーション」「表計算」とも、相対的に高い水準ないしはまずまずの水準にあり（㉑：43.4%、㉒：25.2%）、また大学全体も上回っている。ICT リテラ



シーは、相対的には学修成果が上がっている分野といえる。ただし、「表計算」は「文章作成・プレゼンテーション」に対して低位となっており、さらに成果を高める必要がある。

#### ④ 教養・基礎的スキル

大学全体では、「幅広い知識と教養」は①：55.1%、②：8.7%であり、前者も高いとはいえないが、後者はかなり低位である。「レポート・論文」は①：56.9%、②：11.7%であり、同様な状態にある。

学年進行に伴う変化では、「幅広い知識と教養」は若干の変化はあるが、全体としては横ばい傾向である。「レポート・論文」は上昇している。

以上から、4年次の到達割合は、「幅広い知識と教養」では①：62.3%、②：8.8%と大学全体をやや上回っている。ただし、その超過幅は①で7.2%、②で0.1%にすぎない。十分な成果が上がっているとはいえないであろう。他方、「レポート・論文」では、4年次に①：66.0%、②：20.8%と大学全体を上回り、また、その超過幅も①で9.1%、②で9.1%であるので、相対的には一定の成果が上がっているといえよう。

#### ⑤ 専門知識・スキル

大学全体では、「専門知識・スキルの理解」は①：75.9%、②：15.8%であり、前者は高位であるが後者は低位である。「専門知識・スキルの使用」は①：19.7%、②：18.8%であり、両者とも低位である。

学年進行に伴う変化では、「専門知識・スキルの理解」は一貫して上昇しており、「専門知識・スキルの使用」は、2～4年次に上昇している。

以上から、4年次の到達割合は、「専門知識・スキルの理解」は①：80.5%、②：18.2%と大学全体を上回っている。ただし、超過幅は2.4%、4.7%である。「専門知識・スキルの使用」は①：28.9%、②：28.3%と大学全体を上回るとともに、超過幅も10%前後となっている。両者を合わせてみれば、学修成果は若干上がっているといえよう。ただし、「理解」の②、「使用」の①の水準自体はさらに引き上げる必要がある。

#### ⑥ キャリア・社会人基礎力

大学全体では、「将来の進路」は①：59.0%、②：28.0%であり、前者はやや低位である。他方、後者は一定程度の水準といえる。「就活を頑張る」は①：83.4%、②：57.7%であり、前者は高位、後者も相対的には高位といえる。

学年進行に伴う変化では、「将来の進路」は2～4年次では上昇している。「就活を頑張る」は3～4年次でやや低下している。実際に就活をはじめ、その厳しさを体験したことが影響しているものと考えられる。

以上から、4年次の到達割合は、「将来の進路」は①：66.7%、②：48.4%と大学全体を上回っており、特に後者の超過幅は20.4%と大幅である。ただし、4年次の7月時点ということを考慮すると、これらの数値で十分といえるかどうか、やや出遅れの傾向があるようにも思われる。他方、「就活を頑張る」は①：81.6%、②：54.4%と大学全体を下回っている。数値自体も、②については、4年次の7月時点としては低位とも思われる。実際に就活の苦労を体験したことの影響が、ここでも現れているものと思われる。

#### ⑦ 総合力

大学全体では、「他者との協働」は①：91.9%、②：61.7%であり、ともに高位である。「課題発見と解決」は①：86.0%、②：37.3%であり、前者は高位、後者もまずまずの水準である。「ものの見方・考え方」は①：82.3%、②：34.0%であり、前者は高位、後者もまずまずの水準である。

学年進行に伴う変化では、「他者との協働」「課題発見と解決」は4年間を通して上昇している。「も

の「見方・考え方」も2～4年次に上昇している。全体的に学修成果が上がっている分野といえる。

以上から、4年次の到達割合は、「他者との協働」は④：93.7%、⑤：66.0%、「課題発見と解決」は④：86.8%、⑤：44.7%、「ものの見方・考え方」は④：84.9%、⑤：40.3%と大学全体を上回っており、しかも、数値自体も他の項目に比べて高位、超過幅は0.7%～7.4%である。全体的に見て、4年間の学修成果が最も確認できる分野といえる。

### ⑧APとの適合性

大学全体では、④：88.8%、⑤：46.6%であり、前者は高位、後者も一定水準にあるといえる。ただし、APとの適合性は学修意欲のあり方に大きな影響を与えるので、⑤についてはさらに引き上げる努力が必要である。

### ⑨総括

「建学の精神」の理解は一定程度進んでいるが、必ずしも十分とはいえない。オープンキャンパスや入学式などにおける説明だけでなく、入学後にも、各年度のオリエンテーション開催時などで、定期的に説明をする機会を作っていくことが必要である。さらに、可能であれば、全学生を対象に「建学の精神」や「大学の教育理念」を基本テーマとした教養科目の開設などを検討してみてもどうか。

学修成果について、相対的に最も成果が上がっているといえるのは「ICTリテラシー」「キャリア・社会人基礎力」「総合力」であり、次いで「教養・基礎的スキル」「専門知識・スキル」、最後に「外国語」である。大学教育のコア分野といえる「外国語」「教養・基礎的スキル」「専門知識・スキル」において成果が相対的に低く、「ICTリテラシー」「キャリア・社会人基礎力」「総合力」において成果が相対的に高い。コア分野の教育成果をいかに高めるかが依然として課題である。これについて、一例として、以下を検討してみてもどうか。

専門知識・スキルについては、これを高めることはもともと大学教育の中心課題であるが、昨今の急速な技術革新の進展を背景に、その重要性はますます高まっている。現在、各学部は、「専門知識・スキル」のほかに、「外国語」「ICTリテラシー」「教養・基礎的スキル」「キャリア・社会人基礎力」「総合力」とさまざまな教育分野を担当しており、その守備範囲は相当に広がっている。限られた人材で、これらを効果的に管理・運営していくことは、ますます困難になっていくと思われる。そこで、この際は、各学部は有限な人的資源を、学部本来の目的である専門教育の管理・運営に集中させ、「外国語」「ICTリテラシー」「教養・基礎的スキル」などの教育は、学部とは別に全学的教育組織などを設けて、そちらに運営を任せるなどを検討してみてもどうか。

外国語教育については、いかに効果的な授業を行い成果をあげるのかが、大学の長年の課題となっている。従来通りのテキスト講読や文法解説などの授業ではもはや効果は期待できず、それ以上の工夫が必要となっている。

第1に、従来、語学教育は外国語が得意な教員が担当していたが、単に外国語が得意というのではなく、「外国語教育の専門家」が担当する授業数を増やしてはどうか。

第2に、本学ではグローバル教育センターがネイティブ講師を招いて正課外・語学講座を開講している。多くの学科が、これを積極的に利用してはどうか。

第3に、さらに語学を本格的にマスターしたい学生には、同じくグローバル教育センターが主催する各種留学制度、特に長期の留学制度を多くの学科が利用してはどうか。

ICTリテラシーは、他の学修分野に比べて学修成果が相対的に上がっている分野である。ICTリテラシーは、外国語などと異なり、短期間に学修効果を上げやすい分野と考えられる。また、高度情報化の進展の中で、高度なICTリテラシーの重要性はますます高まっているが、その分野の人材不足がますます

目立つようになっている。そこで、大学として、短期間にも明確な形で学修成果を上げていくために、この分野の教育を充実させるプログラムを検討してみてもどうか。

例えば、日本ではデータサイエンスに関する教育が遅れており、この分野の人材育成が喫緊の課題とされている。データサイエンスといえば、理工系の学部・学科が扱う分野と思われがちだが、昨今は文科系の大学がデータサイエンス学部を開設する例も見られる。

データサイエンスの高度な理論や技術自体に深く立ち入っていく場合は、文科系の学部・学科には不向きと思われるが、データサイエンスを社会のさまざまな問題解決にいかに応用・活用していくかなどの観点からこれを学ぶということであれば、文科系の学部・学科においてもデータサイエンスを活かす方法はあるのではないだろうか。

**AP との適合性**は、一定水準にあるといえるが、必ずしも十分ともいえない。AP との適合性は、入学後の学修意欲の維持・向上、それによる中退学防止のためにも重要な要因である。AP に適合する学生を確保するためには、まずは入学試験において AP に基づいた選抜を的確に行うことが不可欠であるが、それだけでは十分とはいえないであろう。AP との適合性は、入学後に学生の興味・関心に応える授業をいかに行っていくかによっても大きく左右されるからである。FD 活動やそれにもとづく授業改善等に際して、AP との適合性の向上を目標指標の一つに加えてみるのもどうか。

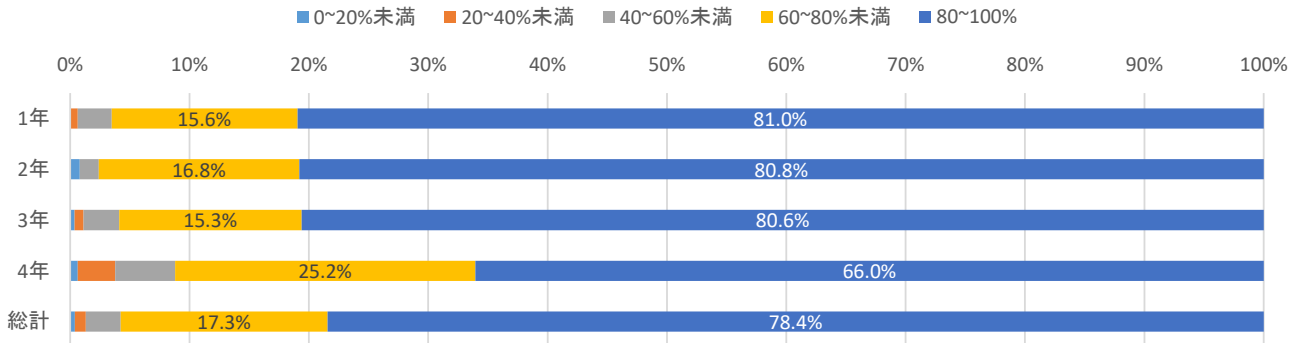
1) - 2 2022年度在学生の集計結果 (図表) 大学全体

【学修行動調査】

1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

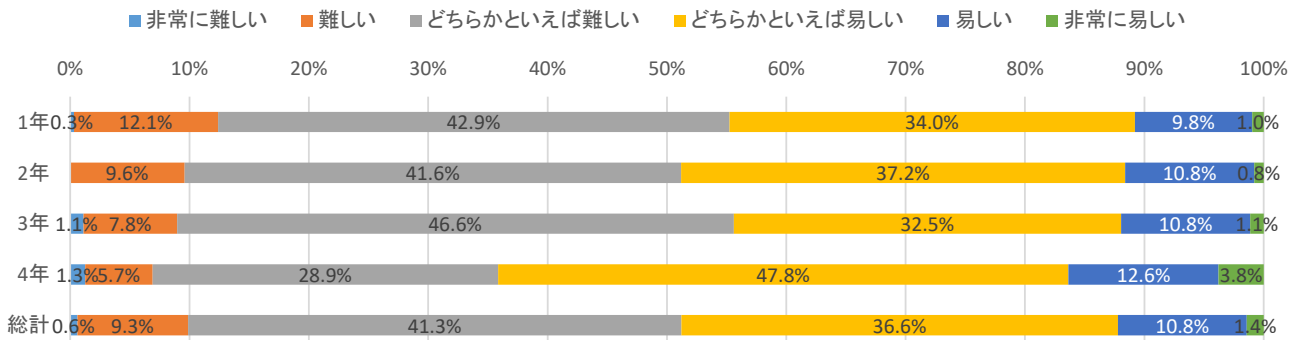
(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など)

(無効回答 3年: 1)



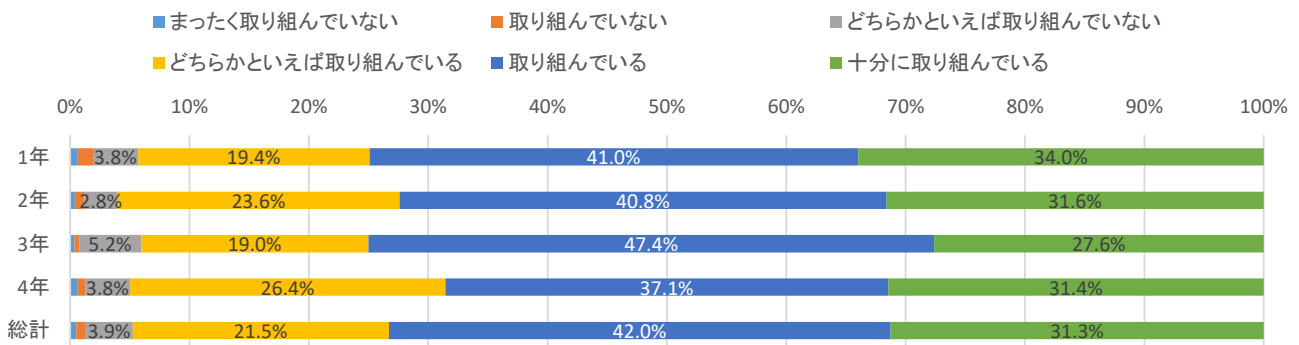
(2) 授業全体の難易度

(無効回答 3年: 1)



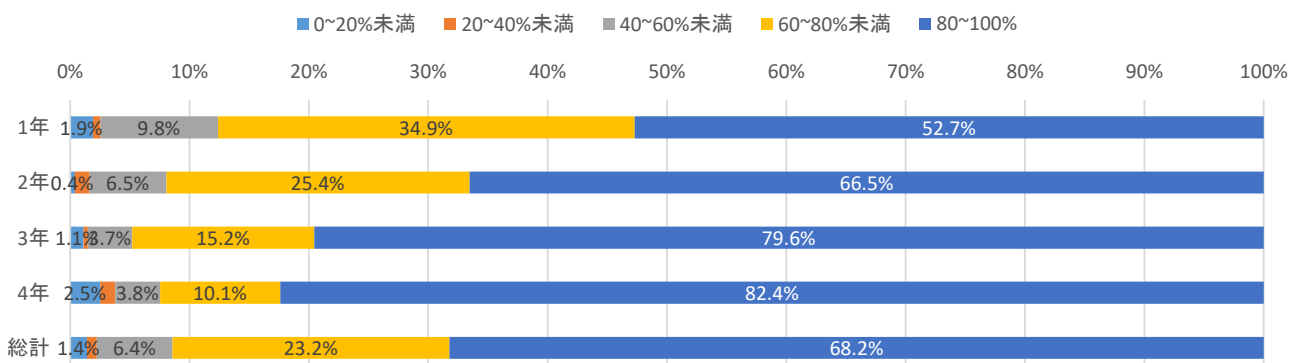
(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み

(無効回答 3年: 1)



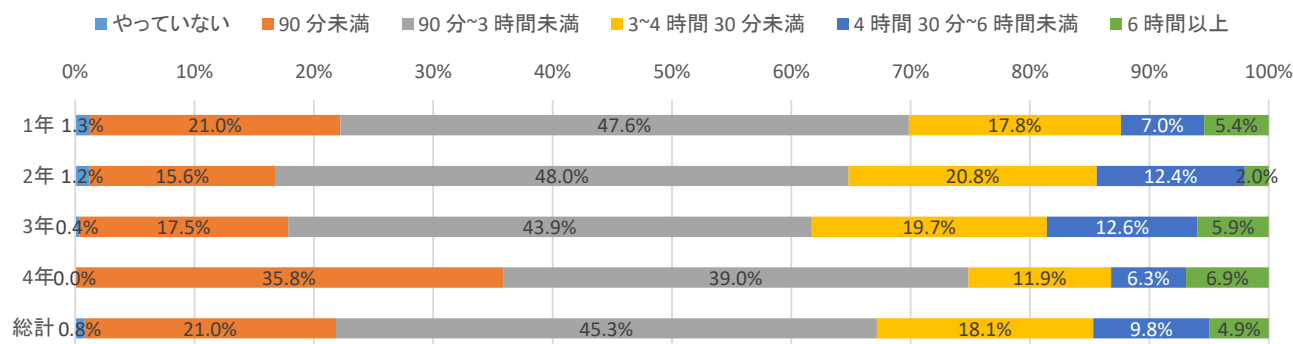
(4) 4年間で卒業できる自信

(無効回答 2年: 2)

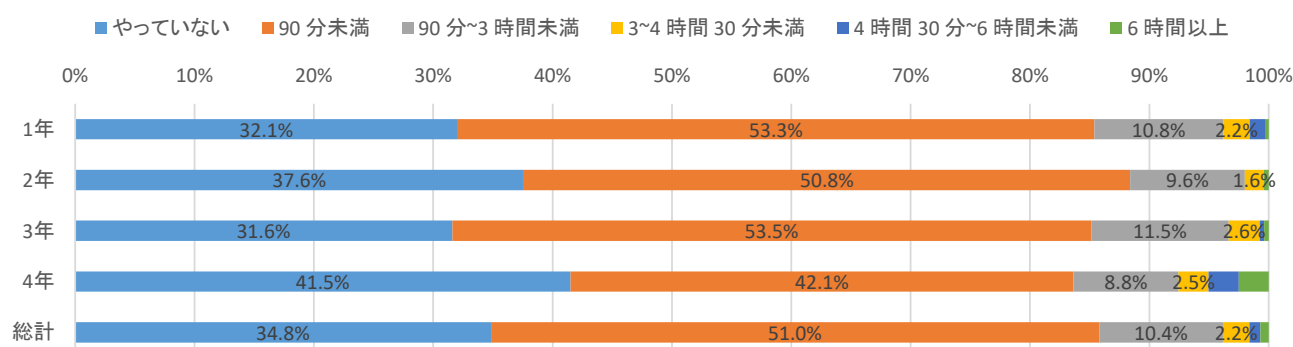


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備、課題やレポート、宿題などをのくくらいやりましたか

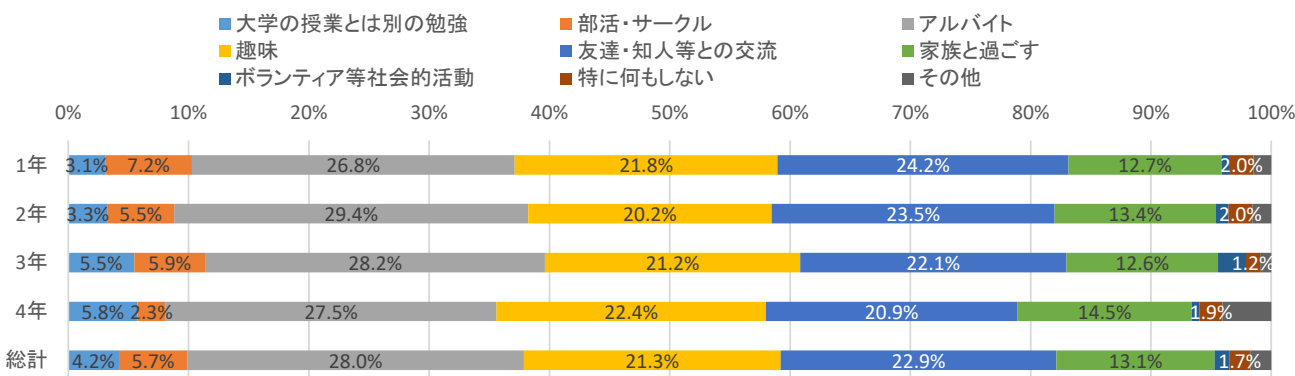


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習

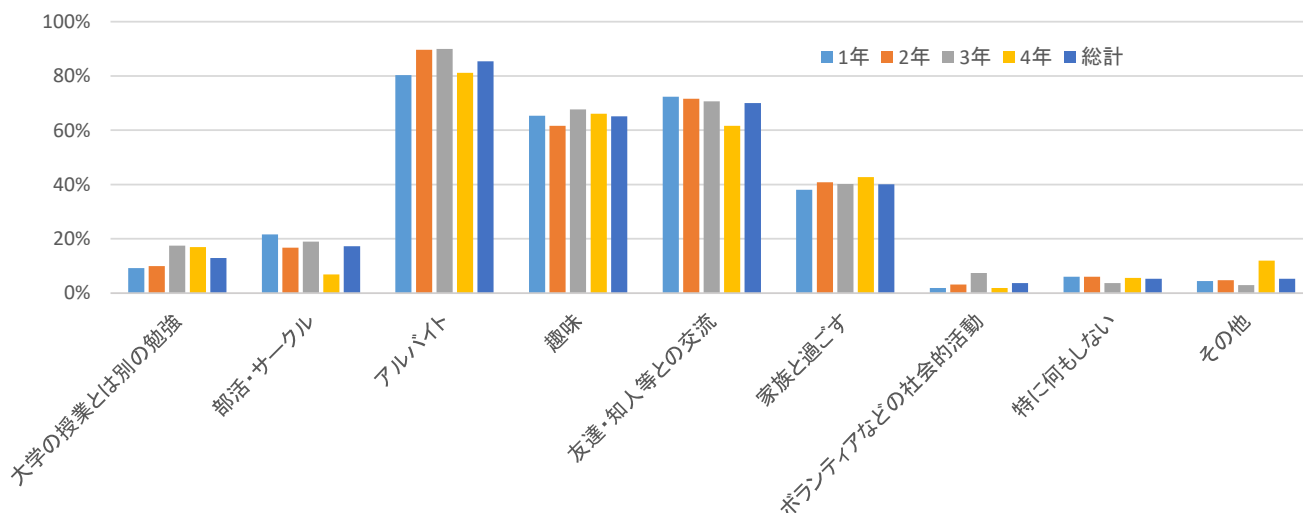


## 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



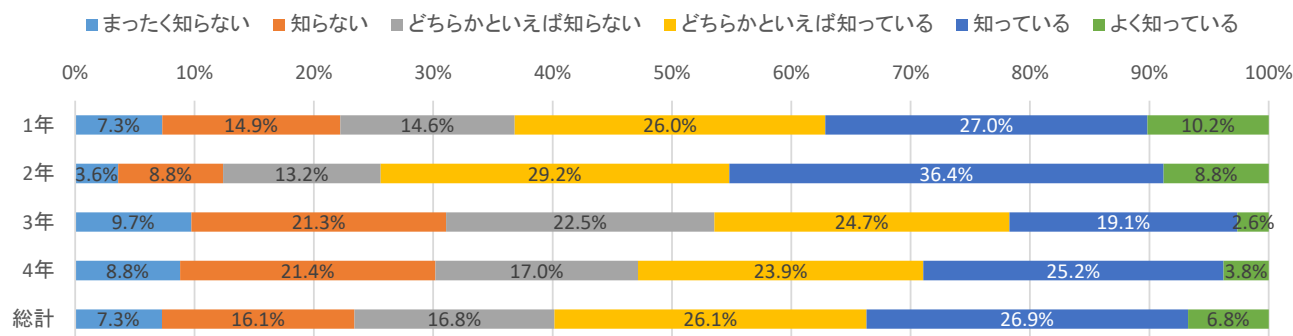
(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答者数に占める各選択肢の回答割合



【学修成果調査】 大学全体

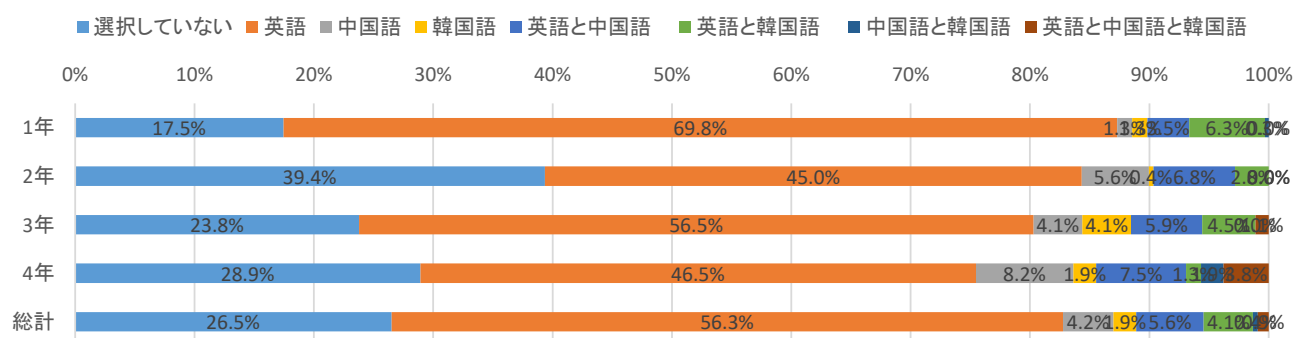
1. 教育理念について

(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか (無効回答 3年：2)

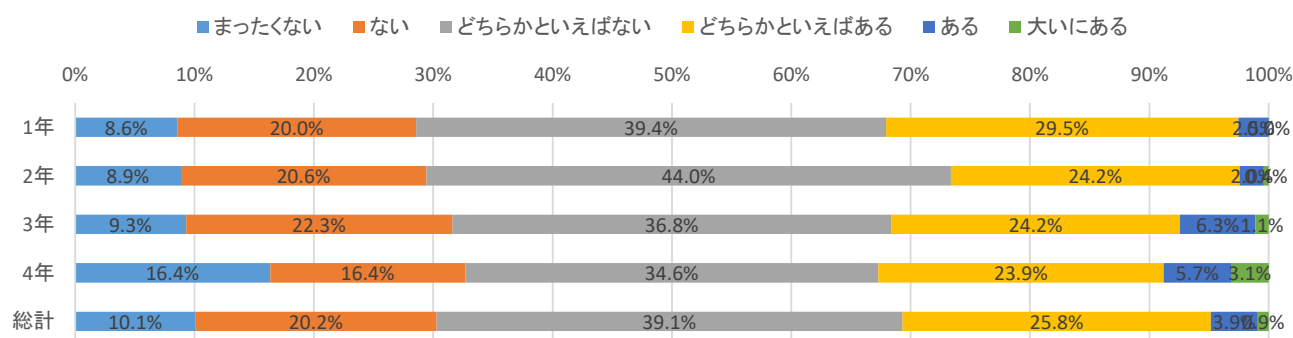


2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか (無効回答 2年：1)

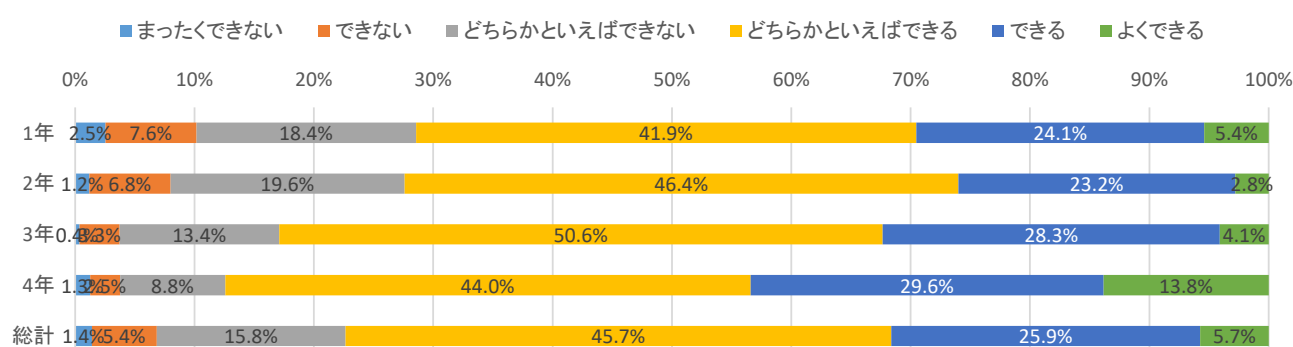


(3) 外国語を読む・書く・話す力 (無効回答 2年：2)



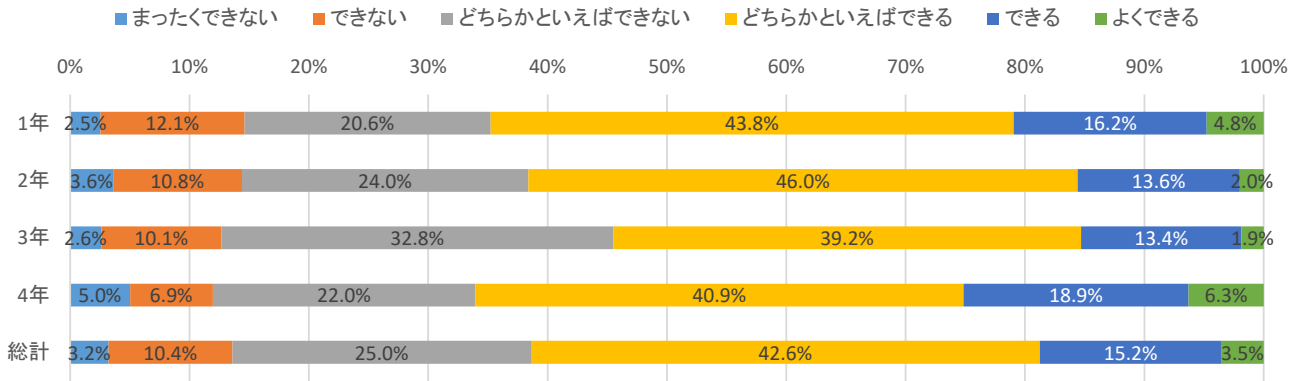
3. ICTリテラシー (=情報機器やインターネットを使う能力) について

(4) 文章作成ソフト (Wordなど) やプレゼンテーションソフト (Power Pointなど)



(5) 表計算ソフト (Excelなど)

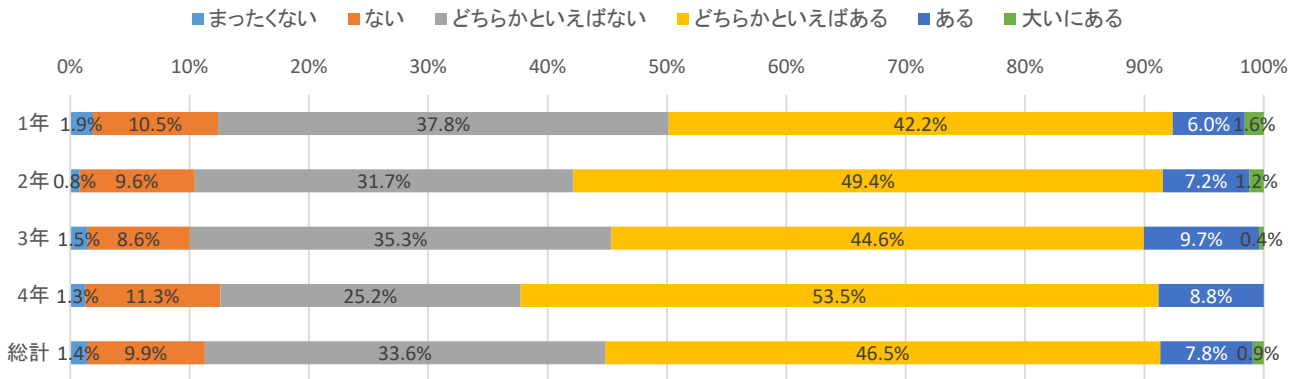
(無効回答 3年: 1)



4. 教養・基礎的スキルについて

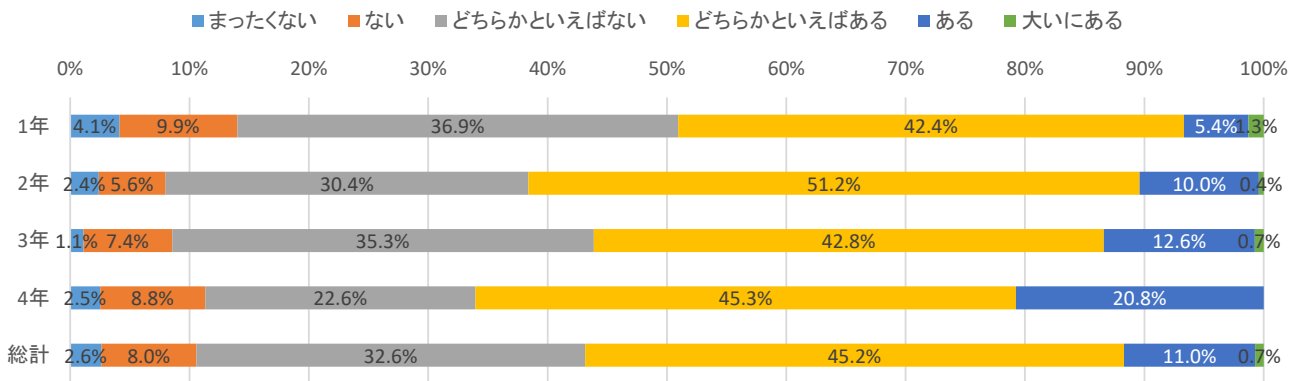
(6) 専門分野の知識とは別の幅広い知識や教養

(無効回答 2年: 1)



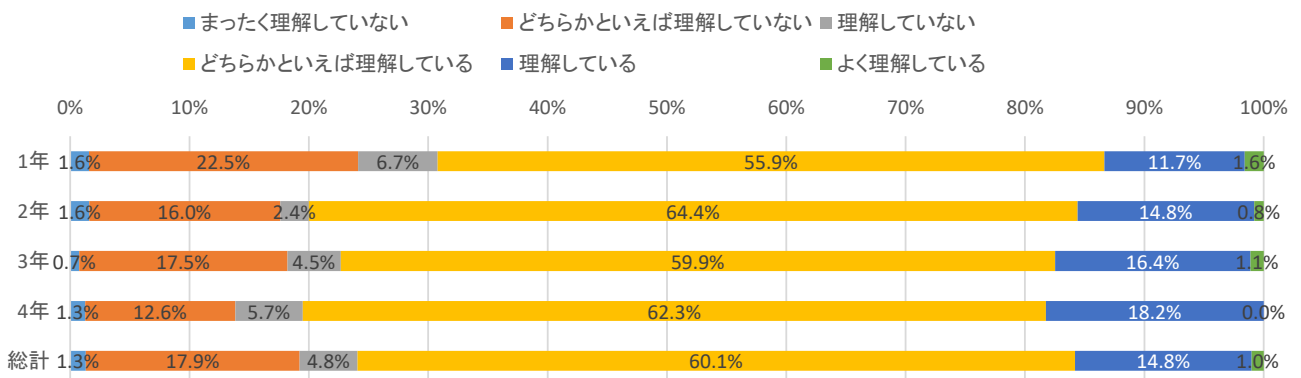
(7) レポートや論文作成に必要なスキル(文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など)

(無効回答 1年: 1)



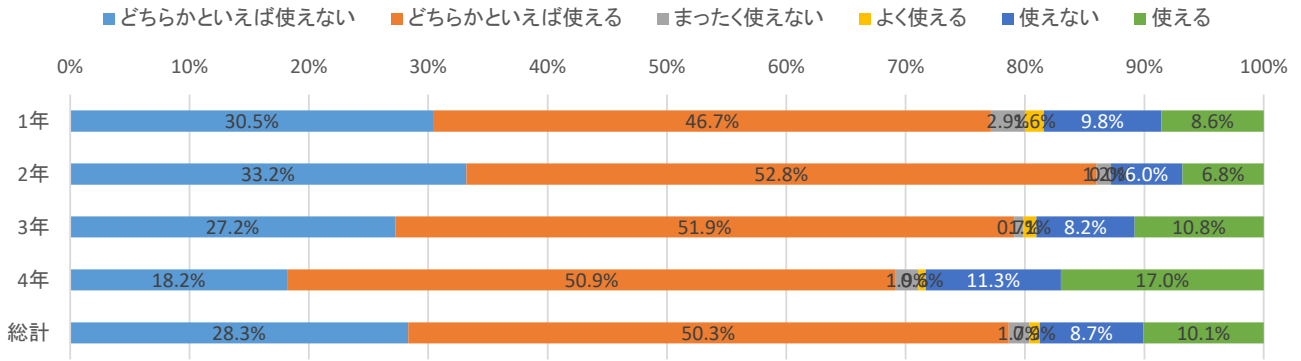
5. 専門知識・専門的スキルについて

(8) 専門知識をどの程度、理解したり身につけたりしていますか



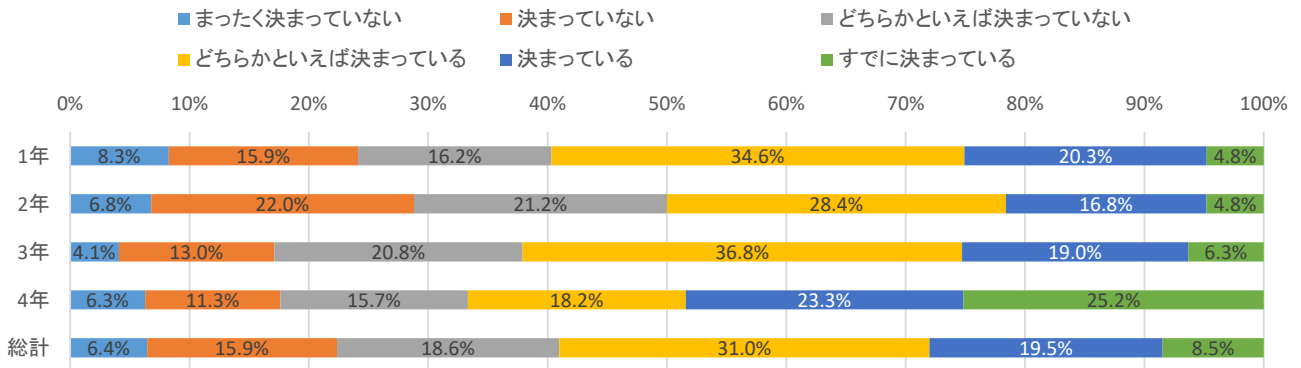
(9) 専門知識を実際の場面で使うことがどの程度できますか

(無効回答 3年：1)

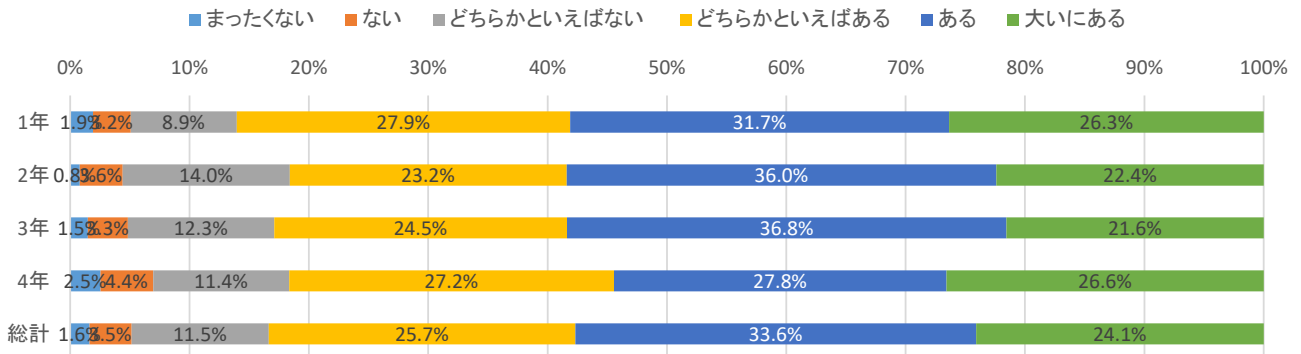


6 キャリア形成について

(10) 将来の進路（職業、進学など）がどの程度決まっていますか



(11) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか

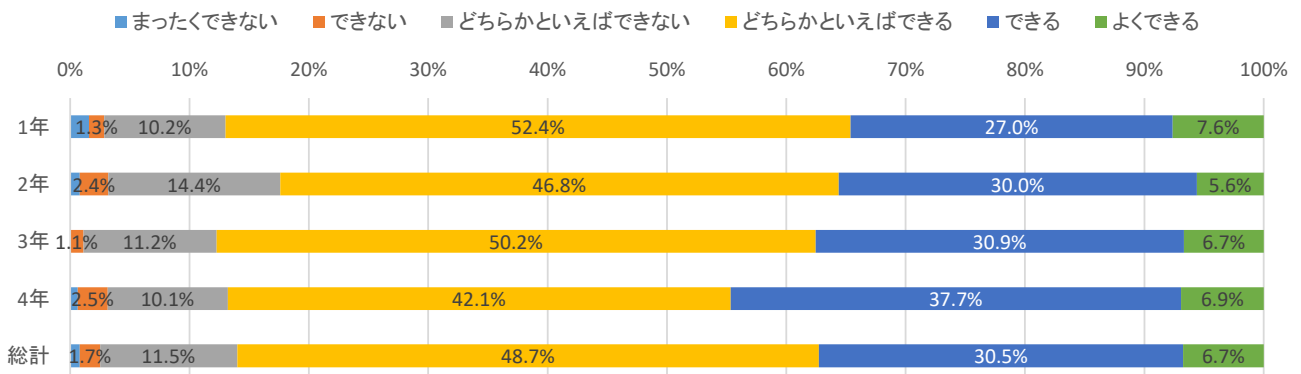


7. 総合力について

・「学修成果」に関する上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えください。

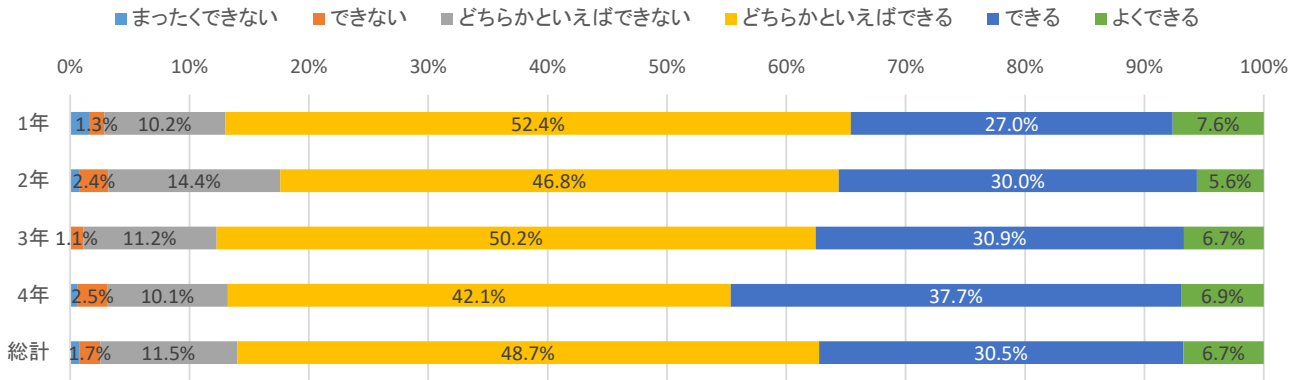
(12) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する

(無効回答 4年：1)



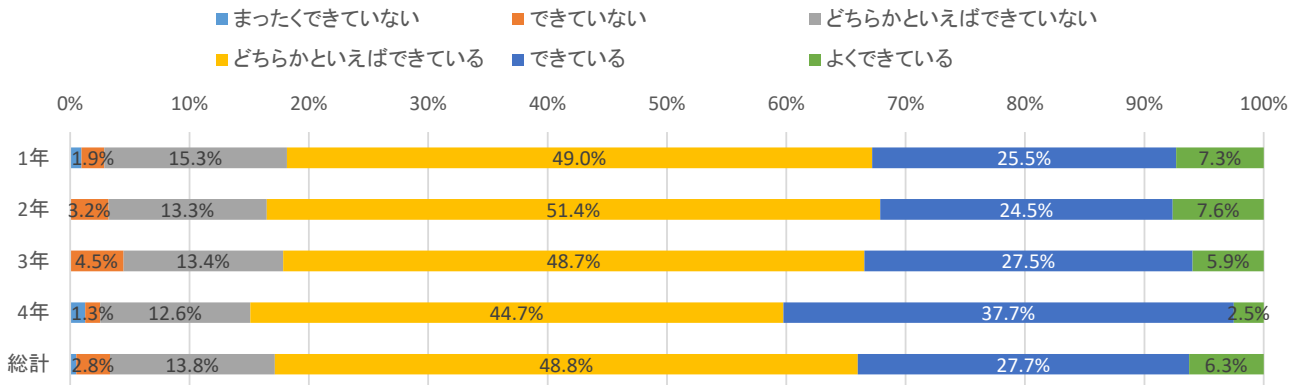


(13) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える

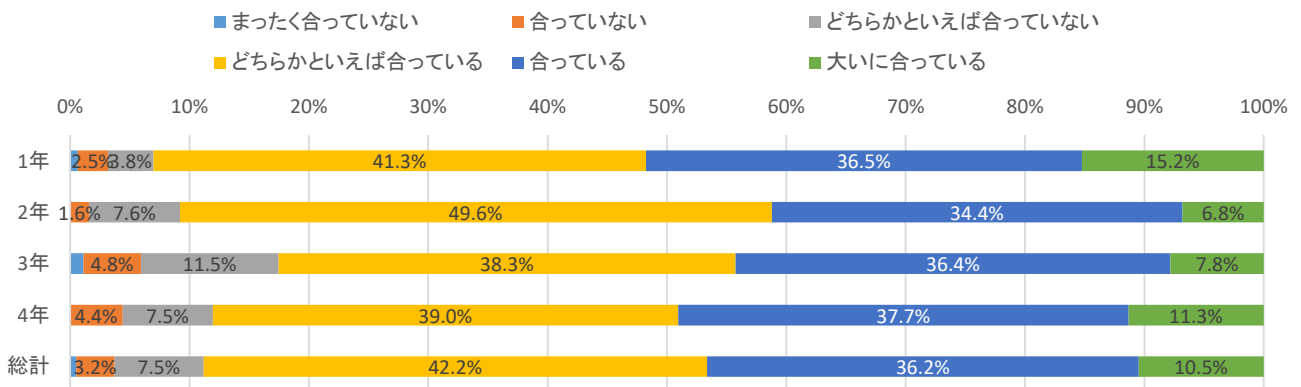


(14) 自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げる

(無効回答 1年：1、2年：1)



(15) 興味関心や資質・適性からみて学部での学びは自分にどの程度合っているか



## (2) 2022 年度在学学生 学科別の集計結果

### 2)-1 国際学科

#### A 調査結果の概要

下記の表の見方については、本報告書の p.19 をご参照ください。

表Ⅱ-2-(2)-1 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (1・3・4年生の比較)
		④60%以上、6段階中上位3段階	⑤80%以上、6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	94.1% (85.2%)	73.5% (51.9%)	↓
	授業が難しい	47.1% (37.0%)	9.8% (11.1%)	1-3年↗ 3-4年↓
	授業への積極的取組	98.0% (96.3%)	80.4% (70.4%)	↓
	卒業の自信	94.1% (96.3%)	79.4% (88.9%)	↗
授業時間外	指示された課題	25.5% (11.1%)	6.9% (3.7%)	↓
	自発的な予習・復習	5.9% (7.4%)	2.0% (3.7%)	1-3年↓ 3-4年↗
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	80.4% (88.9%)		↗
	趣味	75.5% (63.0%)		↓
	友達・知人との交流	67.6% (70.4%)		1-3年↓ 3-4年↗

表Ⅱ-2-(2)-2 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

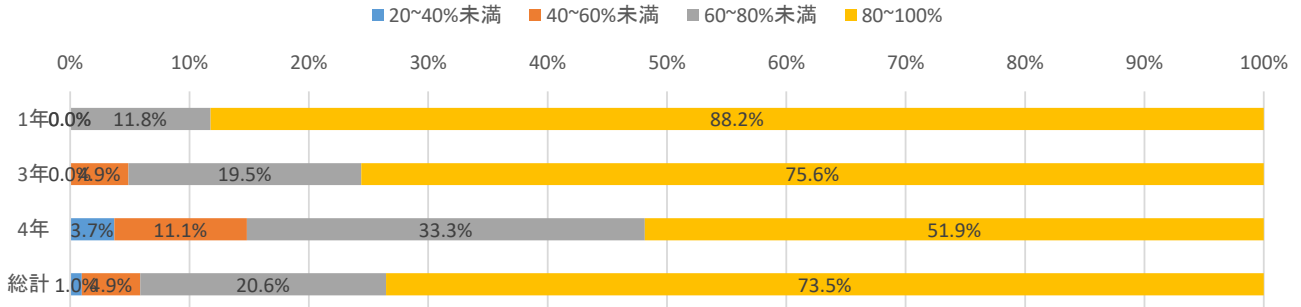
		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向 (在学生の学年間較)
		④6段階中上位3段階	⑤6段階中上位2段階	
精神	建学の精神	52.9% (59.3%)	31.4% (44.4%)	1-3年↓ 3-4年↗
外国語	選択している・いた	99.0% (96.3%)		1-3年→ 3-4年↓
	読む・書く・会話	78.4% (92.6%)	26.5% (40.7%)	↗
ICT	文章作成・プレゼン	89.2% (100.0%)	52.9% (77.8%)	↗
	表計算	73.5% (85.2%)	29.4% (44.4%)	1-3年↓ 3-4年↗
教養・基礎的スキル	幅広い知識や教養	59.8% (77.8%)	10.8% (11.1%)	1-3年↗ 3-4年↓
	レポート・論文	59.8% (74.1%)	12.7% (25.9%)	↗
専門知識・スキル	専門知識・スキルの理解	70.6% (92.6%)	15.7% (22.2%)	1-3年↓ 3-4年↗
	専門知識・スキルの使用	65.7% (85.2%)	18.6% (25.9%)	1-3年↓ 3-4年↗
キャリア・社会人基礎力	将来の進路	50.0% (66.7%)	18.6% (40.7%)	↗
	就活を頑張る	74.5% (77.8%)	52.0% (66.7%)	1-3年→ 3-4年↗
総合力	他者との協働	94.1% (96.3%)	67.6% (85.2%)	↗
	課題発見と解決	91.2% (96.3%)	49.0% (70.4%)	1-3年↓ 3-4年↗
	ものの見方・考え方	84.3% (92.6%)	40.2% (55.6%)	1-3年↓ 3-4年↗
AP適合性	学部の学びとの適合性	88.2% (92.6%)	51.0% (55.6%)	1-3年↓ 3-4年↗

B 集計結果 (図表) 国際学科

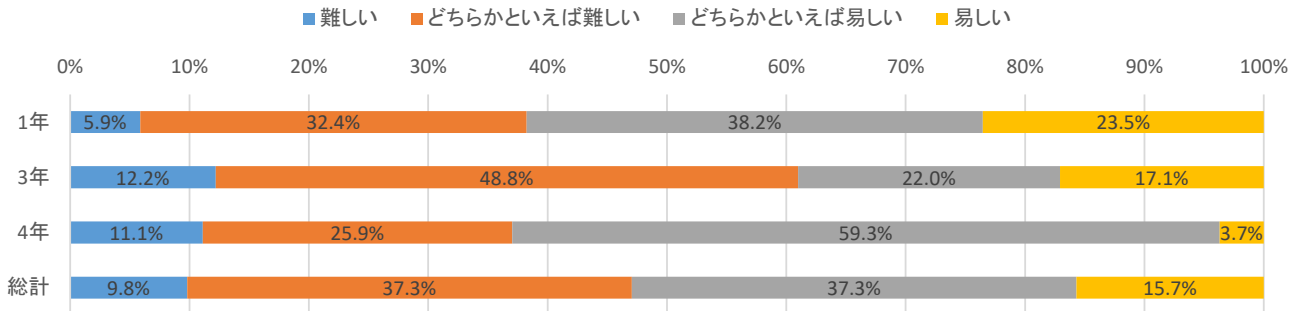
【学修行動調査】

1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

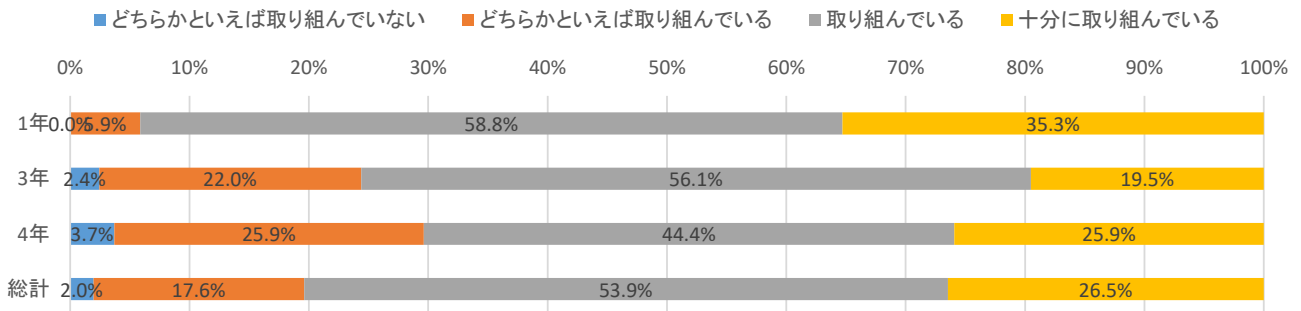
(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など)



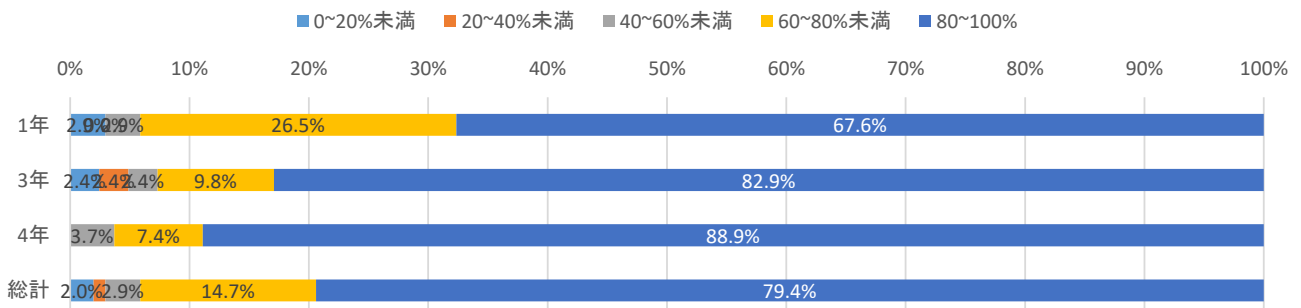
(2) 授業全体の難易度



(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み

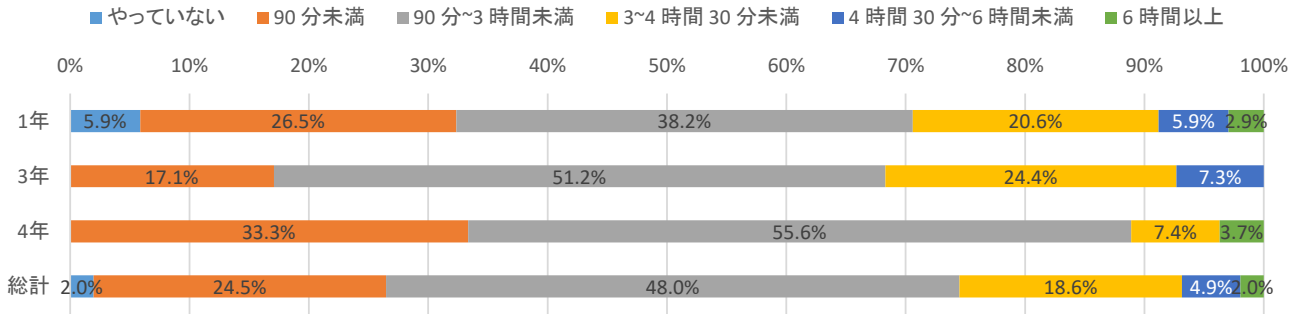


(4) 4年間で卒業できる自信

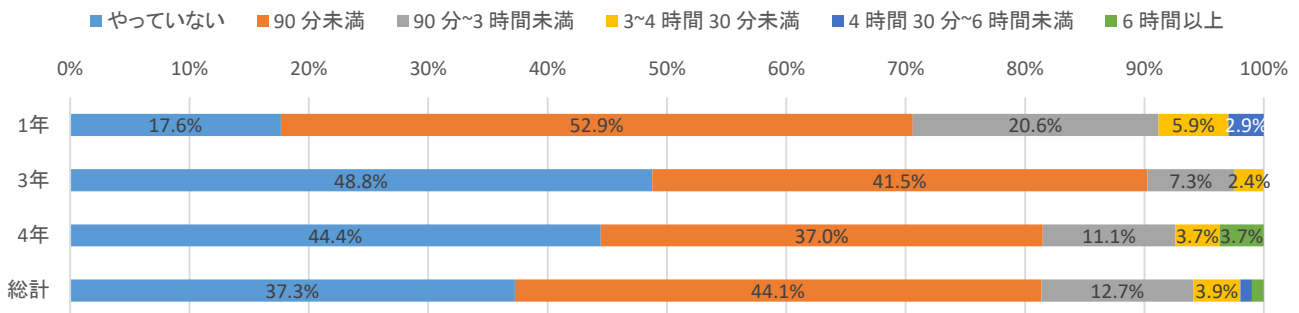


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備、課題やレポート、宿題などをのくくらいやりましたか

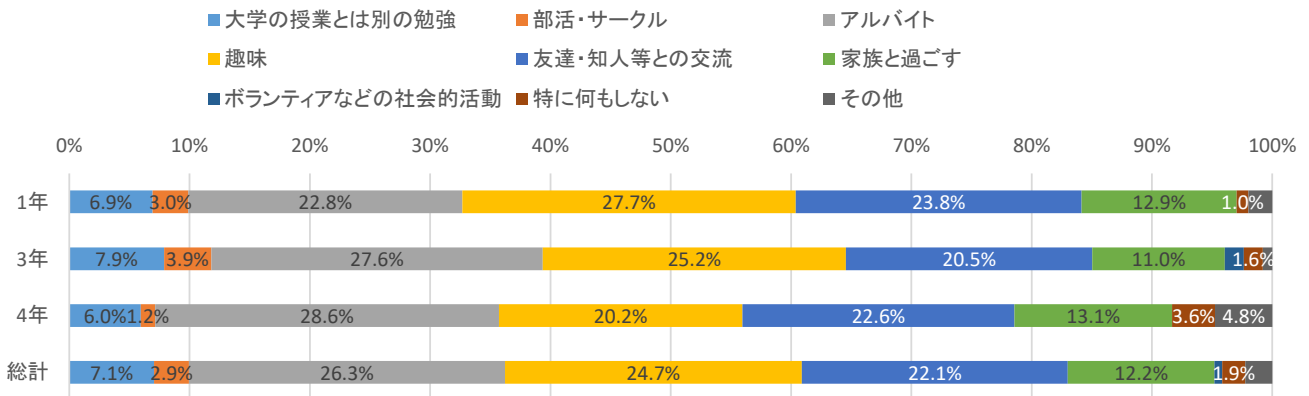


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習

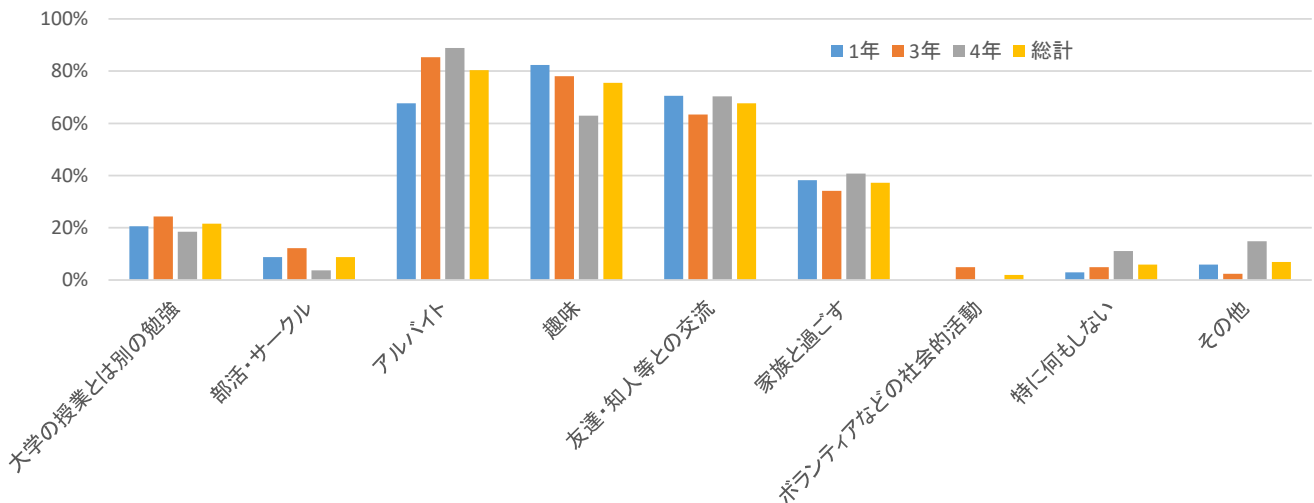


## 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



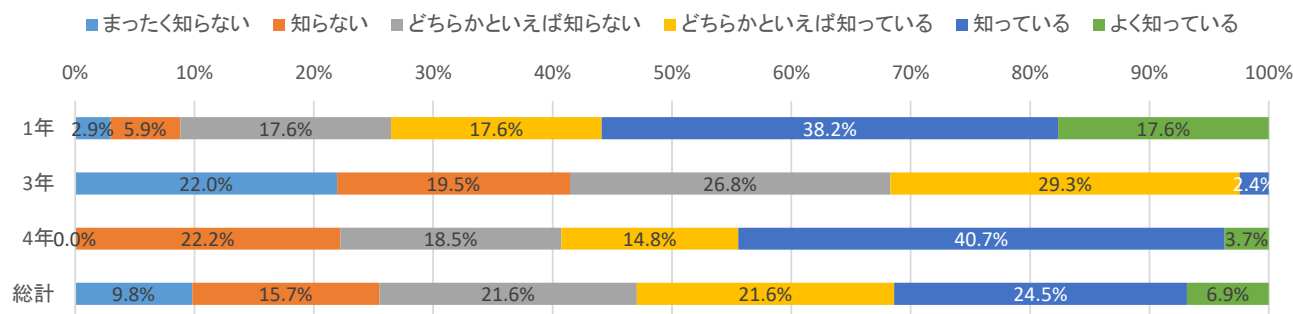
(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答者数に占める各選択肢の回答割合



【学修成果調査】 大学全体

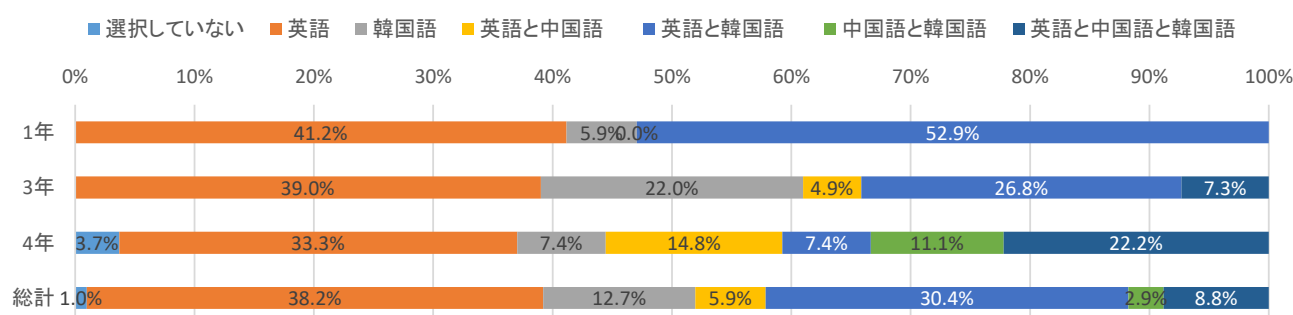
1. 教育理念について

(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか

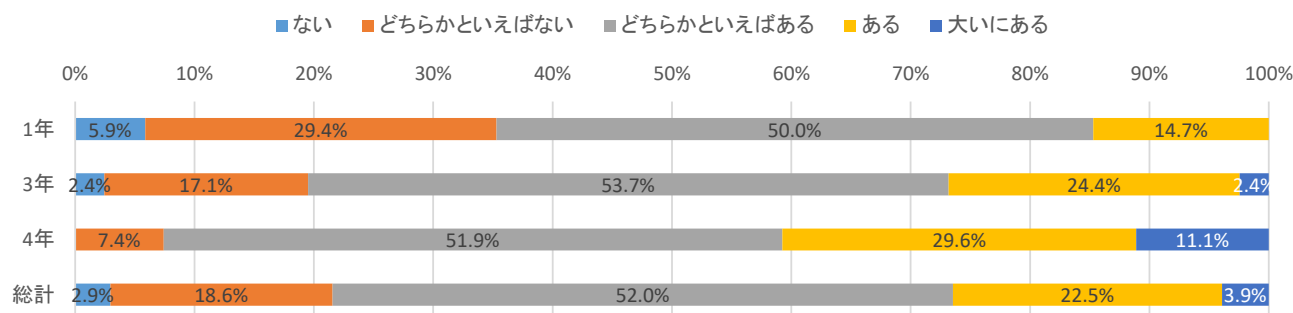


2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか

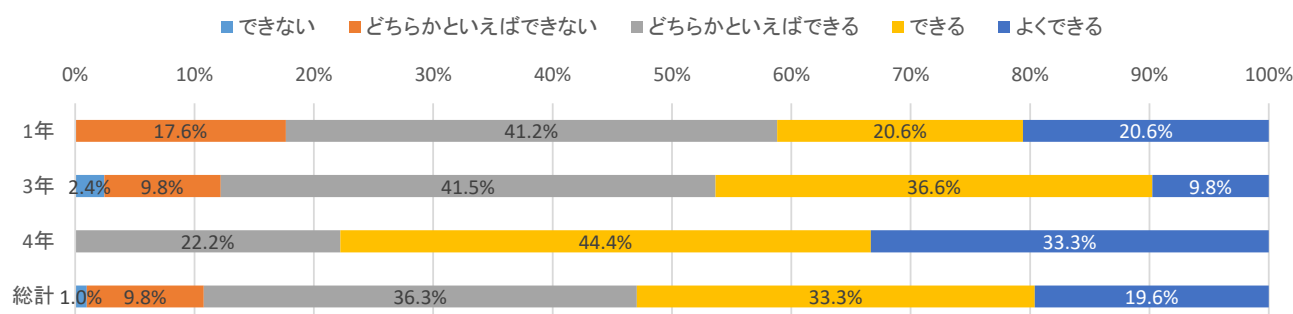


(3) 外国語を読む・書く・話す力



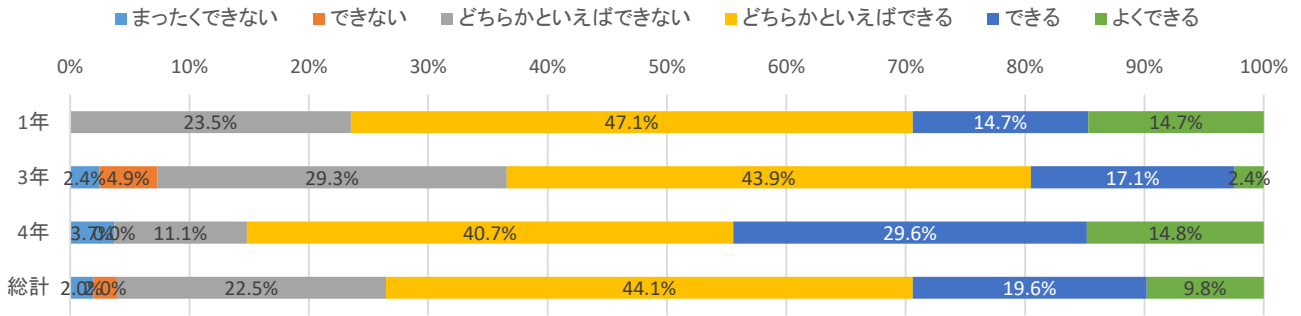
3. ICTリテラシー（=情報機器やインターネットを使う能力）について

(4) 文章作成ソフト（Wordなど）やプレゼンテーションソフト（Power Pointなど）



(5) 表計算ソフト (Excelなど)

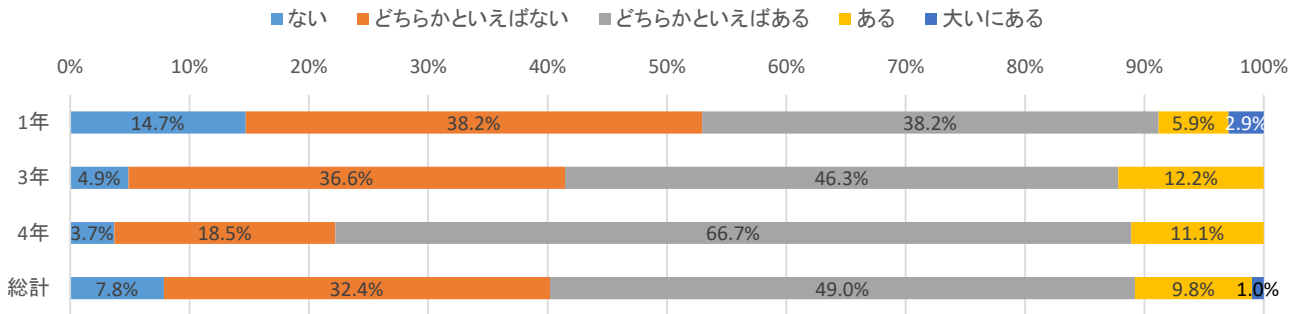
(無効回答 3年: 1)



4. 教養・基礎的スキルについて

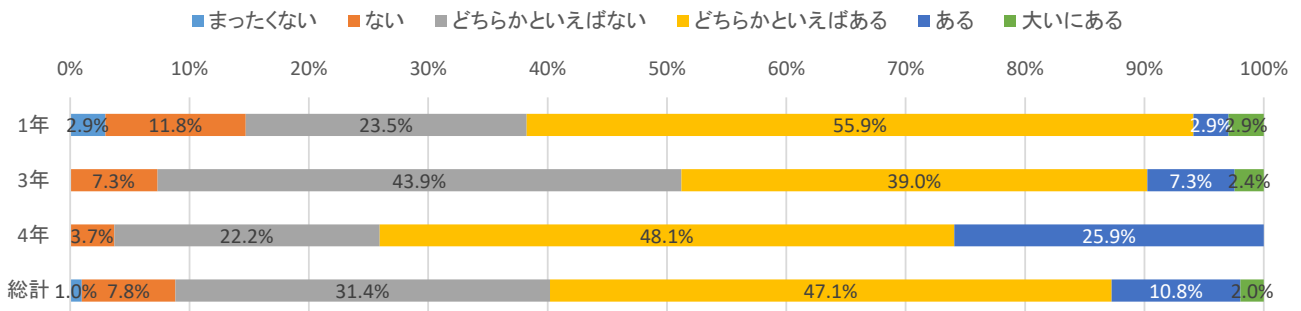
(6) 専門分野の知識とは別の幅広い知識や教養

(無効回答 2年: 1)



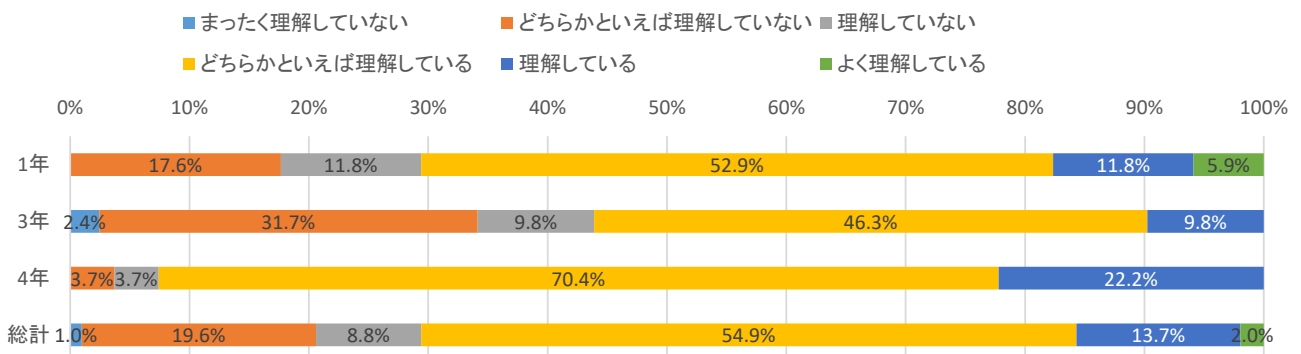
(7) レポートや論文作成に必要なスキル(文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など)

(無効回答 1年: 1)



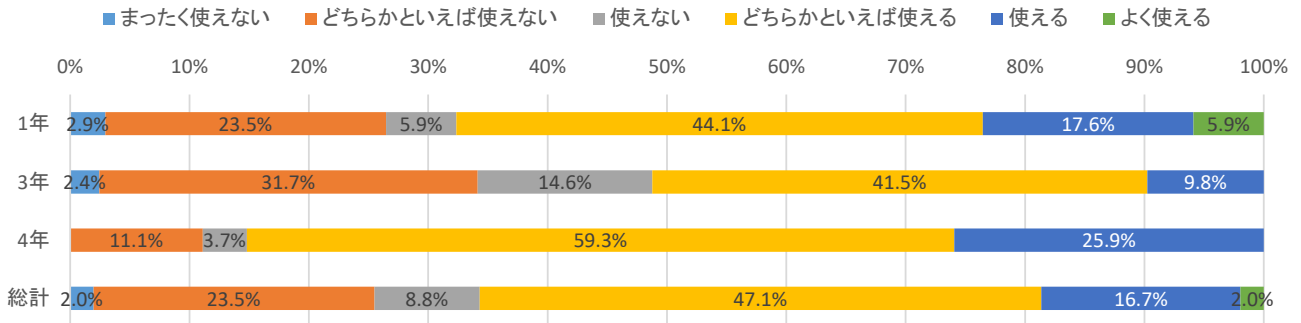
5. 専門知識・専門的スキルについて

(8) 専門知識をどの程度、理解したり身につけたりしていますか



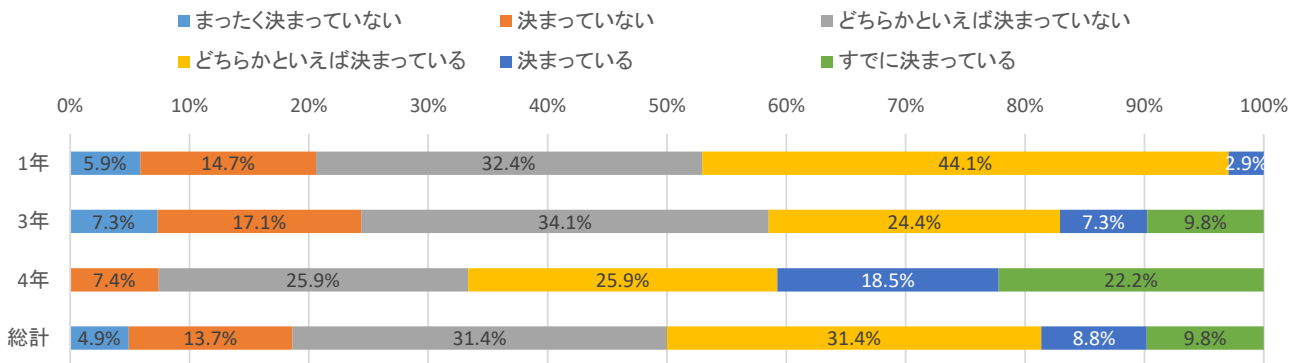
(9) 専門知識を実際の場面で使うことがどの程度できますか

(無効回答 3年：1)

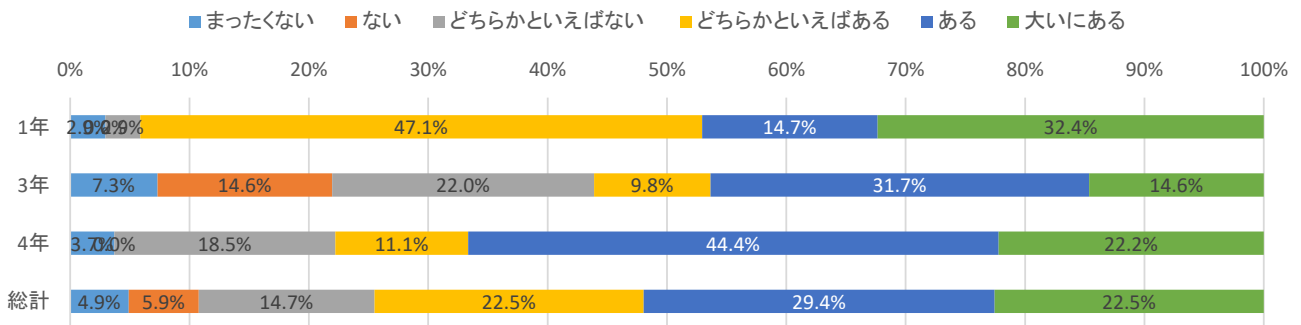


6 キャリア形成について

(10) 将来の進路（職業、進学など）がどの程度決まっていますか



(11) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか

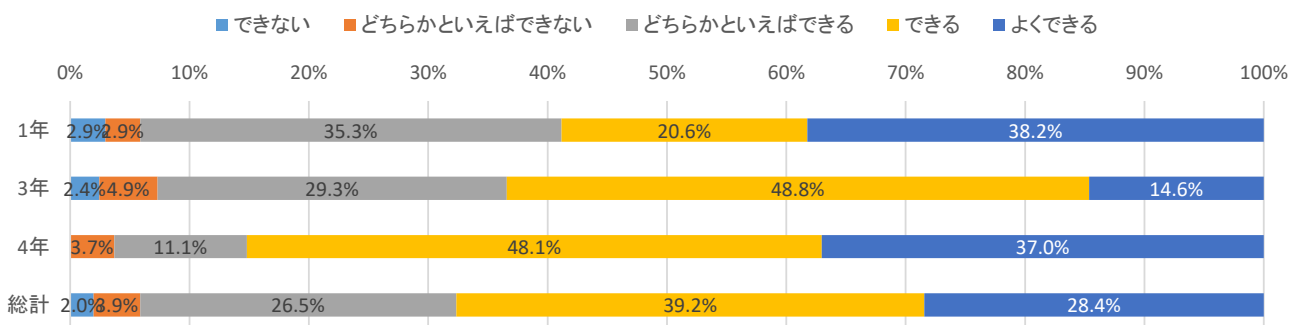


7. 総合力について

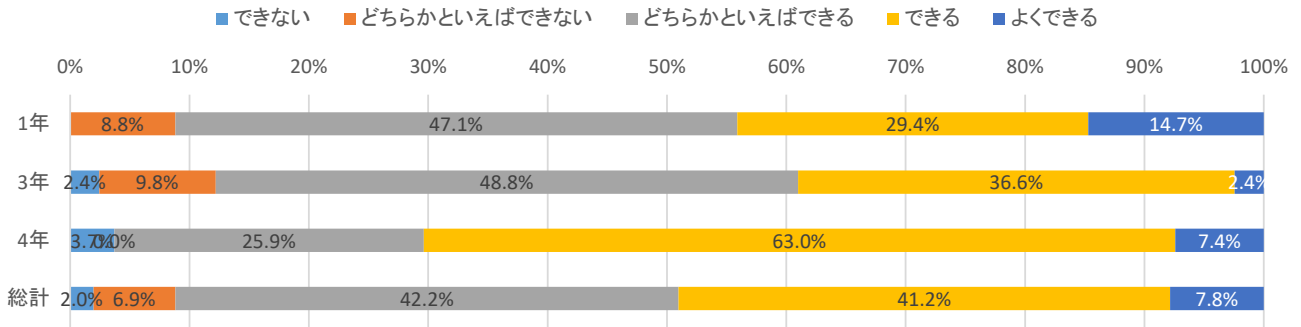
・「学修成果」に関する上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えく

(12) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する

(無効回答 4年：1)

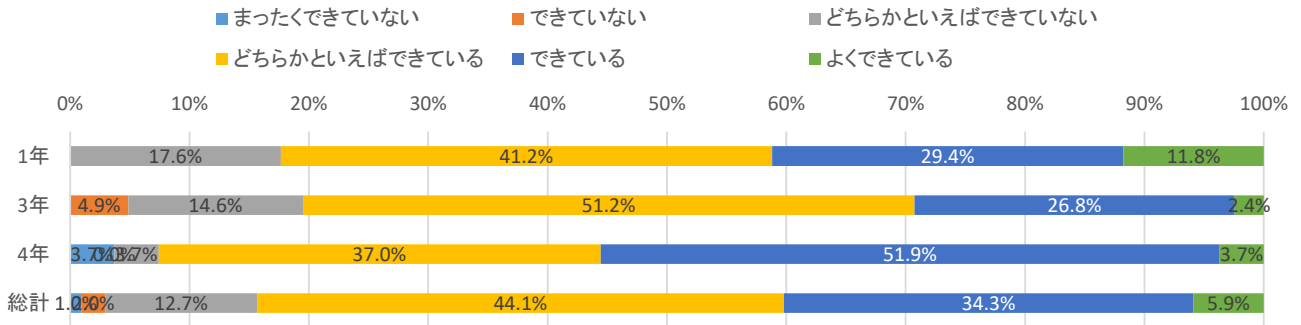


(13) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える

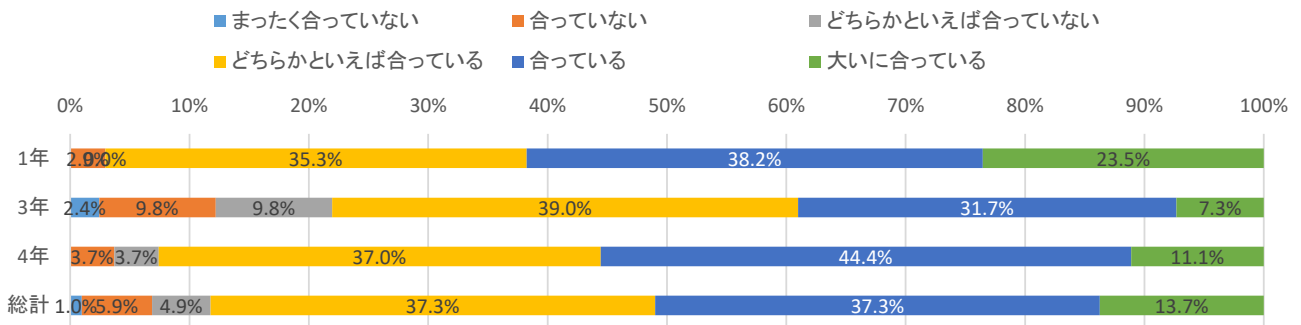


(14) 自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げる

(無効回答 1年：1、2年：1)



(15) 興味関心や資質・適性からみて学部の学びは自分にどの程度合っているか





## 2) - 2 臨床心理学科

### A 調査結果の概要

下記の表の見方については、本報告書の p.19 をご参照ください。

表 II-2- (2)-3 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④60%以上、6段階中上位3段階	⑥80%以上、6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	95.6% (95.8%)	78.8% (68.8%)	1-2年↓ 2-3年→ 3-4年↓
	授業が難しい	42.5% (27.1%)	7.3% (2.1%)	1-2年↑ 2-4年↓
	授業への積極的取組	91.9% (91.7%)	64.5% (58.3%)	1-2年↑ 2-4年↓
	卒業の自信	85.7% (89.6%)	62.6% (79.2%)	1-3年↑ 3-4年やや↓
授業時間外	指示された課題	31.9% (29.2%)	15.8% (16.7%)	1-2年↑ 2-4年↓
	自発的な予習・復習	5.5% (10.4%)	2.2% (8.3%)	1-2年↓ 2-4年↑
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	66.3% (60.4%)		1-2年↑ 2-4年↓
	友達・知人との交流	50.5% (54.2%)		1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑
	趣味	60.1% (66.7%)		1-2年↓ 2-4年↑

表 II-2- (2)-4 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④6段階中上位3段階	⑥6段階中上位2段階	
精神	建学の精神	70.3% (60.4%)	42.9% (29.2%)	1-2年↑ 2-4年↓
外国語	選択している・いた	36.4% (41.7%)		1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
	読む・書く・会話	20.6% (16.7%)	1.8% (0.0%)	1-3年やや↑ 3-4年↓
ICT	文章作成・プレゼン	66.7% (79.2%)	21.6% (22.9%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年→
	表計算	49.1% (50.0%)	12.1% (12.5%)	1-2年↑ 2-4年↓
教養・基礎的スキル	幅広い知識や教養	53.1% (58.3%)	7.0% (2.1%)	1-3年↑ 3-4年↓
	レポート・論文	58.8% (66.7%)	11.4% (16.7%)	1-3年↑ 3-4年→
専門知識・スキル	専門知識・スキルの理解	72.9% (81.3%)	12.8% (12.5%)	1-3年↑ 3-4年↓
	専門知識・スキルの使用	52.9% (64.6%)	6.6% (8.3%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
	心理療法・カウンセリングの理解	83.9% (91.7%)	16.8% (10.4%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
	学校・子どもの臨床心理学の理解	81.7% (89.6%)	22.0% (18.8%)	1-3年↑ 3-4年↓
	社会・産業の臨床心理学の理解	54.2% (75.0%)	9.2% (16.7%)	1-2年↓ 2-4年↑
	心理学における実験・調査方法の理解	66.7% (75.0%)	15.4% (16.7%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年→
キャリア・社会人基礎力	将来の進路	45.4% (60.4%)	22.0% (50.0%)	1-2年→ 2-4年↑
	就活を頑張る	72.8% (70.2%)	40.1% (38.3%)	1-3年↑ 3-4年↓
総合力	他者との協働	87.9% (93.7%)	51.3% (54.2%)	1-3年↑ 3-4年↓
	課題発見と解決	82.1% (85.4%)	34.1% (39.6%)	1-2年→ 2-3年↑ 3-4年↓
	ものの見方・考え方	80.1% (87.5%)	35.1% (41.7%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
AP適合性	学部の学びとの適合性	89.7% (91.7%)	47.6% (58.3%)	1-2年→ 2-3年↓ 3-4年↑

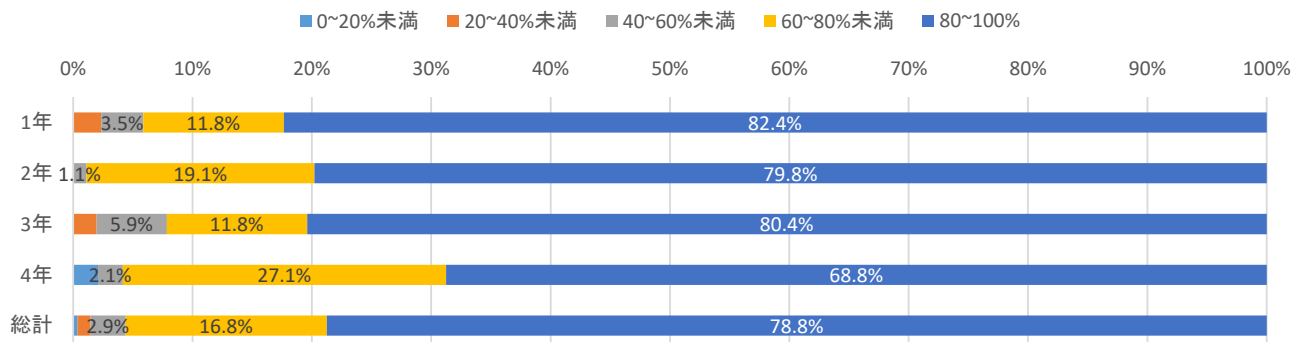
## B 集計結果 (図表) 臨床心理学科

### 【学修行動調査】

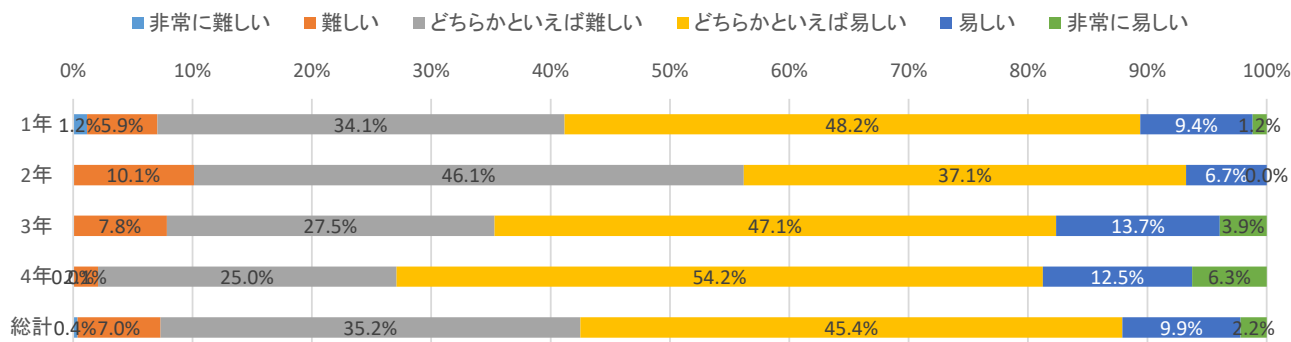
#### 1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など)

(無効回答 1年 : 1)

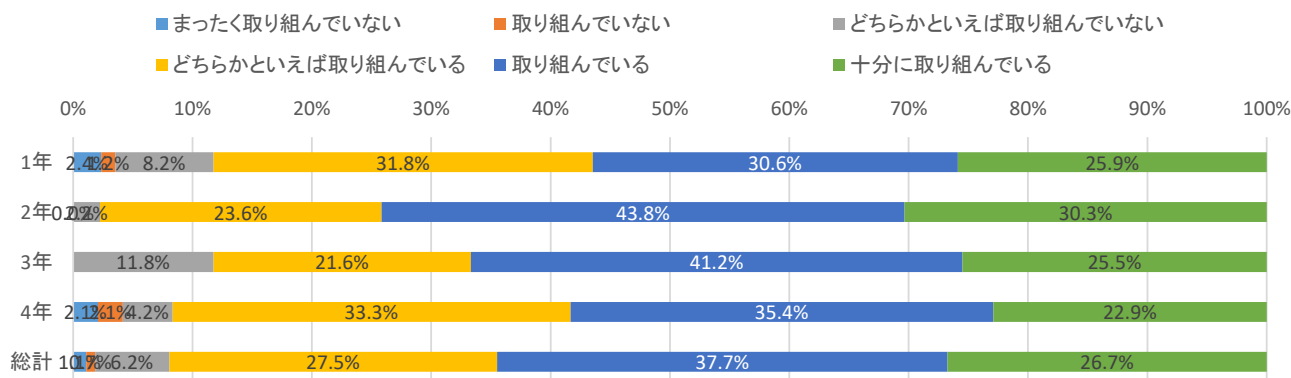


(2) 授業全体の難易度

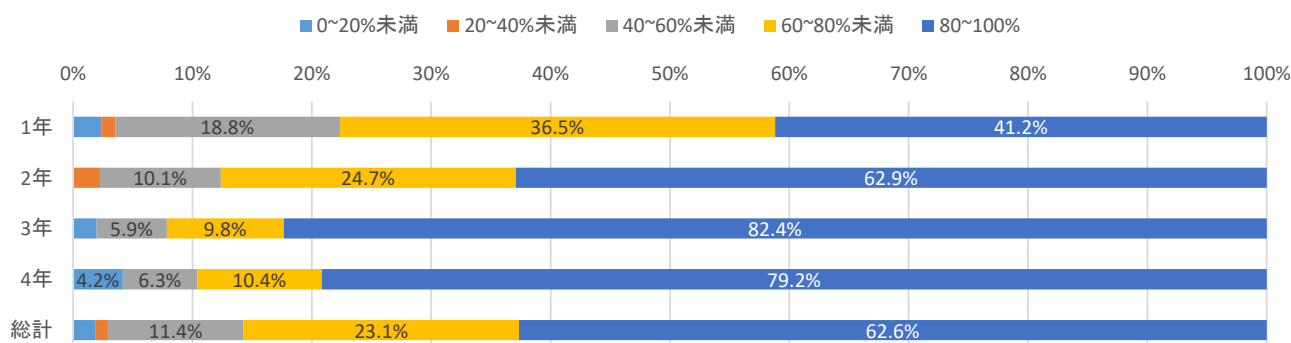


(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み

(無効回答 4年 : 1)

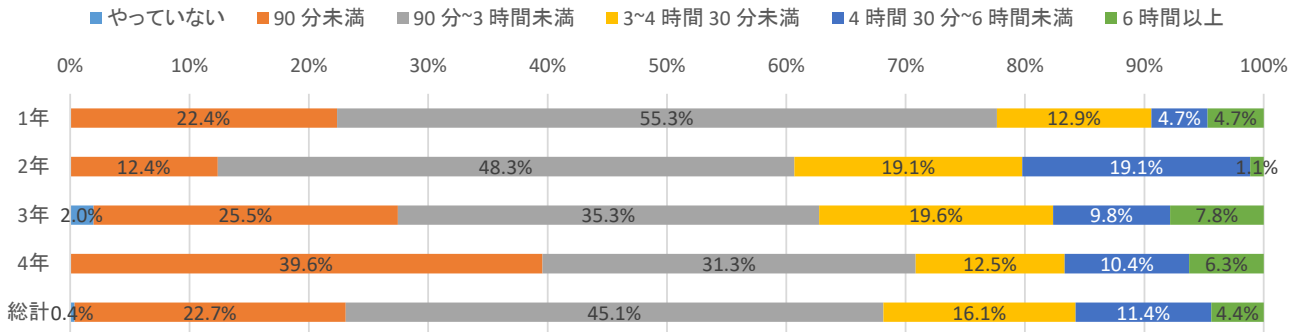


(4) 4年間で卒業できる自信

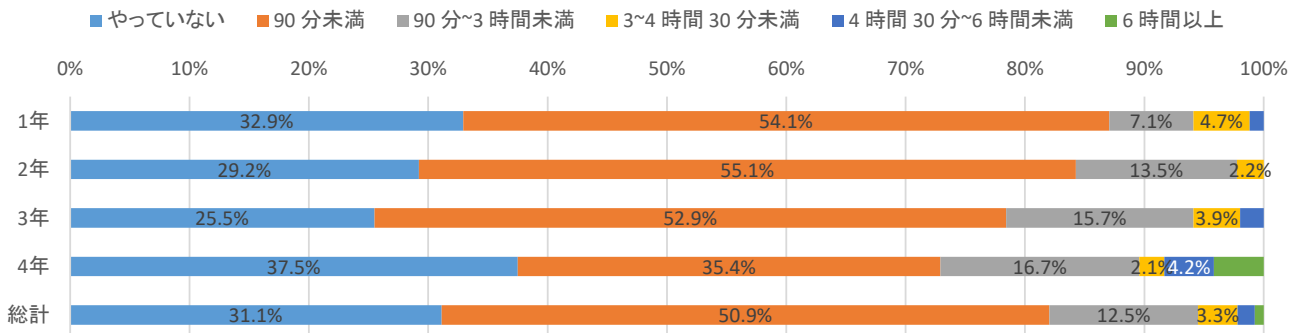


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備や課題・レポート、宿題などを、どのくらいやりましたか

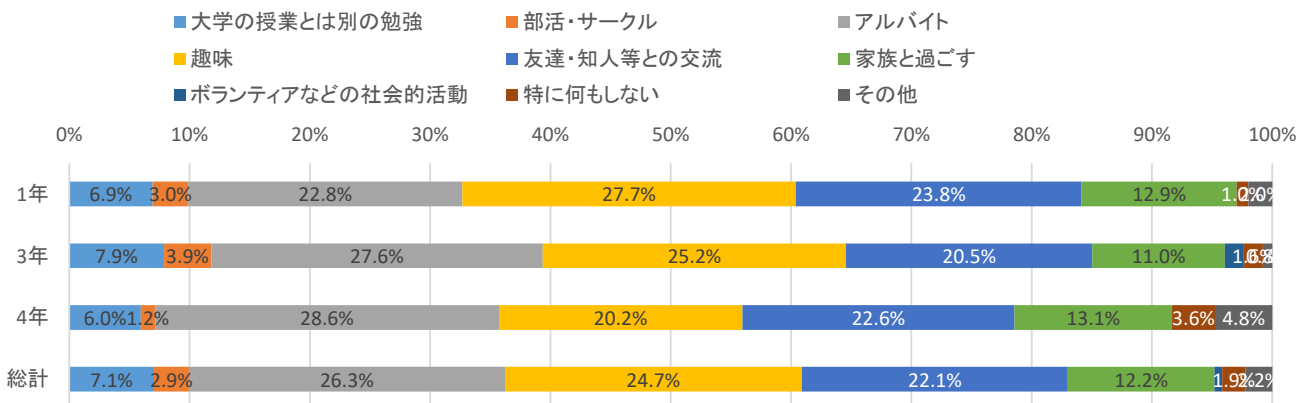


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習

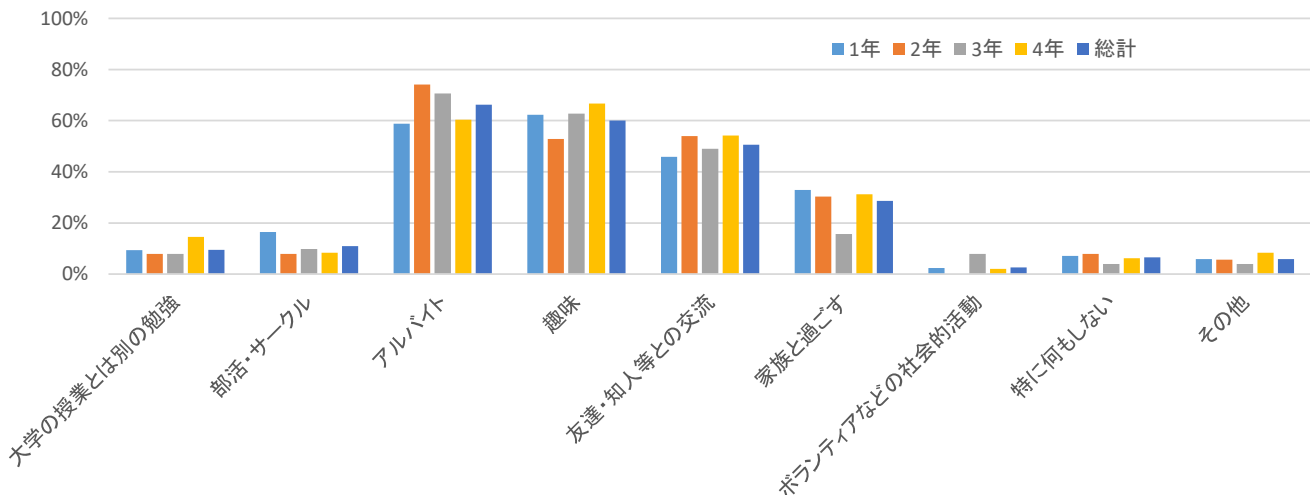


## 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答者数に占める各選択肢の回答割合

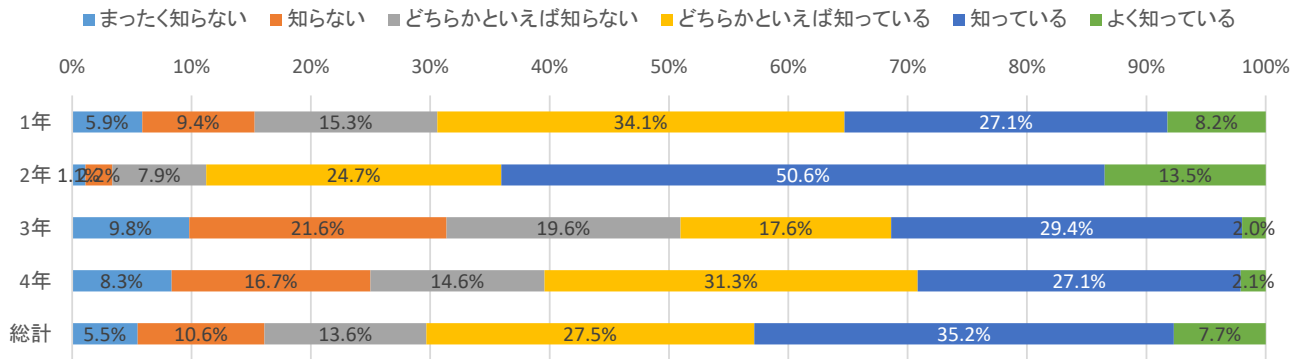


## 【学修成果調査】 臨床心理学科

### 1. 教育理念について

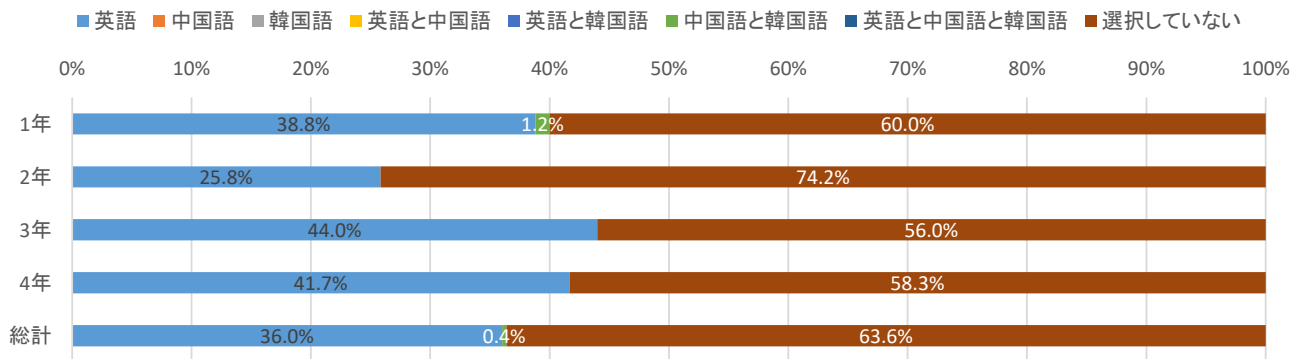
(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか

(無効回答 1年：2、2年：2)



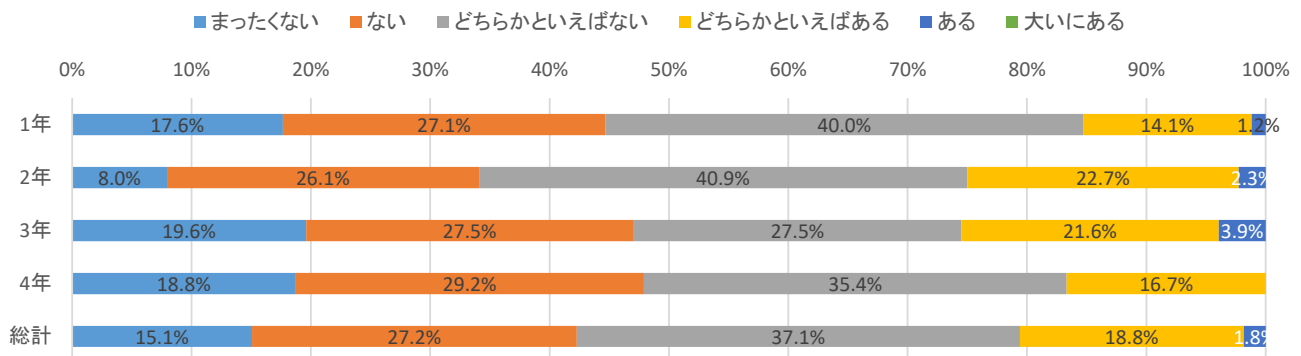
### 2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか



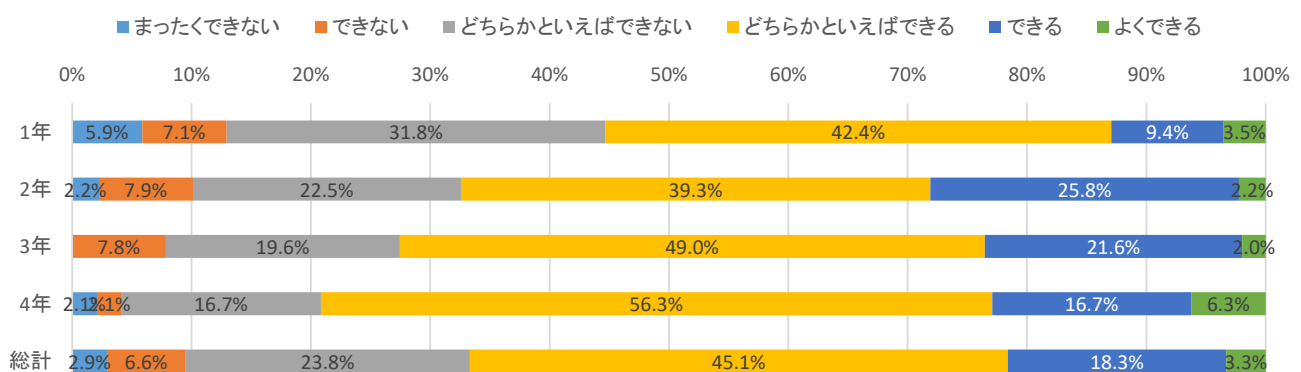
(3) 外国語を読む・書く・話す力

(無効回答 2年：1)



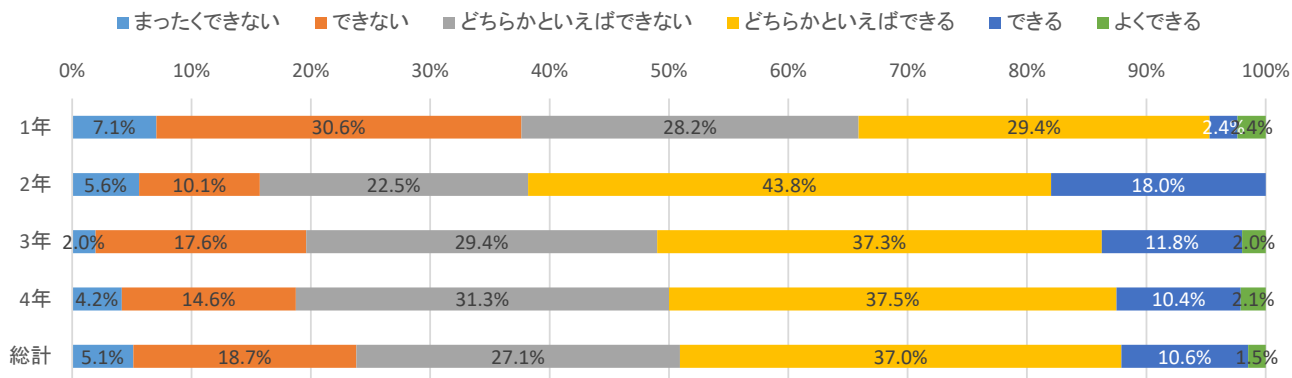
### 3. ICTリテラシー（=情報機器やインターネットを使う能力）について

(4) 文章作成ソフト（Wordなど）やプレゼンテーションソフト（Power Pointなど）



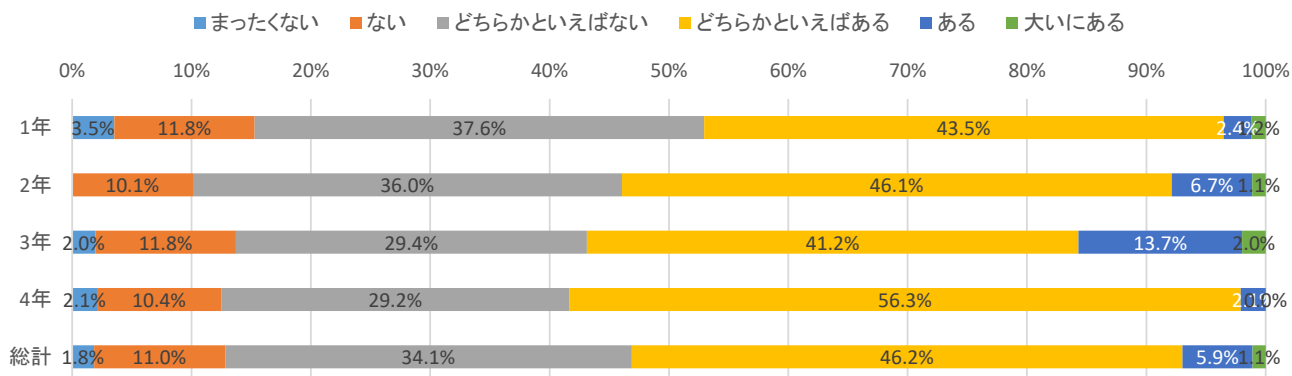
(5) 表計算ソフト (Excelなど)

(無効回答 1年: 1、4年: 1)

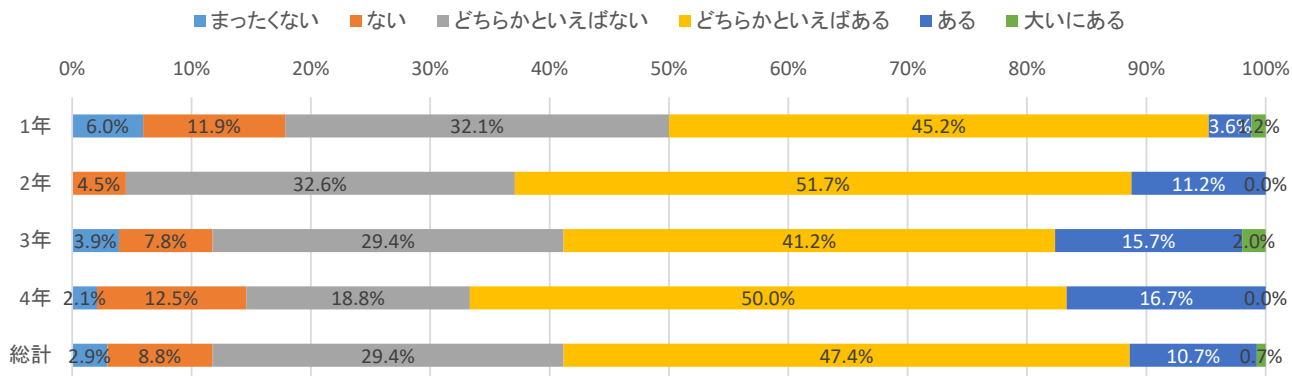


4. 教養・基礎的スキルについて

(6) 専門分野の知識とは別の幅広い知識や教養

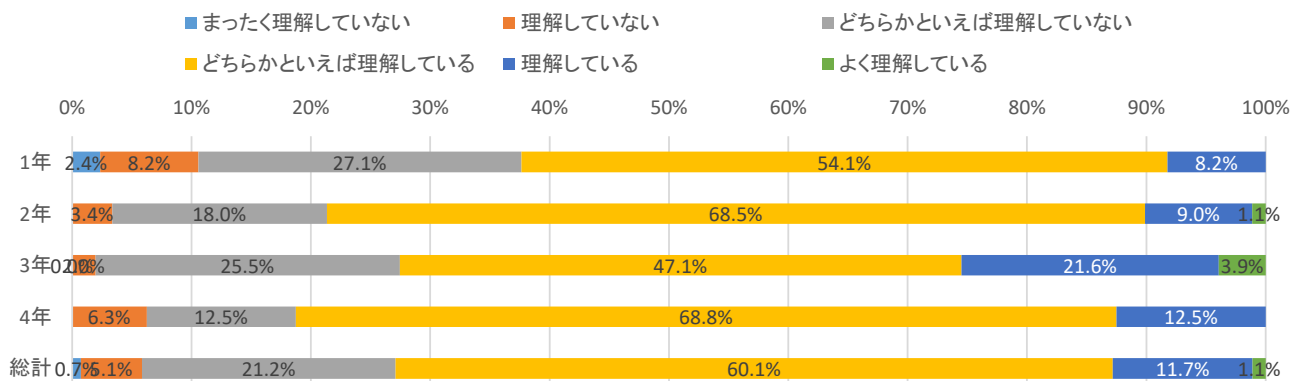


(7) レポートや論文作成に必要なスキル (文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成 (無効回答 1年: 1)



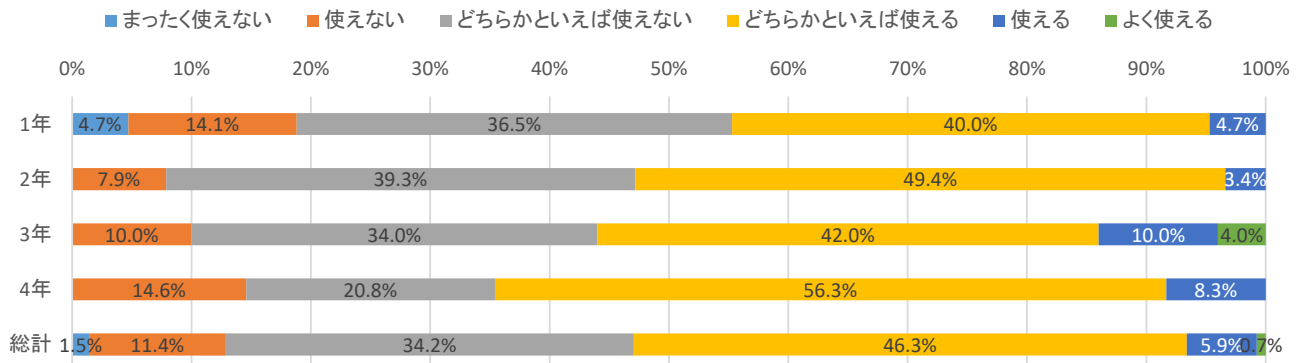
5-1. 専門知識・専門的スキルについて

(8) 専門知識やスキルをどの程度、理解したり身につけたりしていますか



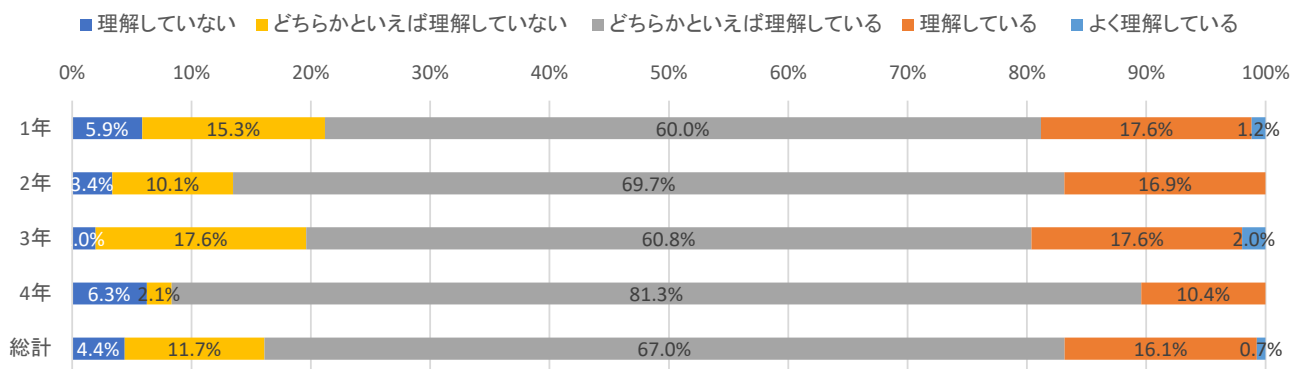
(9) 専門知識やスキルを実際の場面で使うことがどの程度できますか

(無効回答 3年：1)

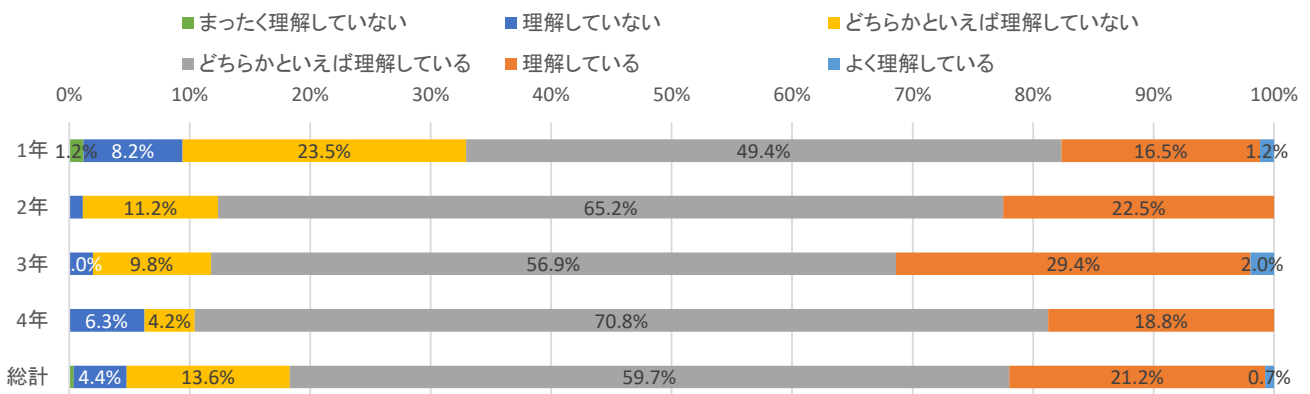


5-2. 専門知識・専門的スキルについて(学科独自項目)

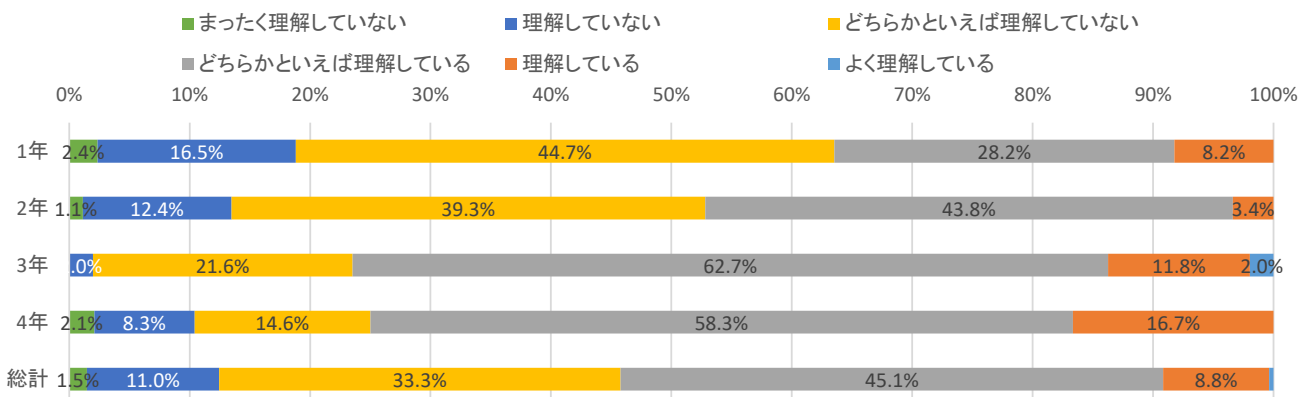
(10) 「心理療法・カウンセリングの展開」に関する学び、をどの程度理解していますか。



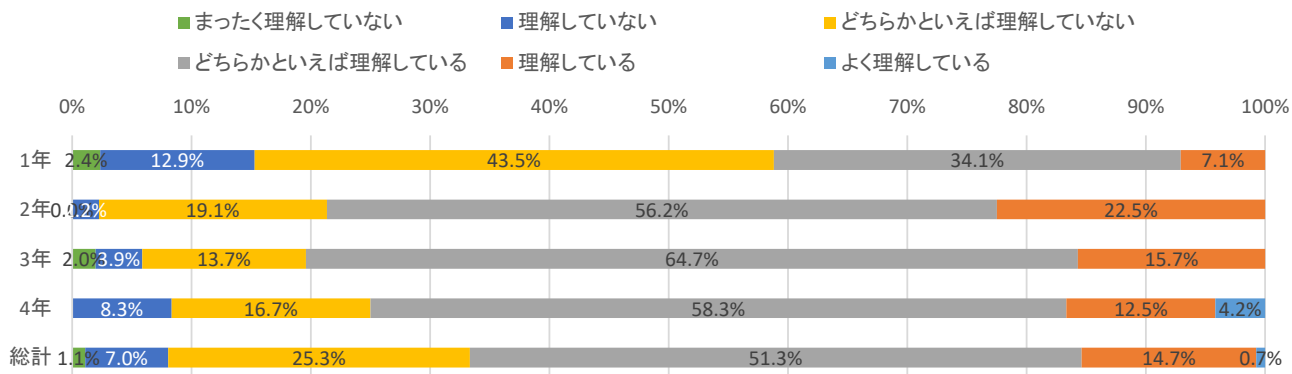
(11) 「学校・子どもの臨床心理学」に関する学びを、どの程度理解していますか。



(12) 「社会・産業の臨床心理学」に関する学びを、どの程度理解していますか。

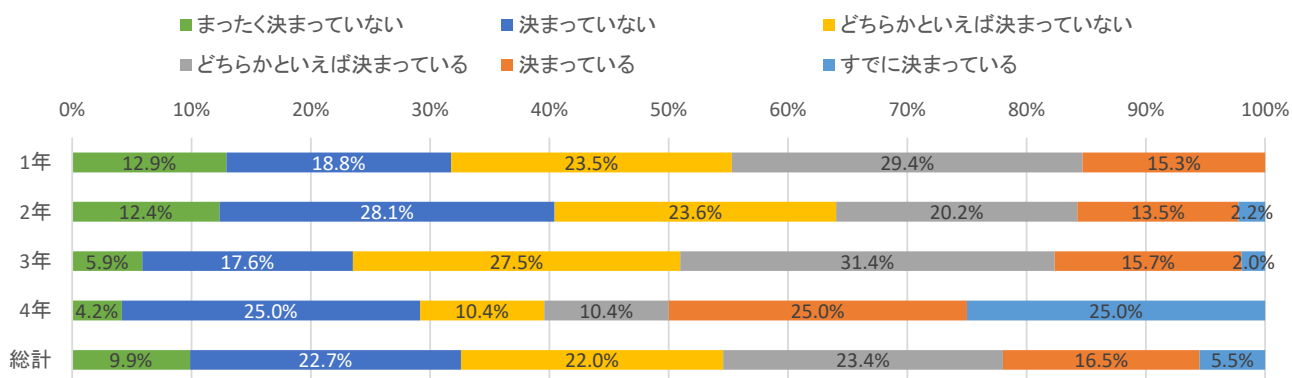


(13) 「心理学における実験や調査の方法」に関する学びを、どの程度理解していますか。

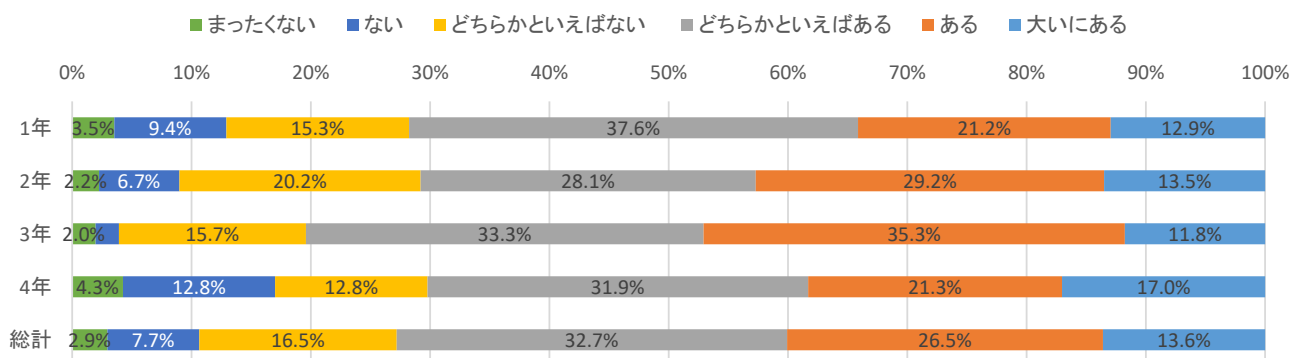


## 6. キャリア形成について

(14) 将来の進路(職業、進学など)がどの程度決まっていますか。



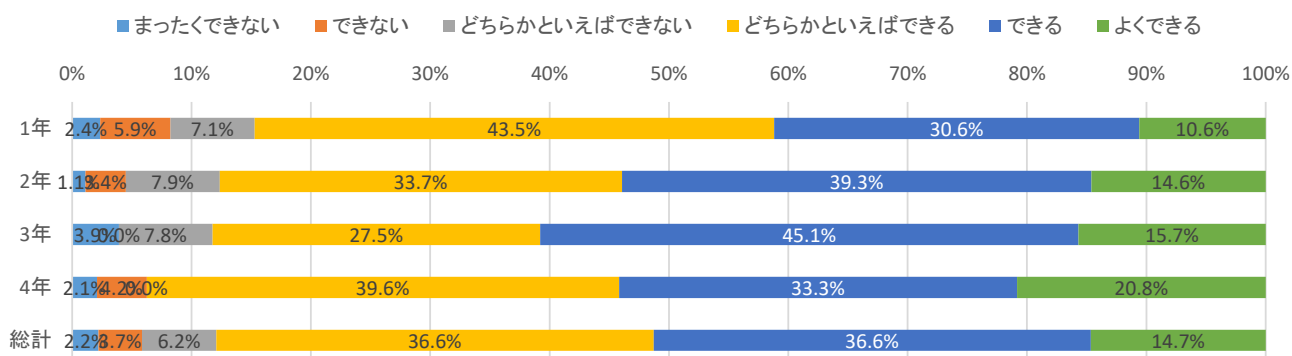
(15) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか。(無効回答 4年：1)



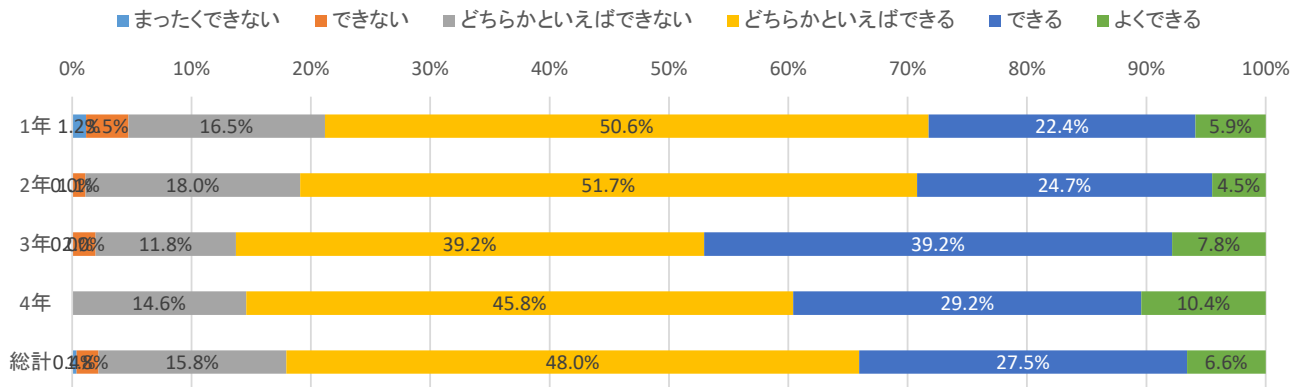
## 7. 総合力について

・「学修成果」に関する上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えください。

(16) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する (無効回答 1年：1)

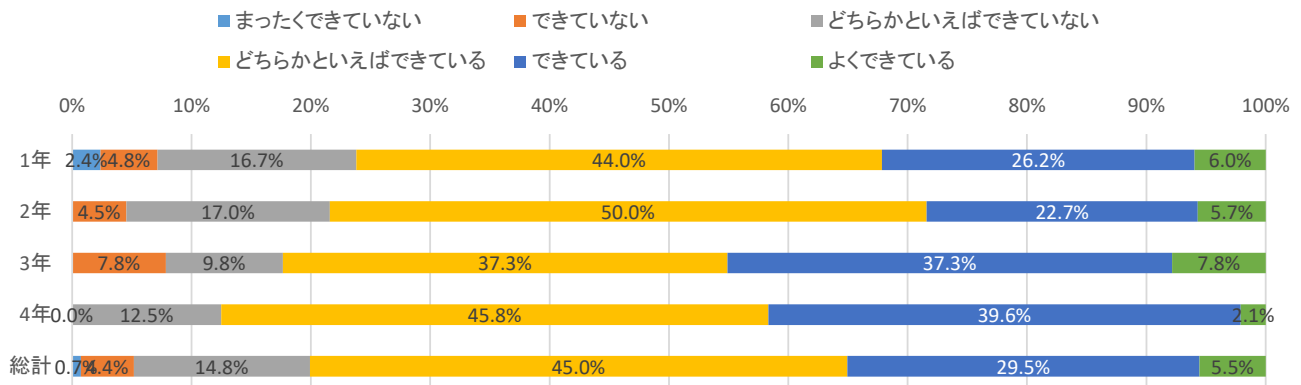


(17) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える

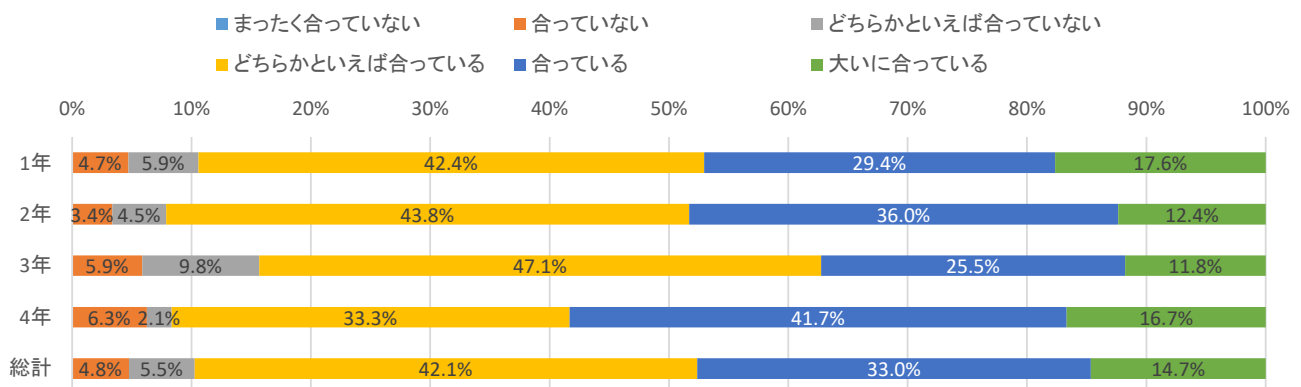


(18) 自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げる

(無効回答 1年：1、2年：1)



(19) 興味関心や資質・適性からみて学部の学びは自分にどの程度合っているか





## 2) - 3 健康・スポーツ心理学科

### A 調査結果の概要

下記の表の見方については、本報告書の p.19 をご参照ください。

表Ⅱ-2-(2)-5 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④60%以上、6段階中上位3段階	⑤80%以上、6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	93.1% (90.0%)	73.6% (60.0%)	1-2年→ 2-4年↓
	授業が難しい	51.4% (40.0%)	12.5% (15.0%)	1-2年↓ 2-4年↑
	授業への積極的取組	94.4% (95.0%)	75.0% (65.0%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
	卒業の自信	93.1% (95.0%)	72.2% (80.0%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
授業時間外	指示された課題	33.3% (40.0%)	12.5% (15.0%)	1-2年↓ 2-4年↑
	自発的な予習・復習	5.6% (15.0%)	2.8% (10.0%)	1-3年↓ 3-4年↑
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	80.6% (75.0%)		1-2年→ 2-4年↓
	友達・知人との交流	58.3% (45.0%)		1-2年↑ 2-4年↓
	趣味	54.2% (60.0%)		↑

表Ⅱ-2-(2)-6 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

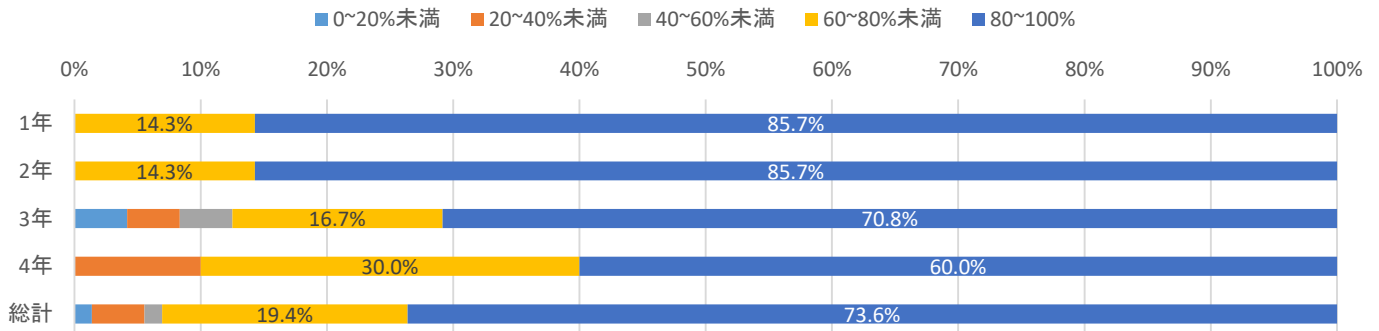
		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④6段階中上位3段階	⑤6段階中上位2段階	
精神	建学の精神	42.3% (35.0%)	18.3% (20.0%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑
外国語	選択している・いた	68.1% (70.0%)		1-2年↓ 2-4年↑
	読む・書く・会話	15.3% (10.0%)	0.0% (0.0%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑
ICT	文章作成・プレゼン	83.3% (90.0%)	40.3% (35.0%)	1-3年↑ 3-4年↓
	表計算	72.2% (80.0%)	26.4% (15.0%)	1-3年↑ 3-4年↓
教養・基礎的スキル	幅広い知識や教養	63.9% (65.0%)	12.5% (10.0%)	1-3年↑ 3-4年↓
	レポート・論文	59.7% (60.0%)	13.9% (15.0%)	1-3年↑ 3-4年↓
専門知識・スキル	専門知識・スキルの理解	83.3% (85.0%)	15.3% (10.0%)	1-2年→ 2-3年↑ 3-4年↓
	専門知識・スキルの使用	63.9% (75.0%)	6.9% (10.0%)	↑
キャリア・社会人基礎力	将来の進路	52.8% (65.0%)	30.6% (50.0%)	↑
	就活を頑張る	86.1% (90.0%)	54.2% (55.0%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年↓
総合力	他者との協働	88.9% (90.0%)	63.9% (75.0%)	1-3年↓ 3-4年↑
	課題発見と解決	79.2% (70.0%)	41.7% (35.0%)	1-2年↑ 2-4年↓
	ものの見方・考え方	87.5% (80.0%)	36.1% (45.0%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑
AP適合性	学部での学びとの適合性	87.5% (85.0%)	43.1% (50.0%)	1-2年↓ 2-4年↑

## B 集計結果 (図表) 健康・スポーツ心理学科

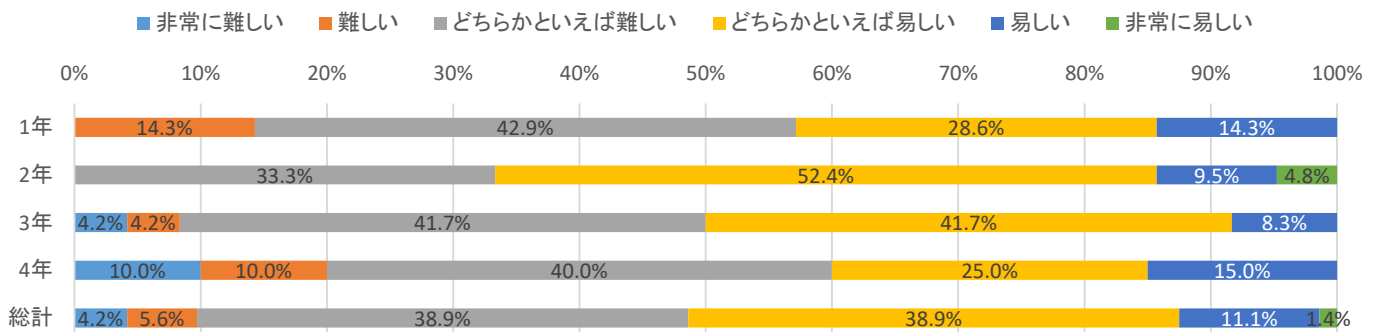
## 【学修行動調査】

## 1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

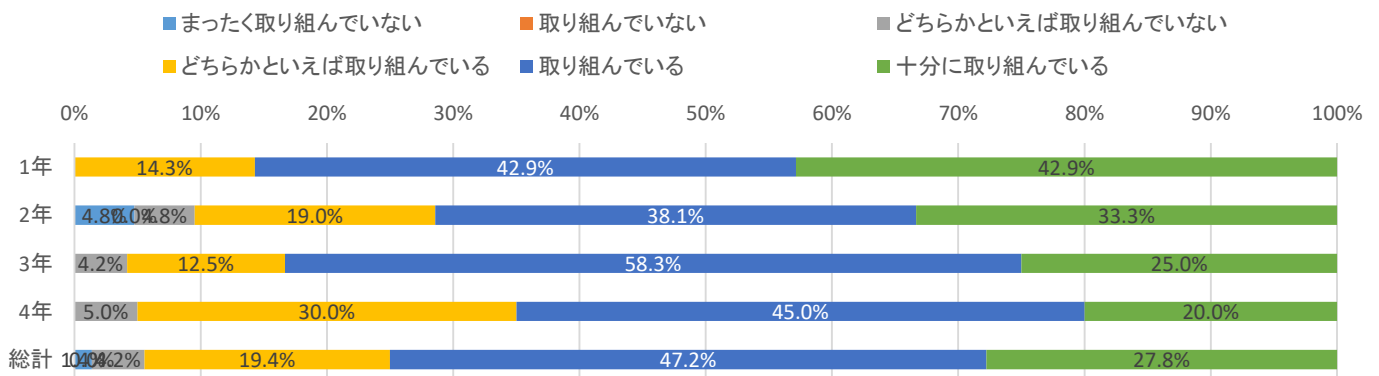
(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など)



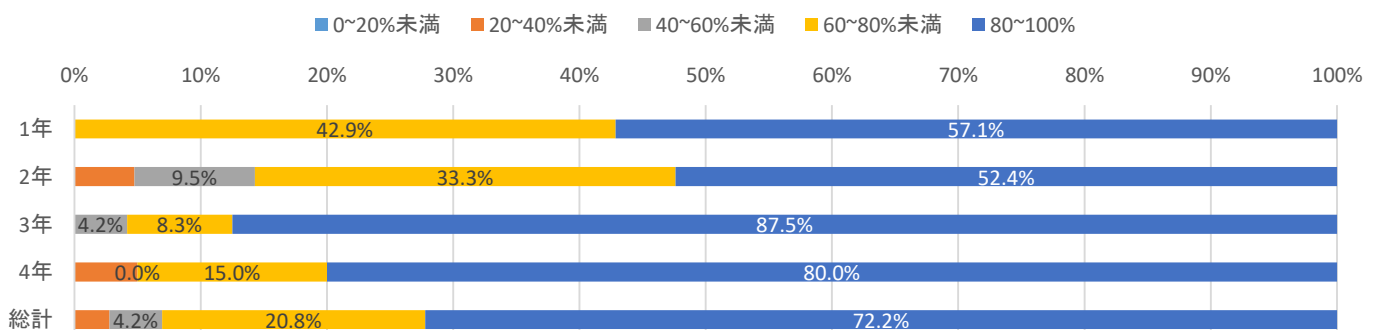
(2) 授業全体の難易度



(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み

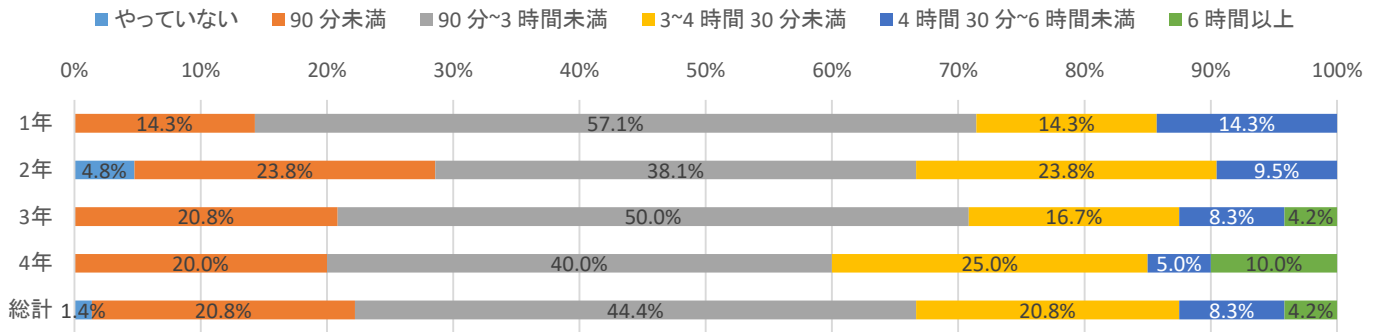


(4) 4年間で卒業できる自信

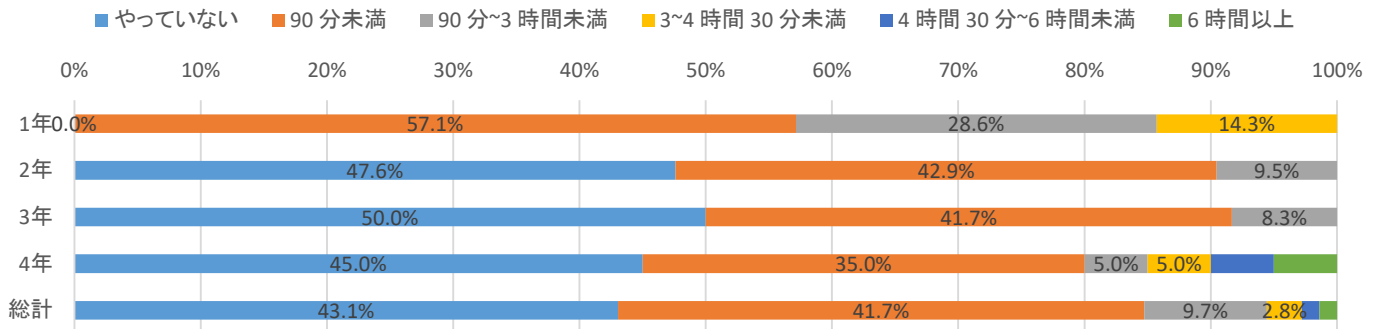


## 2.1 週間(平均的な)における授業時間外での授業関連の学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備や課題・レポート、宿題などを、どのくらいやりましたか

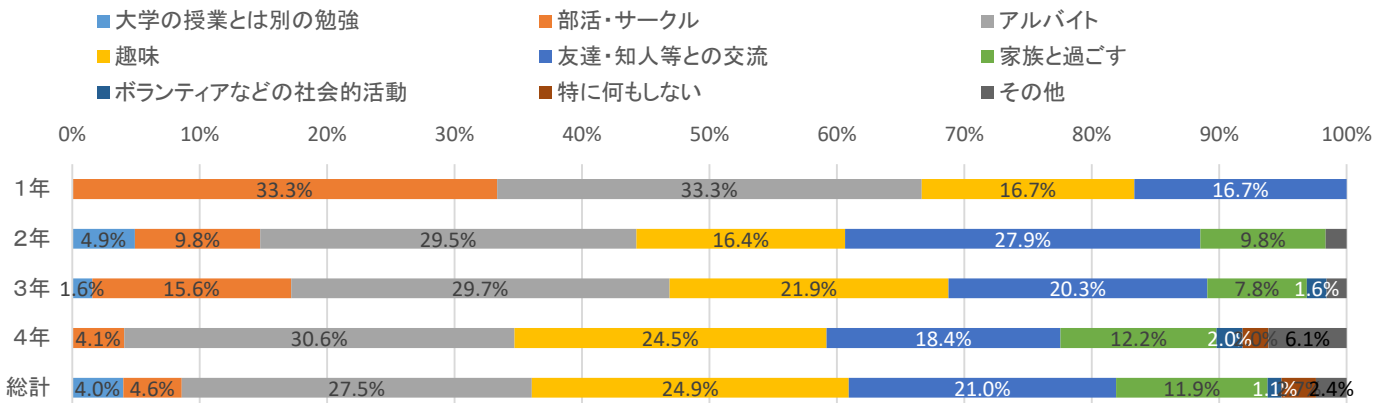


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習

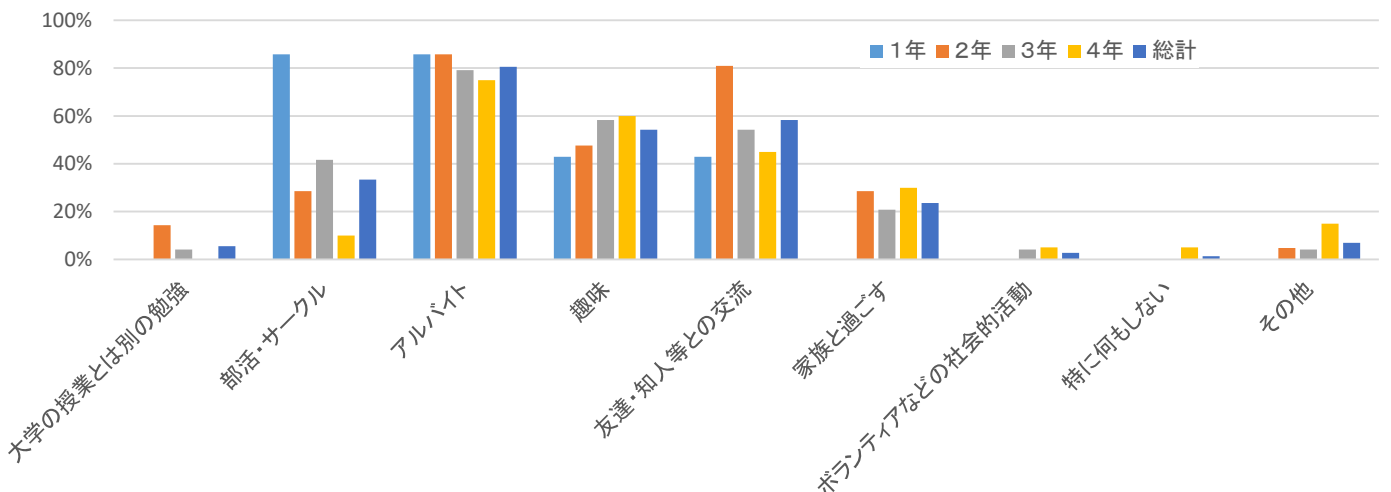


## 3. 1週間(平均的な)における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること(上位3つ) ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること(上位3つ) ※回答者数に占める各選択肢の回答割合

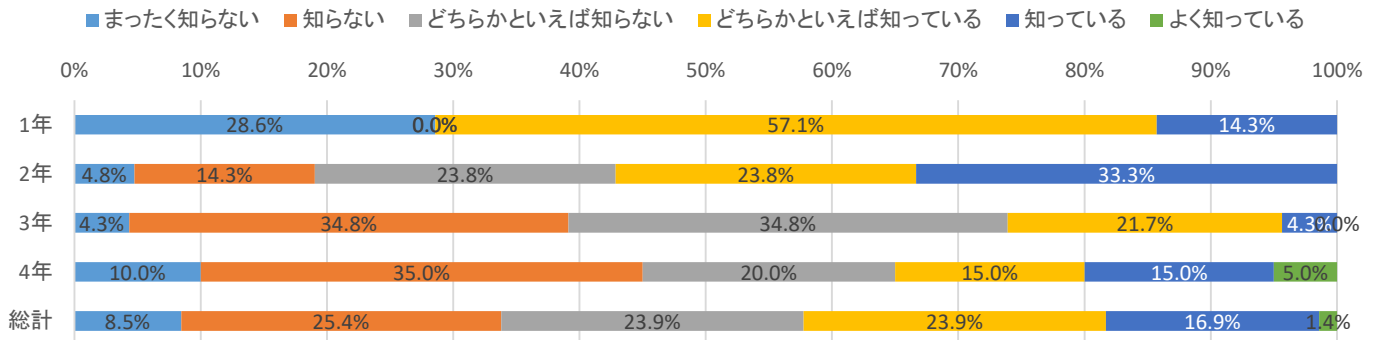


## 【学修成果調査】

## 1. 教育理念について

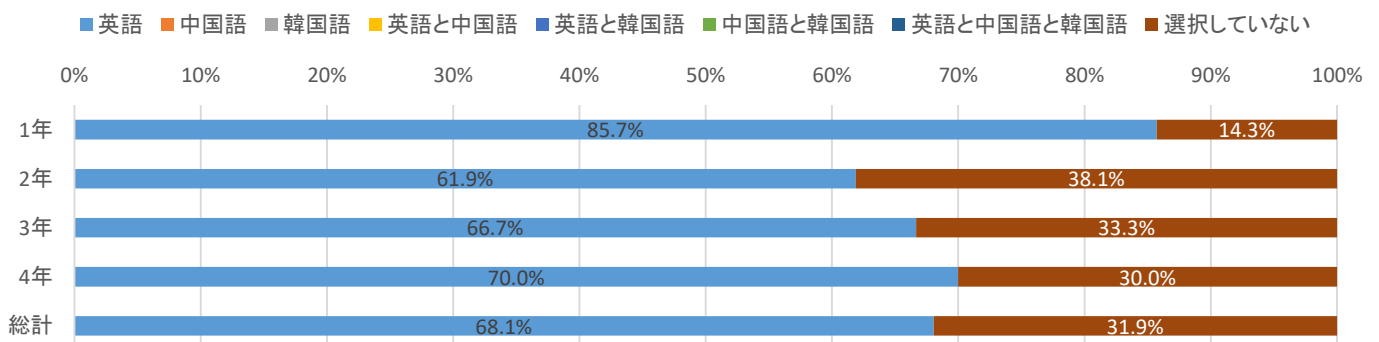
(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか

(無効回答 3年: 1)

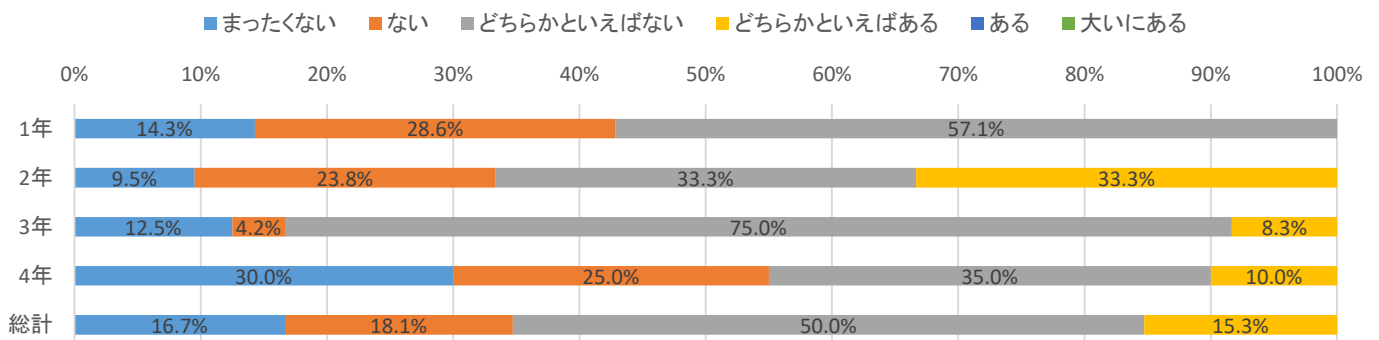


## 2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか

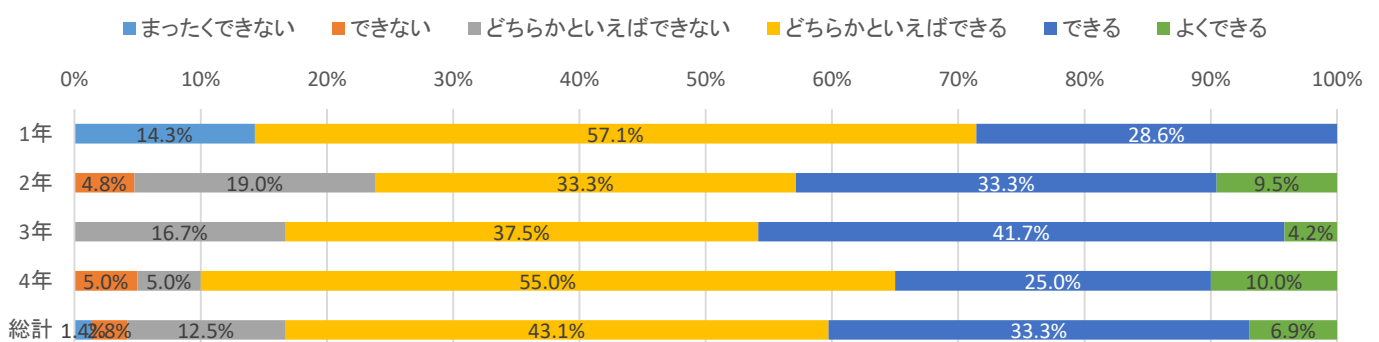


(3) 外国語を読む・書く・話す力

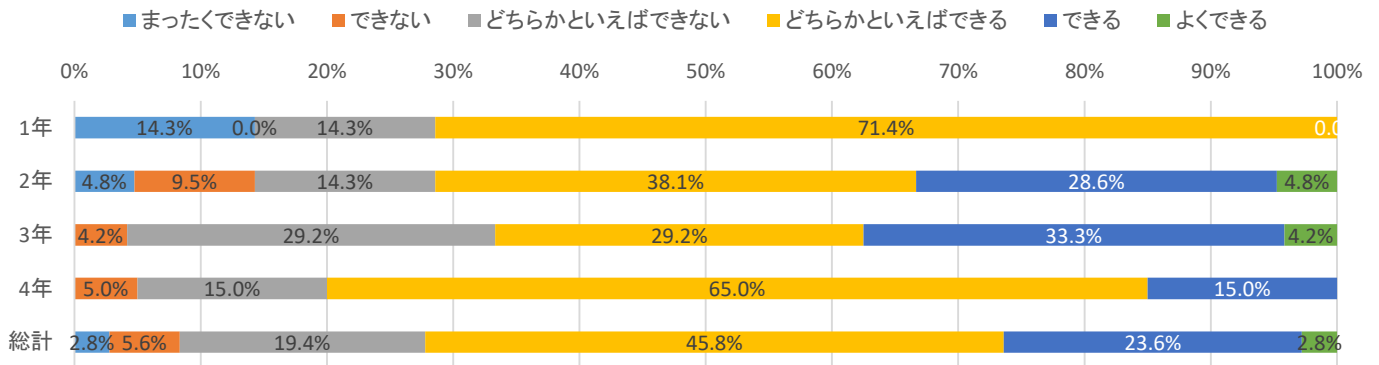


## 3. ICTリテラシー (=情報機器やインターネットを使う能力) について

(4) 文章作成ソフト (Wordなど) やプレゼンテーションソフト (Power Pointなど)

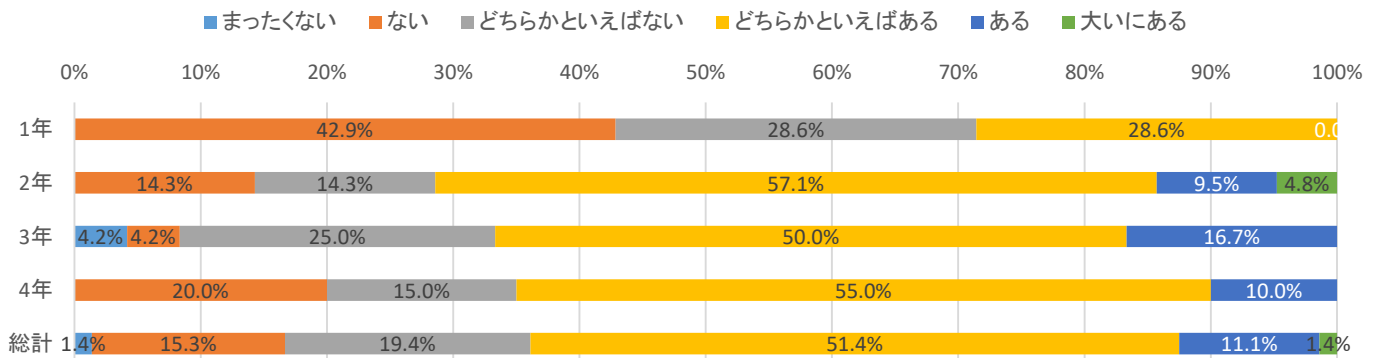


## (5) 表計算ソフト (Excelなど)

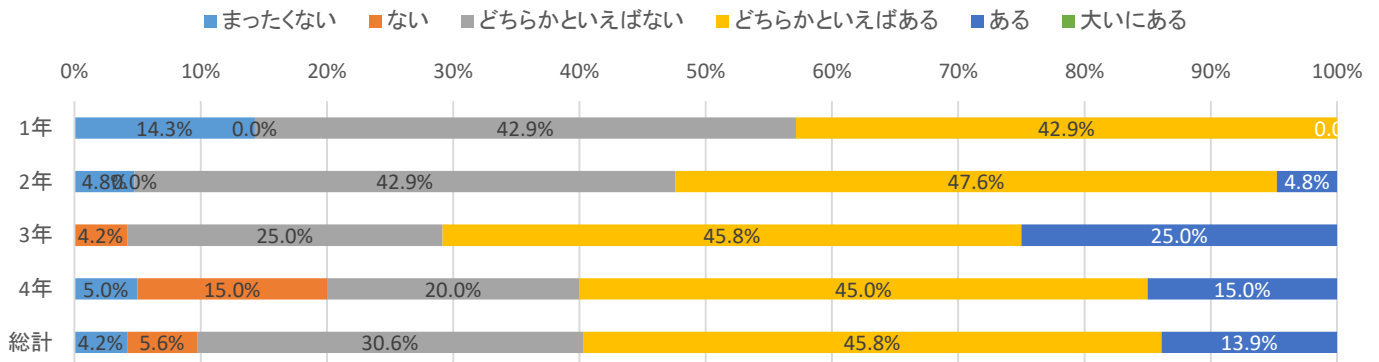


## 4. 教養・基礎的スキルについて

## (6) 専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養

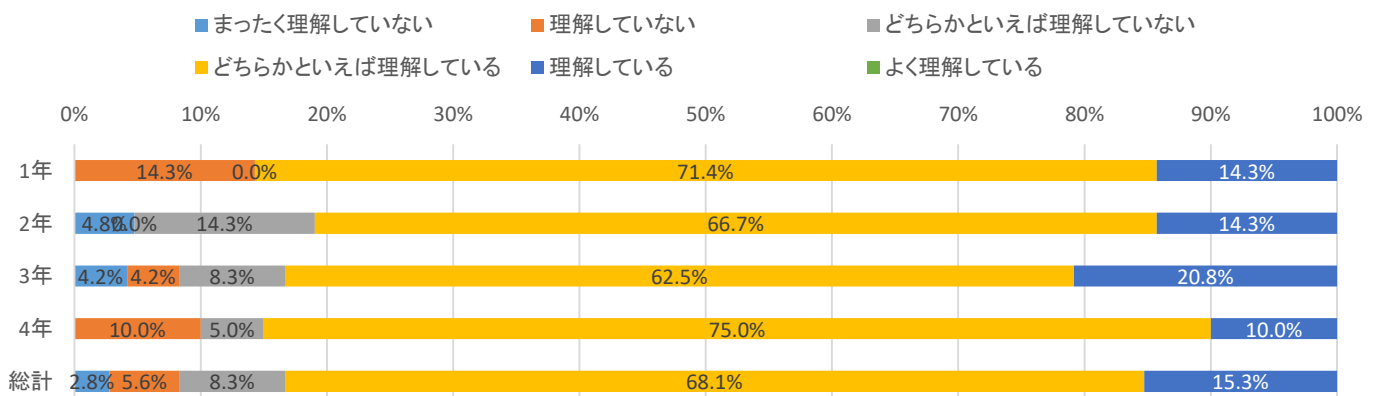


## (7) レポートや論文作成に必要なスキル (文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など)

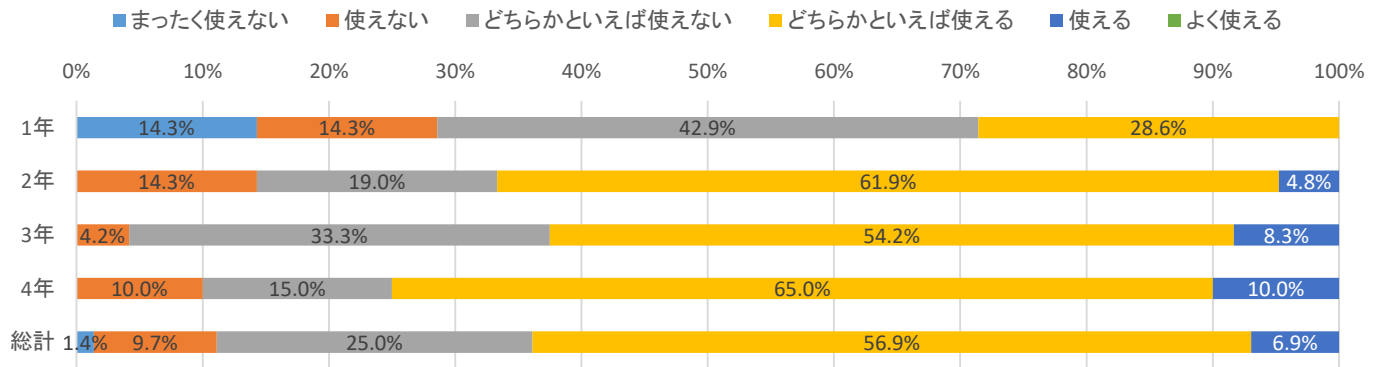


## 5-1. 専門知識・専門的スキルについて

## (8) 専門知識をどの程度、理解したり身につけたりしていますか

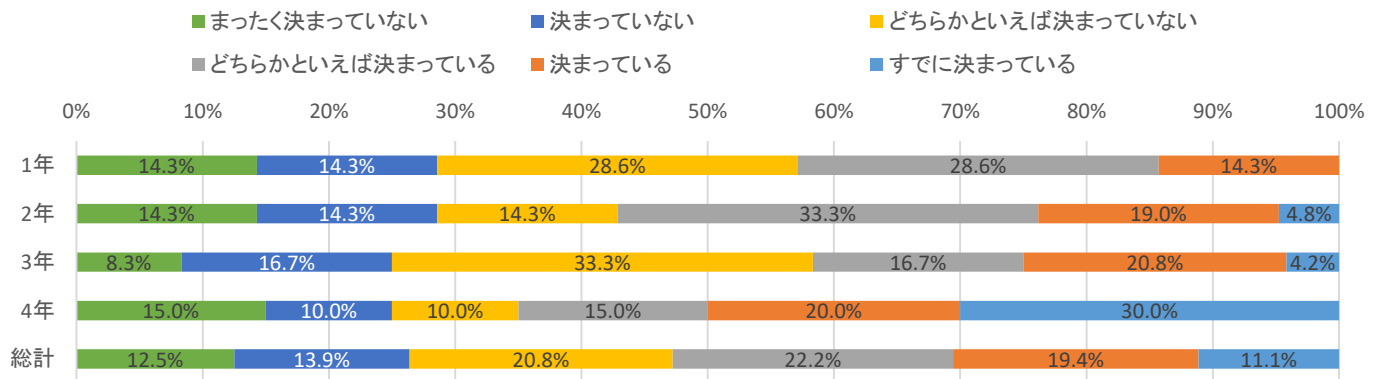


(9) 専門知識やスキルを実際の場面で使うことがどの程度できますか。

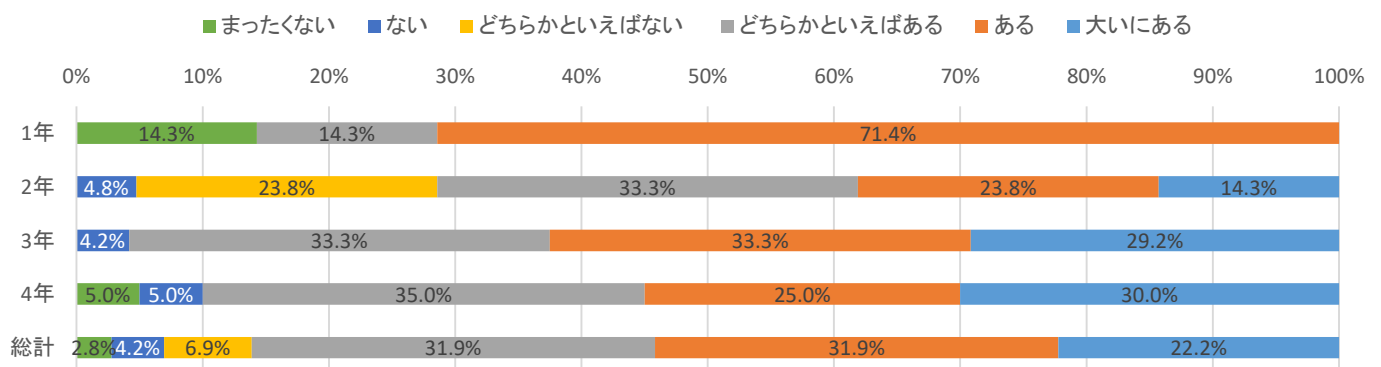


## 6. キャリア形成について

(10) 将来の進路(職業、進学など)がどの程度決まっていますか。



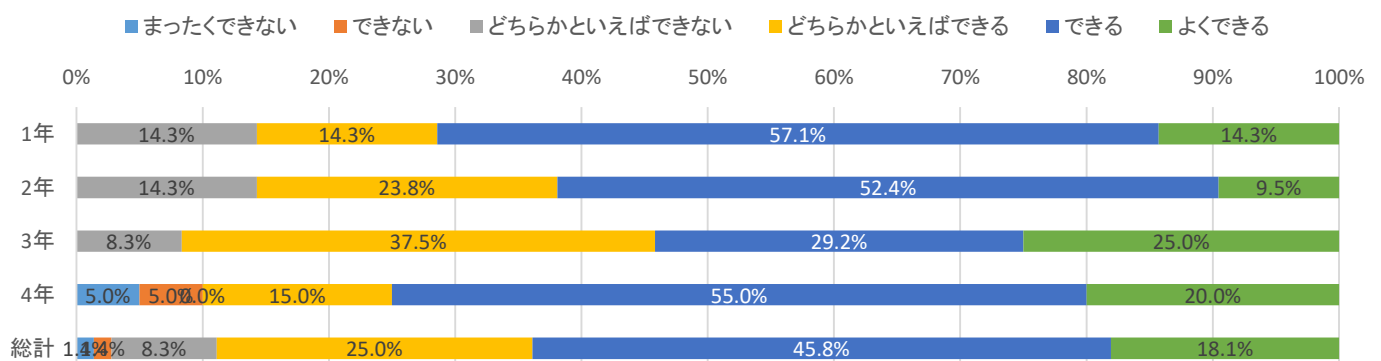
(11) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか。



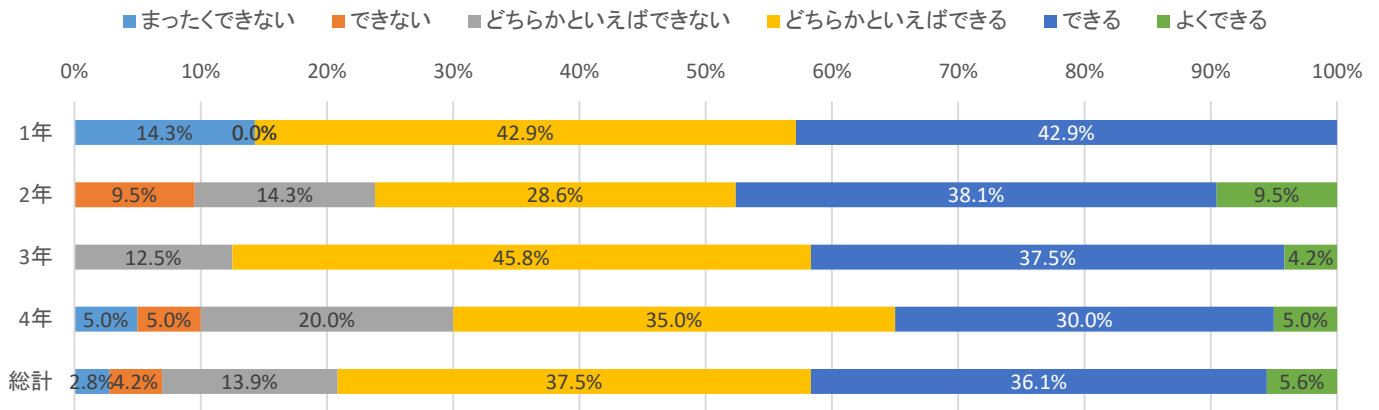
## 7. 総合力について

・「学修成果」に関する上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えください。

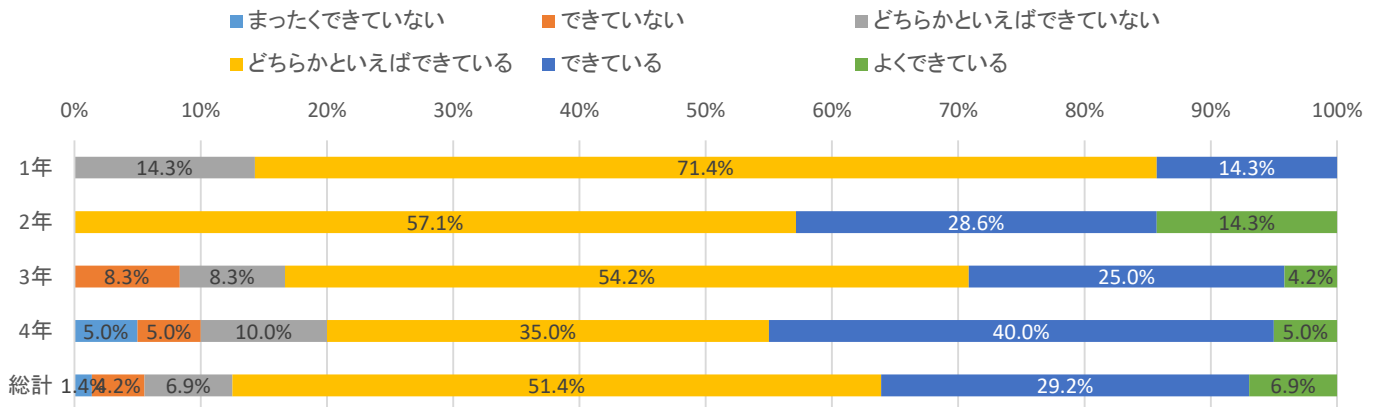
(12) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する



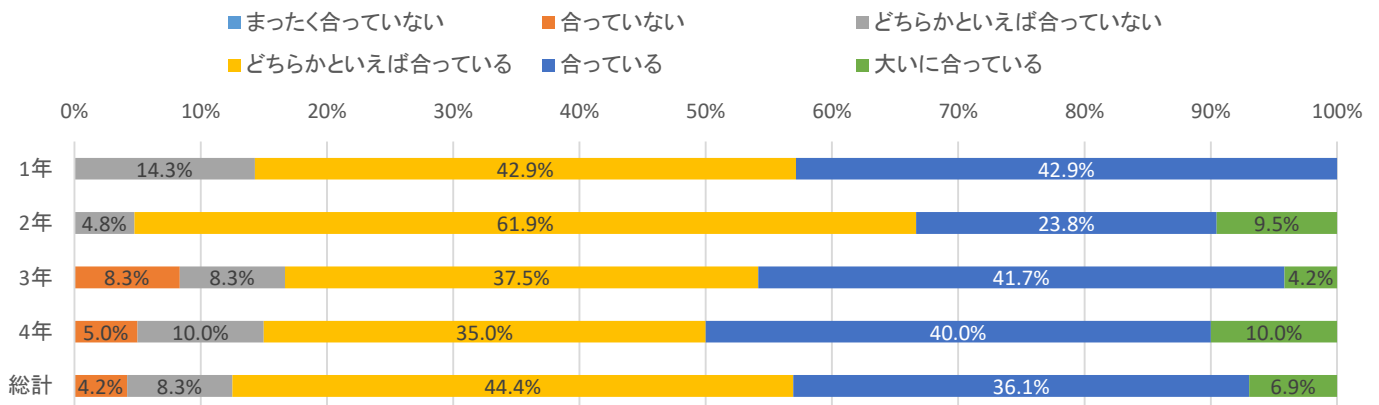
## (13) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える



## (18) 「ものの見方・考え方」をつくり上げる



## (19) 興味関心や資質・適性からみて学部の学びは自分にどの程度合っているか



## 2)-4 子ども学科

### A 調査結果の概要

下記の表の見方については、本報告書の p.19 をご参照ください。

表Ⅱ-2-(2)-7 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥)(在学生の学年間比較)
		④60%以上、6段階中上位3段階	⑤80%以上、6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	97.6% (90.3%)	85.5% (90.3%)	1-2年↓ 2-4年↑
	授業が難しい	67.7% (54.8%)	14.2% (6.5%)	↓
	授業への積極的取組	96.2% (100%)	79.6% (87.1%)	1-2年↓ 2-4年↑
	卒業の自信	93.8% (90.3%)	65.7% (83.9%)	↑
授業時間外	指示された課題	42.5% (45.2%)	29.0% (20.6%)	1-2年↓ 2-4年↑
	自発的な予習・復習	2.7% (6.5%)	1.1% (3.2%)	1-2年↓ 2-4年↑
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	91.4% (87.1%)		1-3年↑ 3-4年↓
	友達・知人との交流	70.2% (61.3%)		↓
	趣味	56.0% (45.2%)		1-3年↑ 3-4年↓

表Ⅱ-2-(2)-8 学修行動の概要 (赤：70%以上) (赤：20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化の傾向(主に⑥)(在学生の学年間比較)
		④6段階中上位3段階	⑤6段階中上位2段階	
精神	建学の精神	59.8% (60.3%)	33.0% (35.5%)	1-2年→ 2-3年↓ 3-4年↑
外国語	選択している・いた	92.8% (93.5%)		1-2年↓ 2-3年→ 3-4年↑
	読む・書く・会話	30.6% (25.8%)	3.5% (6.5%)	↑
ICT	文章作成・プレゼン	83.9% (90.3%)	32.4% (51.6%)	1-2年↓ 2-4年↑
	表計算	62.5% (48.4%)	16.9% (19.4%)	1-2年↓ 2-4年↑
教養・基礎的スキル	幅広い知識や教養	57.5% (61.3%)	7.8% (9.7%)	1-2年→ 2-3年↓ 3-4年↑
	レポート・論文	59.8% (71.0%)	10.5% (19.4%)	1-2年→ 2-3年↓ 3-4年↑
専門知識・スキル	専門知識・スキルの理解	86.6% (93.5%)	20.9% (35.5%)	1-2年↑ 2-3年↓ 3-4年↑
	専門知識・スキルの使用	73.7% (83.9%)	15.0% (41.9%)	1-2年↓ 2-4年↑
キャリア・社会人基礎力	将来の進路	80.7% (80.6%)	37.5% (48.4%)	1-2年↓ 2-4年↑
	就活を頑張る	91.7% (93.5%)	71.3% (61.3%)	↓
総合力	他者との協働	89.8% (83.9%)	50.9% (51.6%)	1-2年↓ 2-4年↑
	課題発見と解決	89.8% (93.5%)	36.7% (48.4%)	1-3年↓ 3-4年↑
	ものの見方・考え方	86.9% (96.8%)	31.6% (35.5%)	1-2年↓ 2-4年↑
AP適合性	学部の学びとの適合性	89.8% (83.9%)	50.9% (51.6%)	1-2年↓ 2-3年↑ 3-4年→

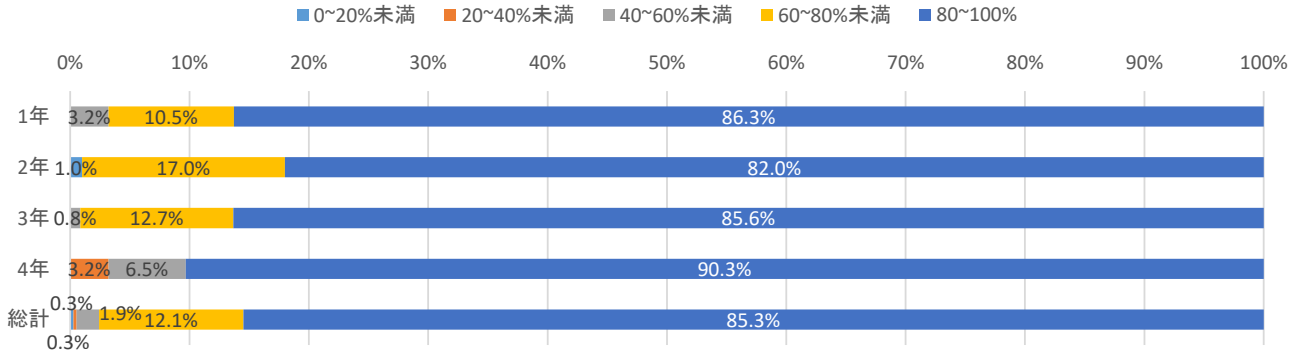


B 集計結果 (図表) 子ども学科

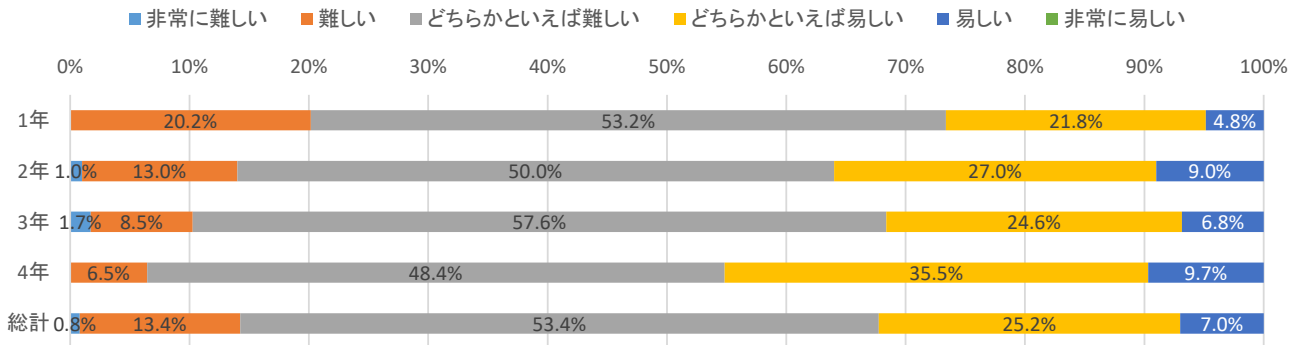
【学修行動調査】

1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

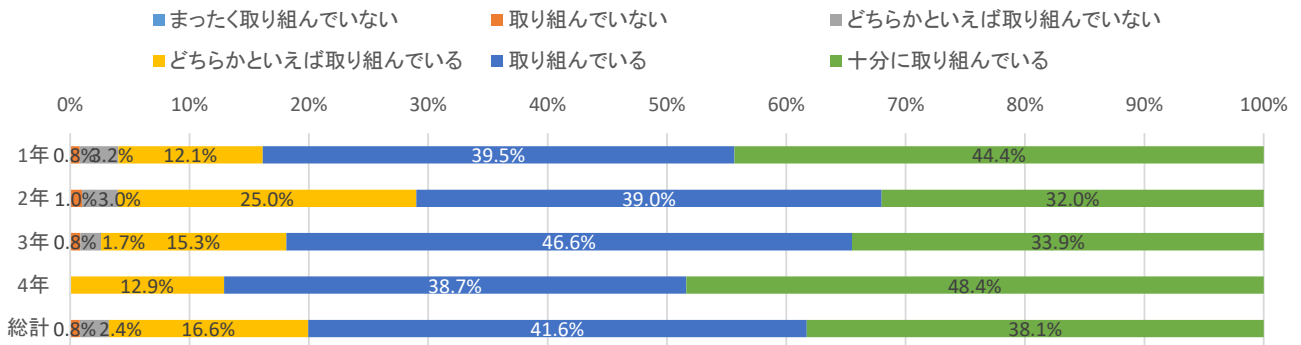
(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など) (無効回答 3年:1)



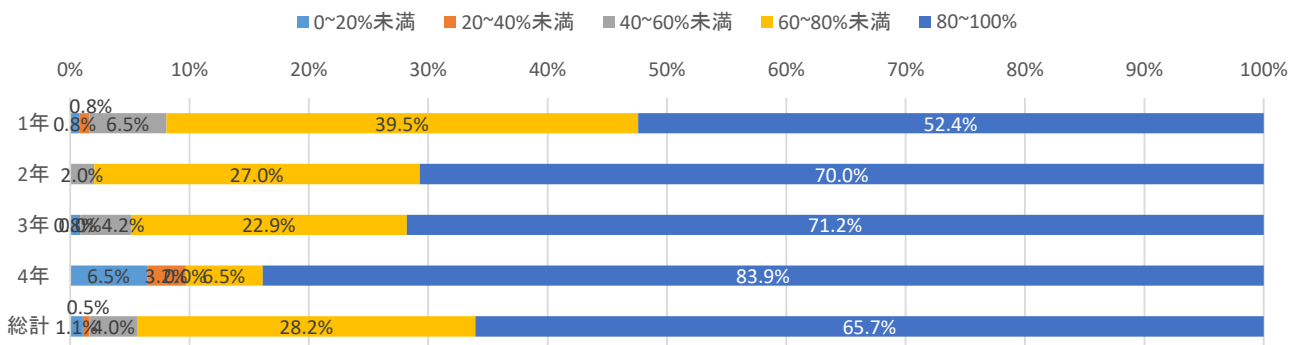
(2) 授業全体の難易度 (無効回答 3年:1)



(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み (無効回答 3年:2)

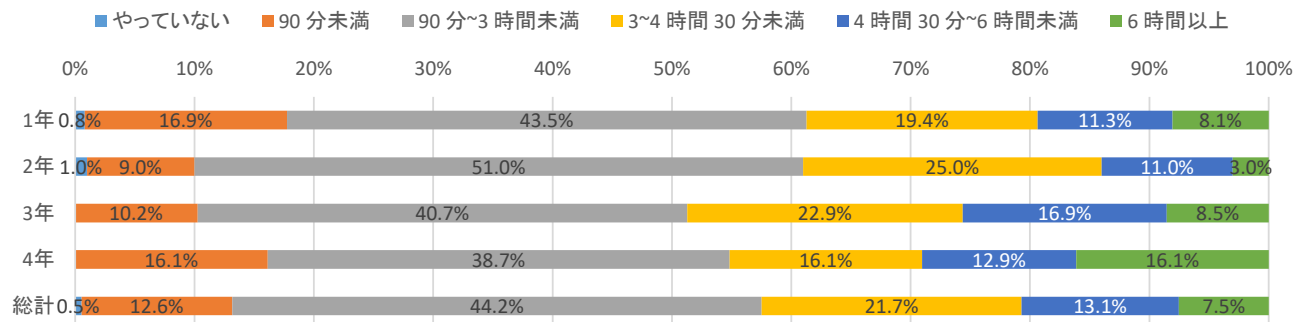


(4) 4年間で卒業できる自信 (無効回答 2年:1、3年:2)

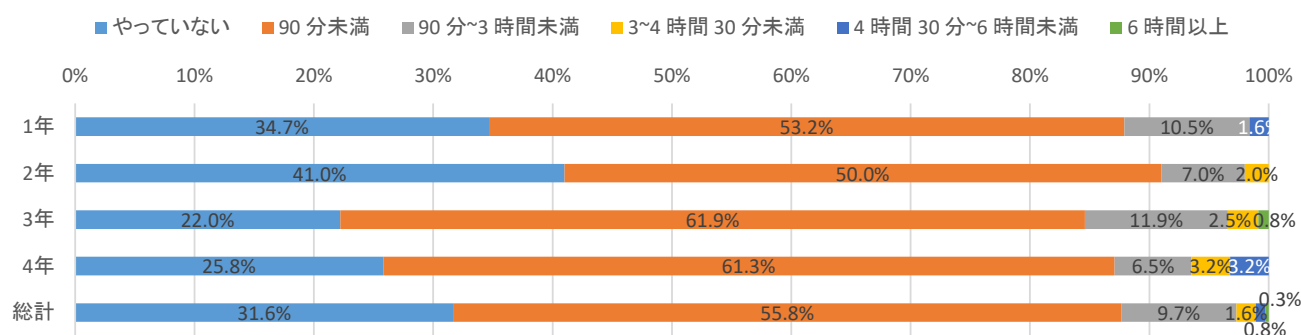


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備、課題やレポート、宿題などをのくらしいやりましたか (無効回答 3年：1)

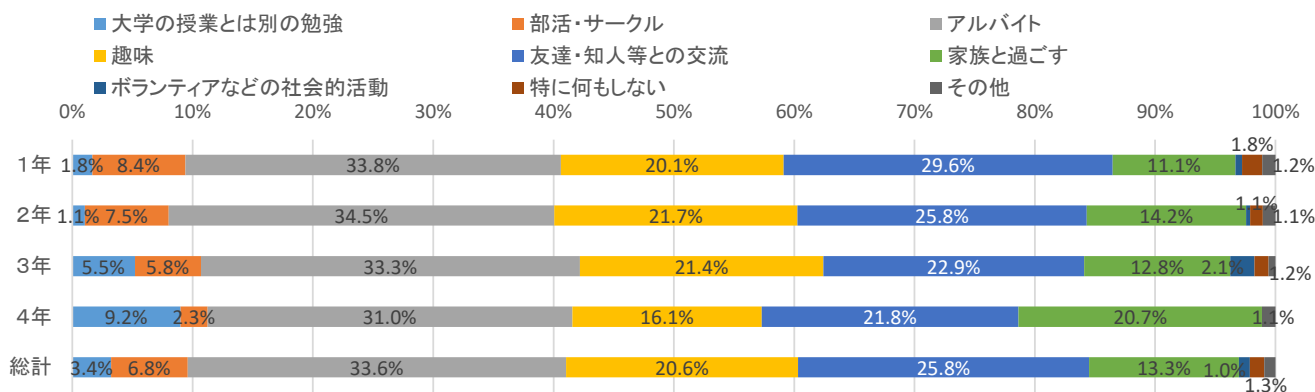


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習 (無効回答 3年：1)

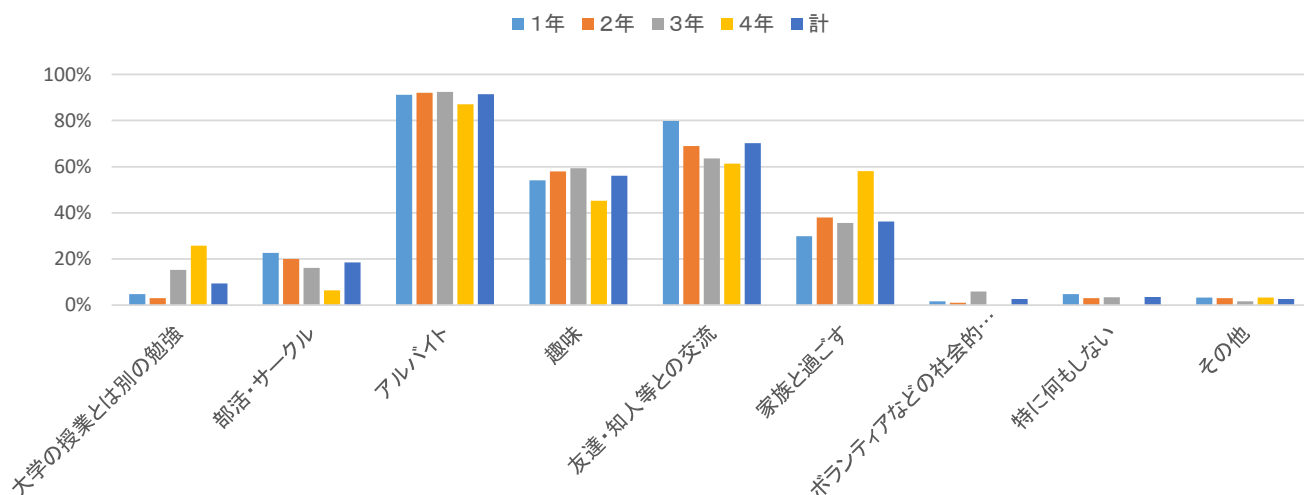


## 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



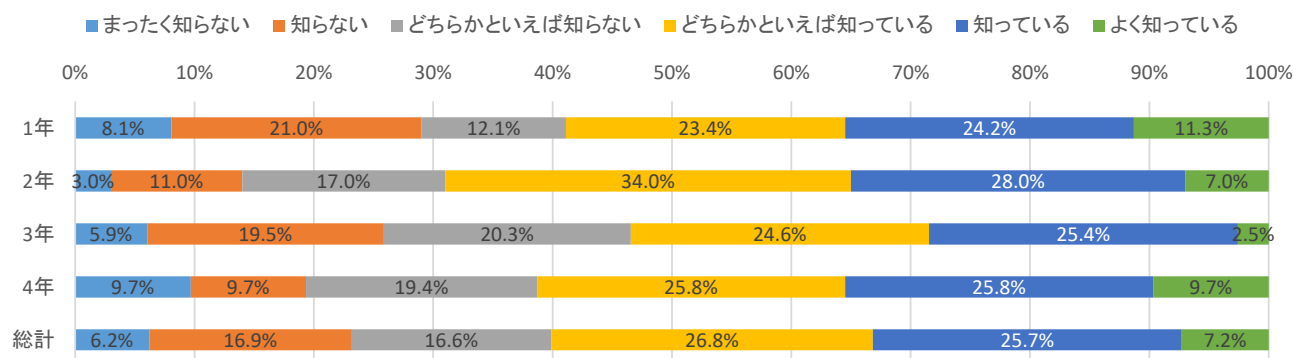
(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答者数に占める各選択肢の回答割合



【学修成果調査】 子ども学科

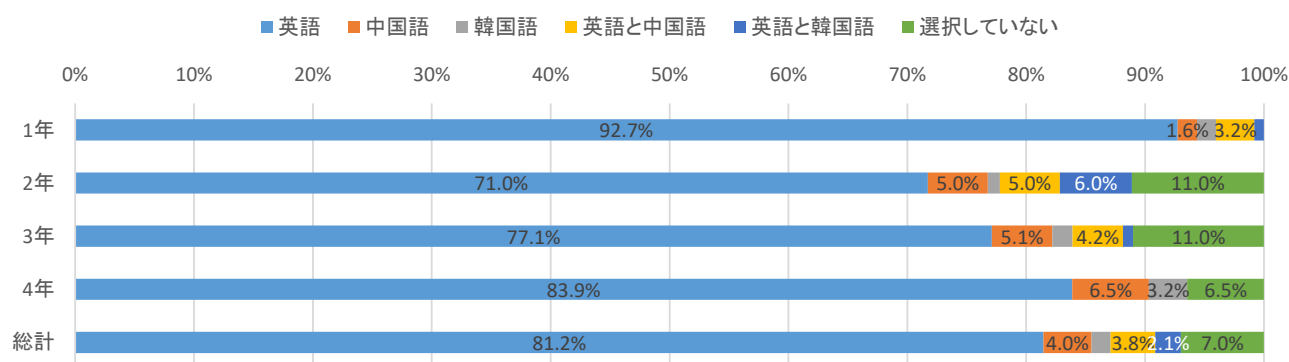
1. 教育理念について

(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか (無効回答 3年：2)

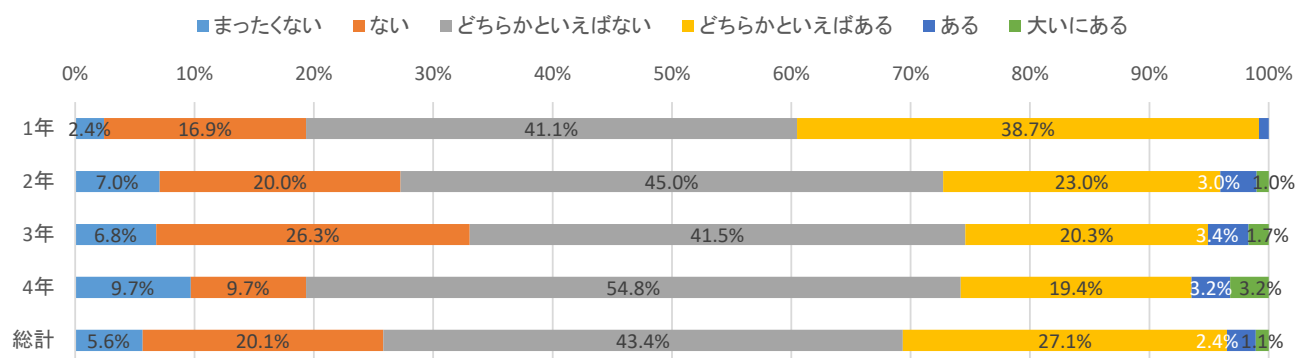


2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか (無効回答 2年：1)

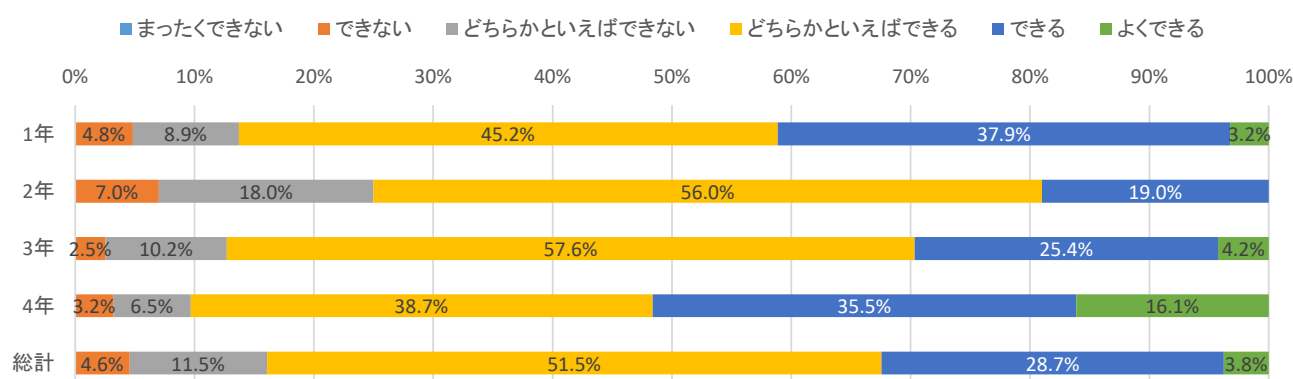


(3) 外国語を読む・書く・話す力 (無効回答 2年：1)

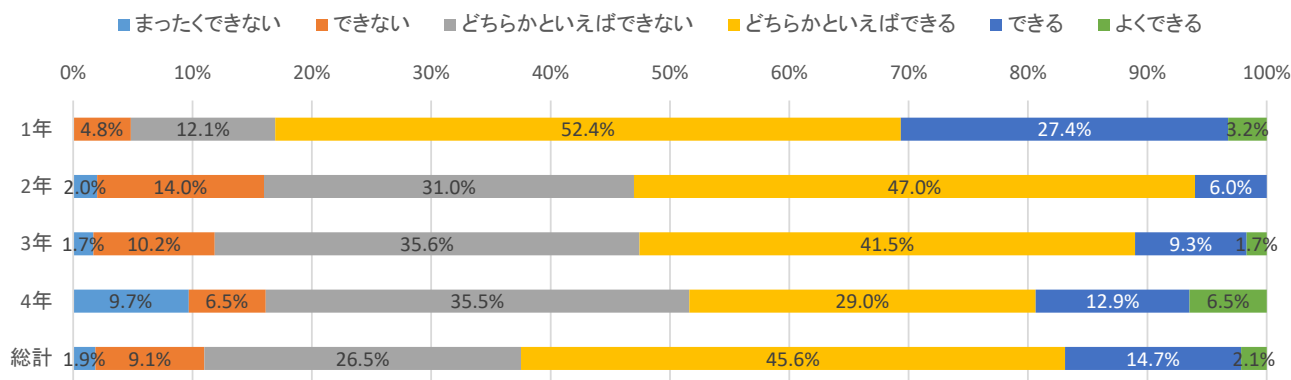


3. ICTリテラシー (=情報機器やインターネットを使う能力) について

(4) 文章作成ソフト (Wordなど) やプレゼンテーションソフト (Power Pointなど)



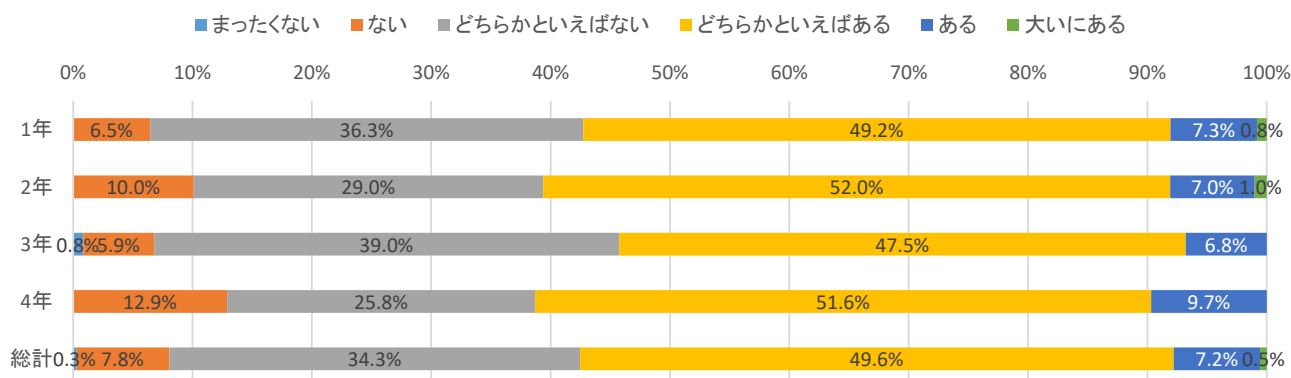
(5) 表計算ソフト (Excelなど)



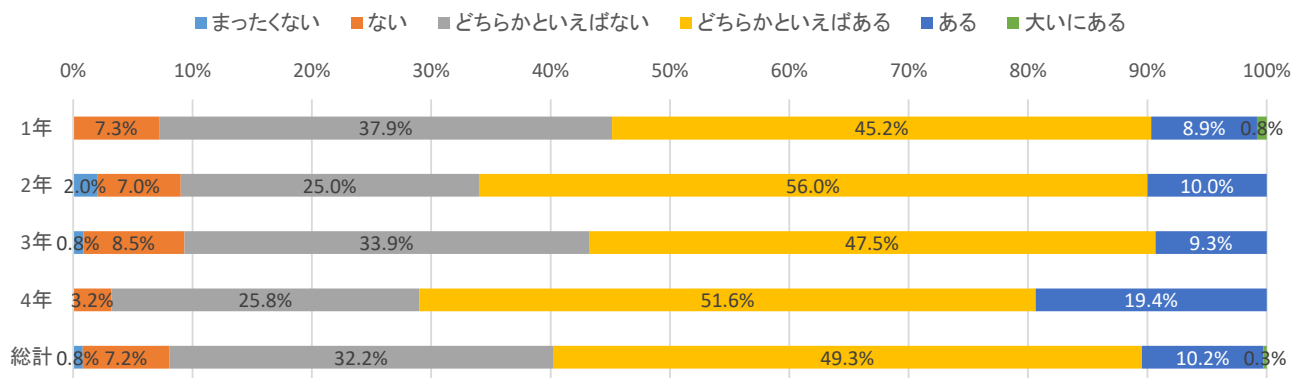
4. 教養・基礎的スキルについて

(6) 専門分野の知識とは別の幅広い知識や教養

(無効回答 2年: 1)

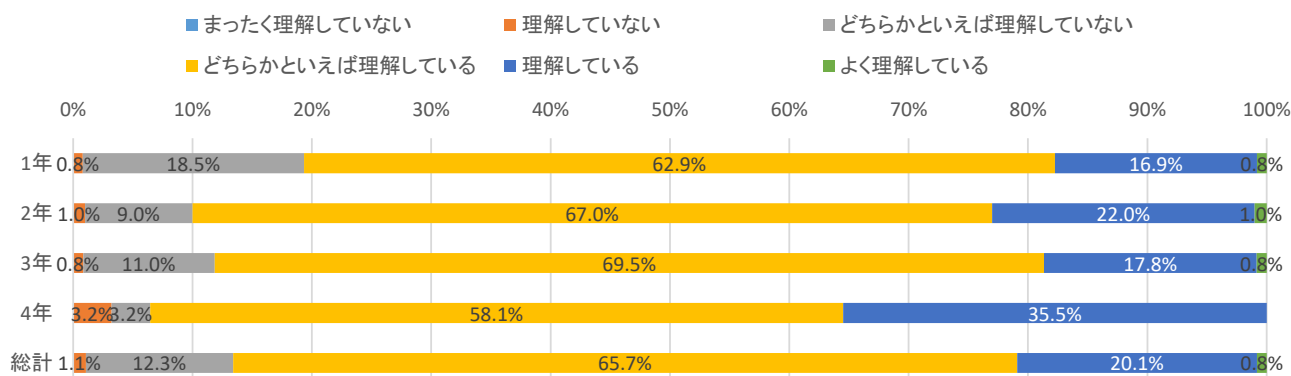


(7) レポートや論文作成に必要なスキル(文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など)

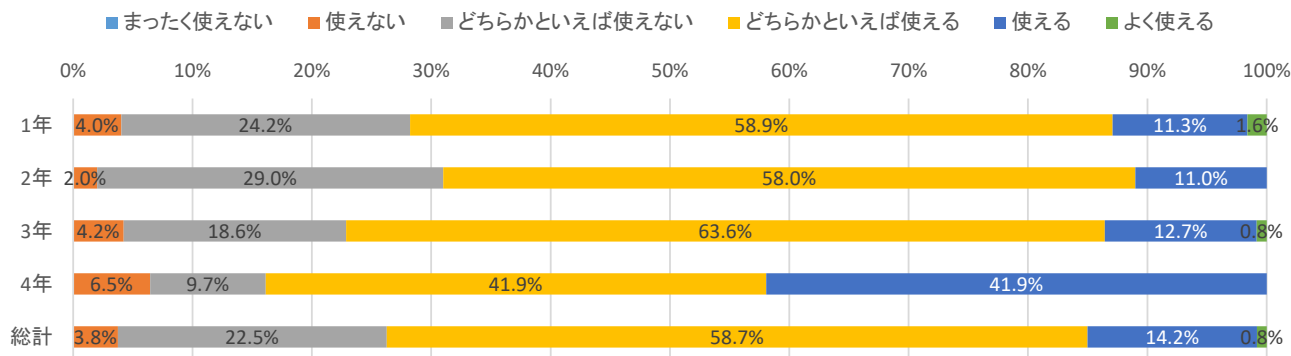


5. 専門知識・専門的スキルについて

(8) 専門知識をどの程度、理解したり身につけたりしていますか

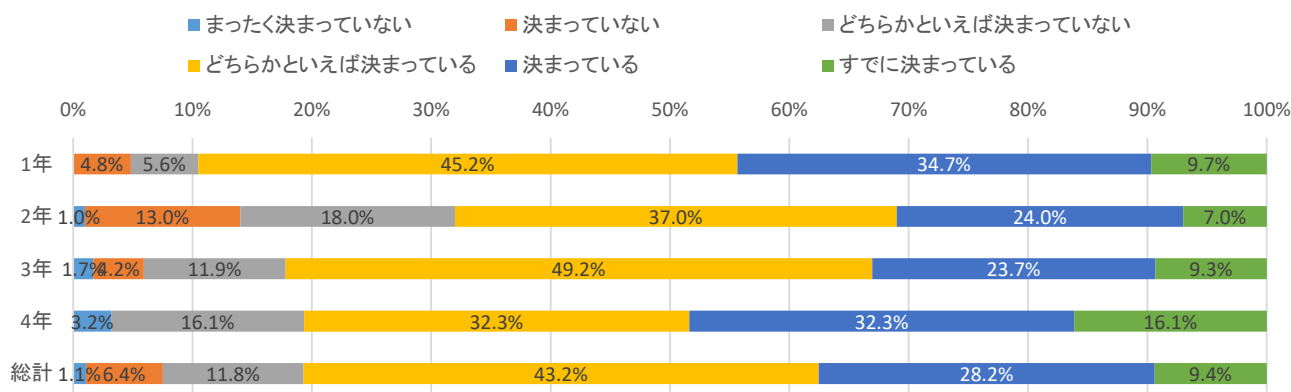


(9) 専門知識を実際の場面で使うことがどの程度できますか

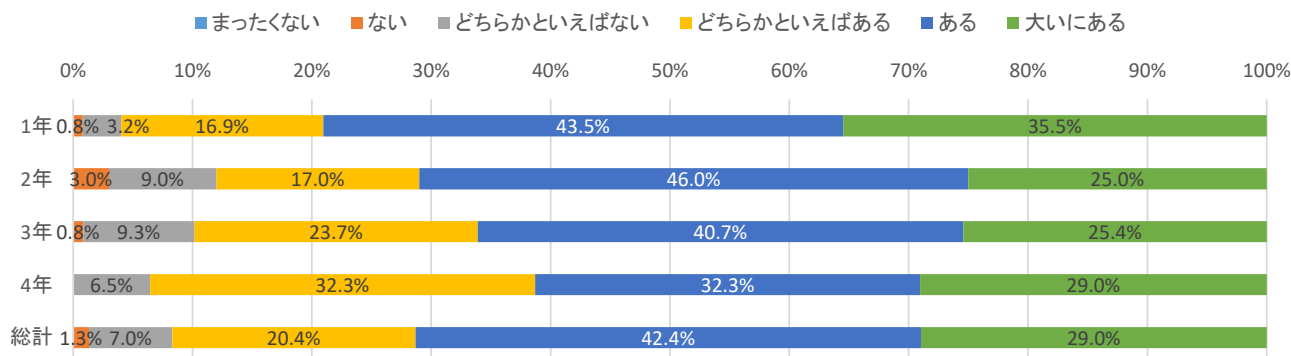


6 キャリア形成について

(10) 将来の進路（職業、進学など）がどの程度決まっていますか



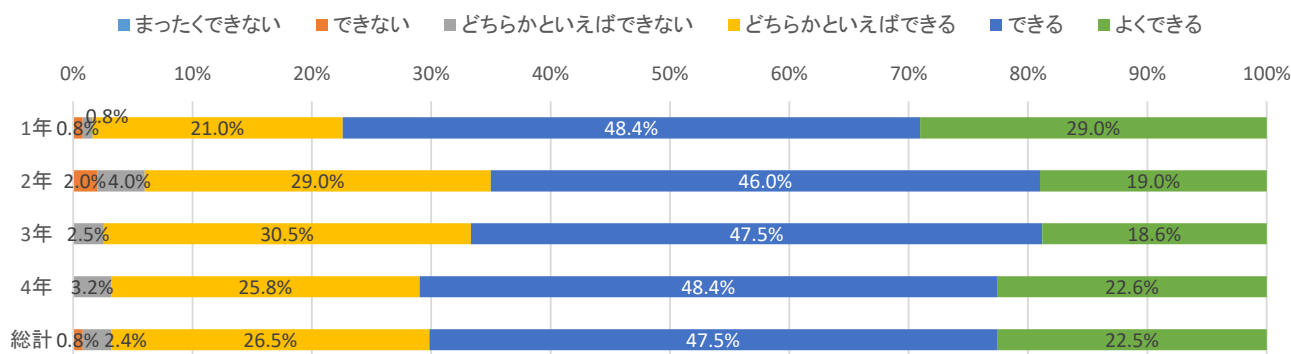
(11) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか (無効回答 2年：5)



7. 総合力について

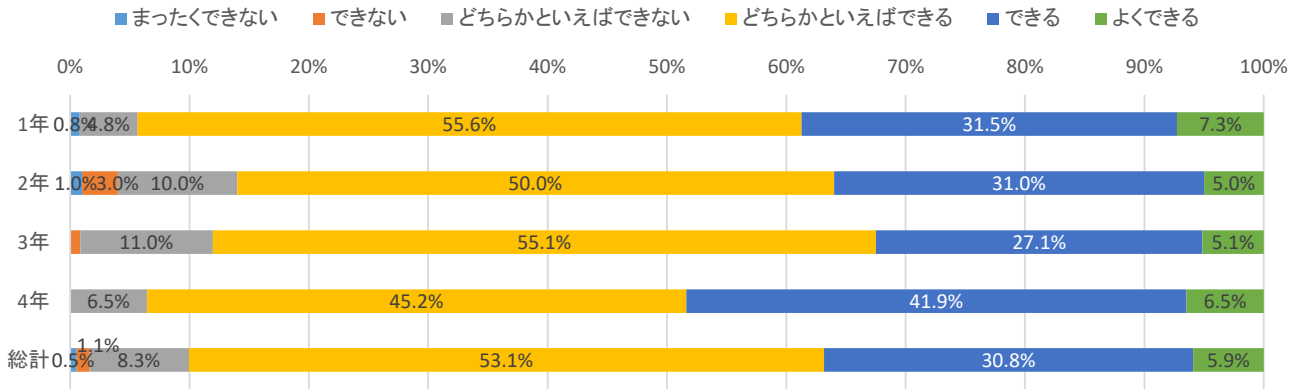
・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えください。

(12) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する



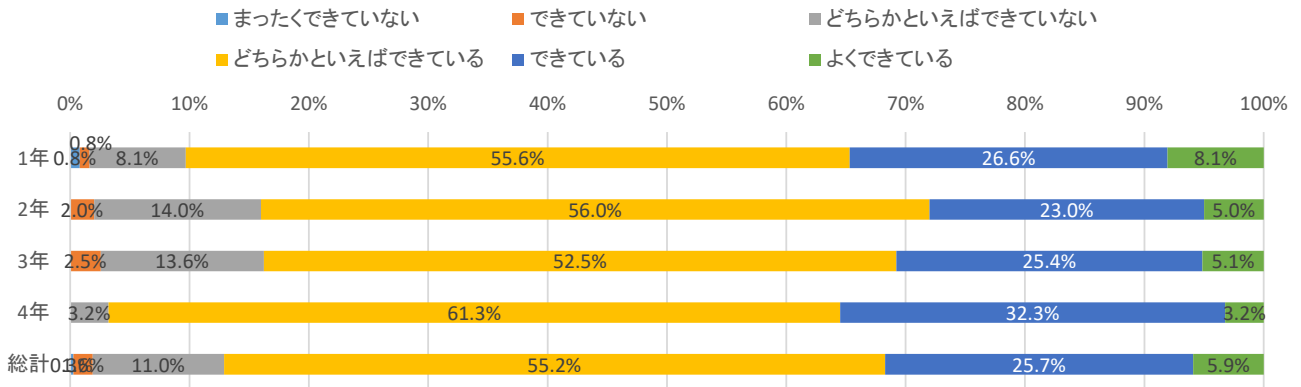
(13) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える

(無効回答 3年：1)



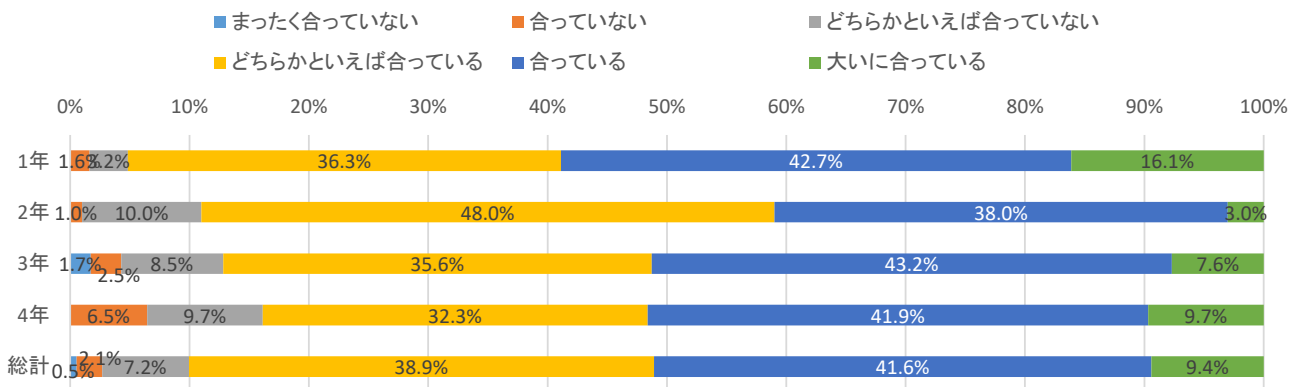
(14) 自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げる

(無効回答 3年：1)



(15) 興味関心や資質・適性からみて学部での学びは自分にどの程度合っているか

(無効回答 3年：1)



## 2) - 5 経営学科

### A 調査結果の概要

下記の表の見方については、本報告書の p.19 をご参照ください。

表Ⅱ-2- (1)-1 学修行動の概要 (赤 : 70%以上) (赤 : 20%以上)

		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化 の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④60%以上、6段階中上位3段階	⑤80%以上、6段階中上位2段階	
授業時間内	出席	68.4% (54.5%)	94.8% (90.9%)	1-2年↗ 2-4年↘
	授業が難しい	78.2% (69.7%)	33.3% (15.2%)	1-3年↘ 3-4年→
	授業への積極的取組	93.1% (93.9%)	67.8% (66.7%)	1-2年→ 2-3年↘ 3-4年↗
	卒業の自信	92.5% (17.9%)	74.0% (15.6%)	1-3年↗ 3-4年↘
授業時間外	指示された課題	18.4% (3.0%)	6.3% (0.0%)	1-2年→ 2-3年↗ 1-2年↘
	自発的な予習・復習	1.7% (0.0%)	1.1% (0.0%)	1-2年↗ 2-4年↘
授業以外の活動 (回答数/回答者数)	アルバイト	83.9% (84.8%)		1-2年↗ 2-4年↘
	友達・知人との交流	68.4% (51.5%)		1-2年↘ 2-3年↗ 3-4年↘
	趣味	60.3% (72.7%)		1-3年↘ 3-4年↗

表Ⅱ-2- (1)-2 学修行動の概要 (赤 : 70%以上) (赤 : 20%以上)

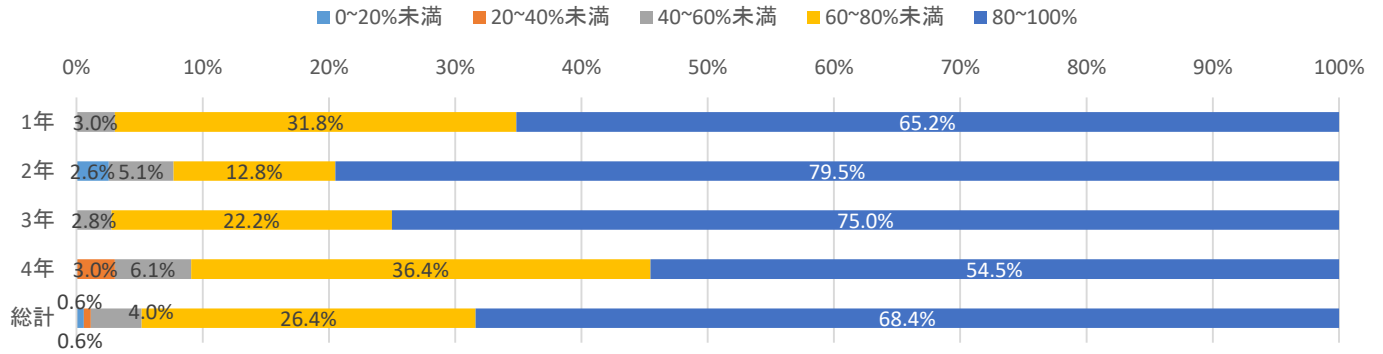
		①及第者の割合(括弧内は4年生)		②4年間の変化 の傾向(主に⑥) (在学生の学年間比較)
		④6段階中上位3段階	⑤6段階中上位2段階	
精神	建学の精神	53.4% (39.4%)	28.2% (15.2%)	1-2年→ 2-4年↘
外国語	選択している・いた	77.0% (72.7%)		1-3年↘ 3-4年↗
	読む・書く・会話	24.1% (27.3%)	2.3% (3.0%)	1-2年↘ 2-3年↗ 3-4年↘
ICT	文章作成・プレゼン	70.7% (84.8%)	29.9% (42.4%)	1-2年↗ 2-3年→ 3-4年↗
	表計算	66.7% (81.8%)	24.1% (39.4%)	1-2年↗ 2-3年↘ 3-4年↗
教養・基礎的 スキル	幅広い知識や教養	47.7% (54.5%)	10.9% (15.2%)	1-2年↘ 2-3年→ 3-4年↗
	レポート・論文	44.8% (57.6%)	13.8% (27.3%)	↗
専門知識・ スキル	専門知識・スキルの理解	57.5% (54.5%)	10.3% (12.1%)	やや↗
	専門知識・スキルの使用	44.3% (42.4%)	6.9% (6.1%)	1-2年↘ 2-3年↗ 3-4年↘
	「経営学分野」の理解	78.2% (75.8%)	19.0% (9.1%)	1-2年↗ 2-4年↘
	「会計学分野」の理解	58.0% (78.8%)	14.9% (12.1%)	1-2年↗ 2-4年↘
	「マーケティング分野」の理解	74.1% (78.8%)	21.8% (21.8%)	1-2年↗ 2-3年→ 3-4年↘
キャリア・ 社会人基礎力	将来の進路	42.0% (63.6%)	21.3% (51.5%)	1-2年↘ 2-4年↗
	就活を頑張る	73.6% (75.8%)	59.8% (60.6%)	1-2年↗ 2-3年↘ 3-4年↗
総合力	他者との協働	87.9% (90.9%)	55.7% (57.6%)	1-3年↗ 3-4年↘
	課題発見と解決	83.9% (84.8%)	34.5% (33.3%)	1-2年↗ 2-4年↘
	ものの見方・考え方	75.3% (66.7%)	32.2% (27.3%)	1-2年↗ 2-4年↘
AP適合性	学部での学びとの適合性	85.6% (84.8%)	34.5% (27.3%)	1-2年↘ 2-3年↗ 3-4年↘

B 集計結果 (図表) 経営学科

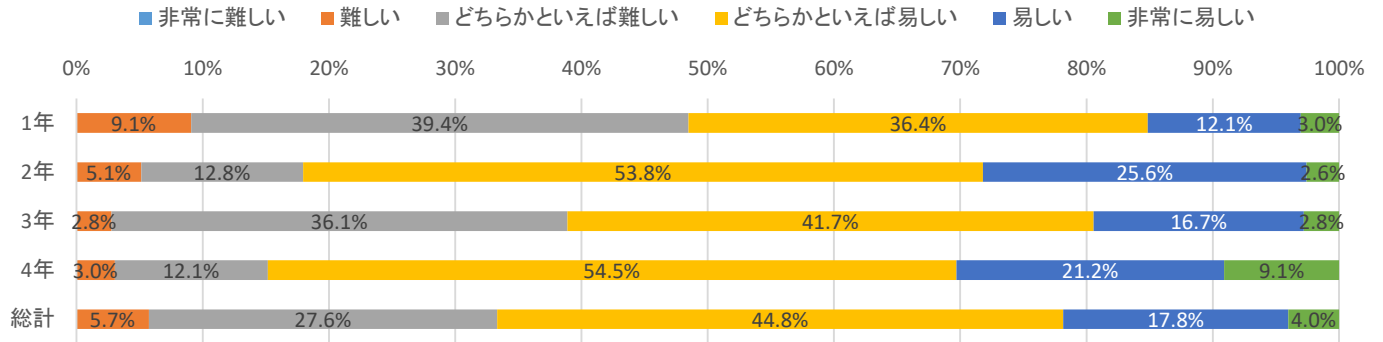
【学修行動調査】

1. 1週間 (平均的な) における授業時間内 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題などに取り組む時間内) での学修行動について

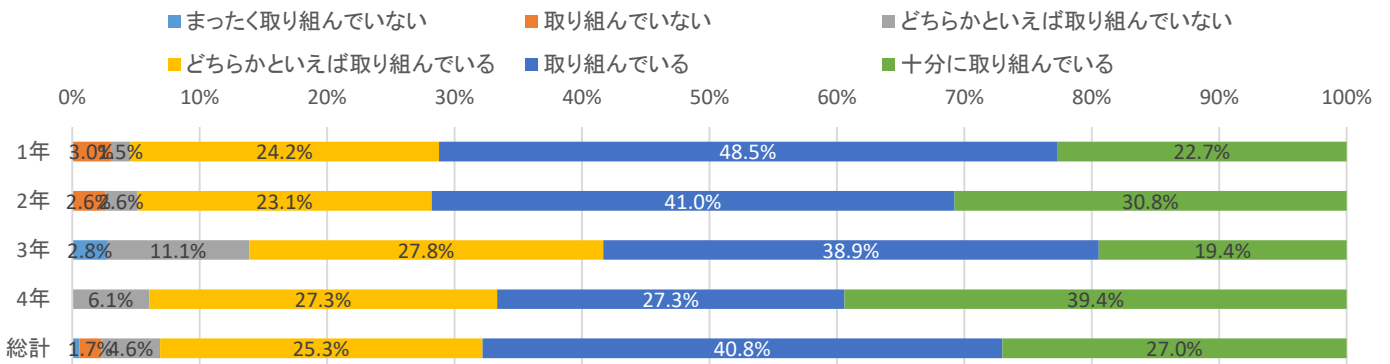
(1) 授業への出席割合 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は、課題などの提出回数など)



(2) 授業全体の難易度

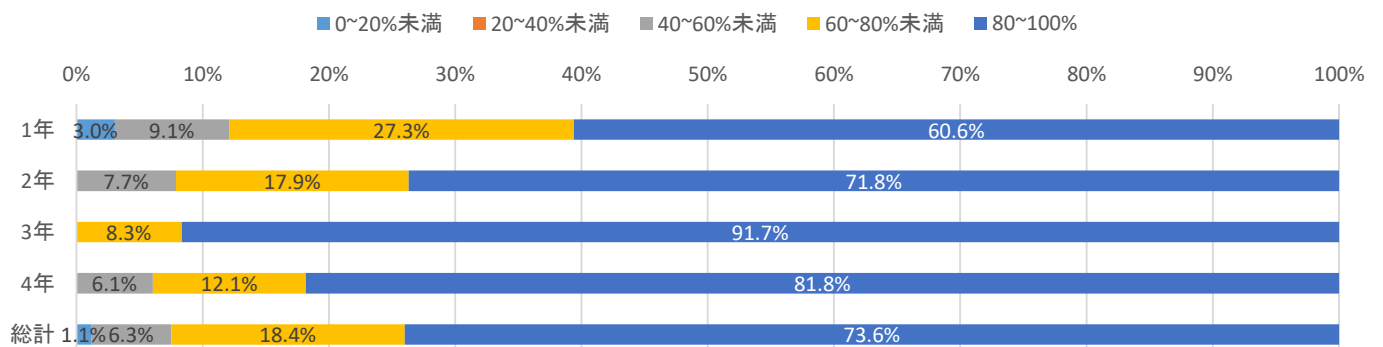


(3) 授業 (オンデマンド型、教材配布型の授業の場合は課題など) への積極的取り組み



(4) 4年間で卒業できる自信

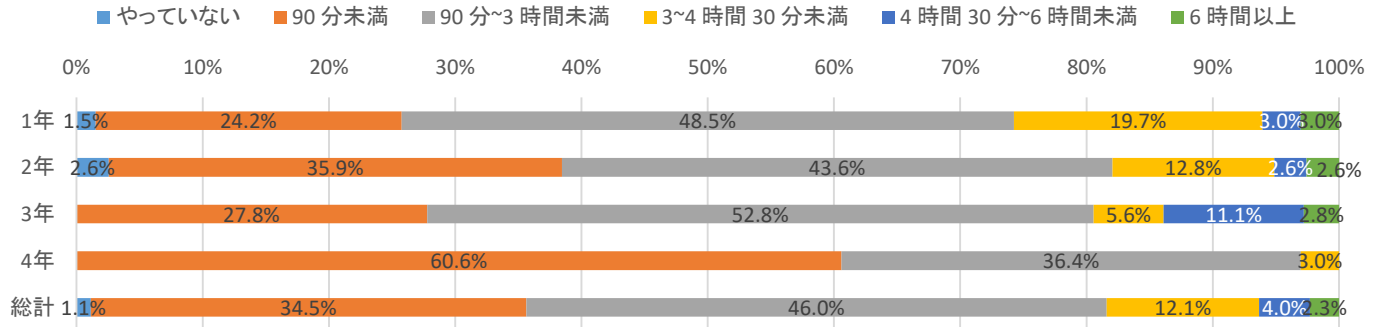
(無効回答 3年: 1)



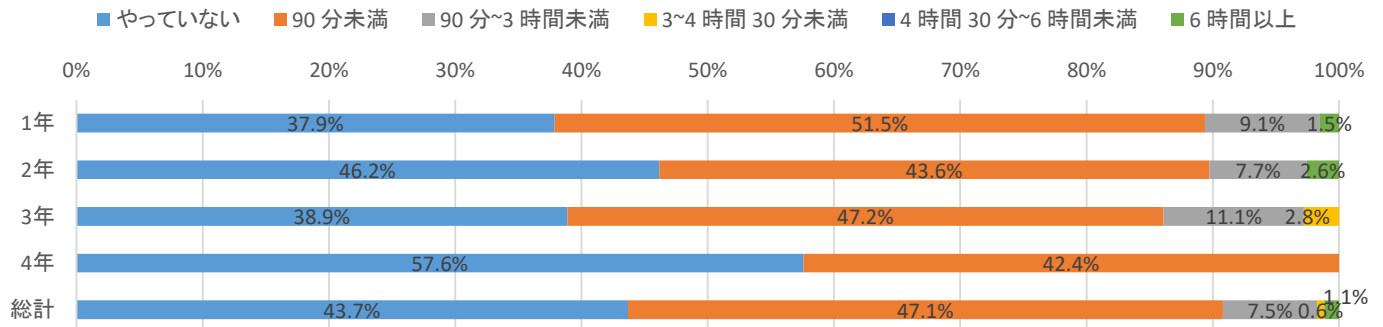


## 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(5) 先生から指示された授業での発表の準備、課題やレポート、宿題などをのくらいやりましたか

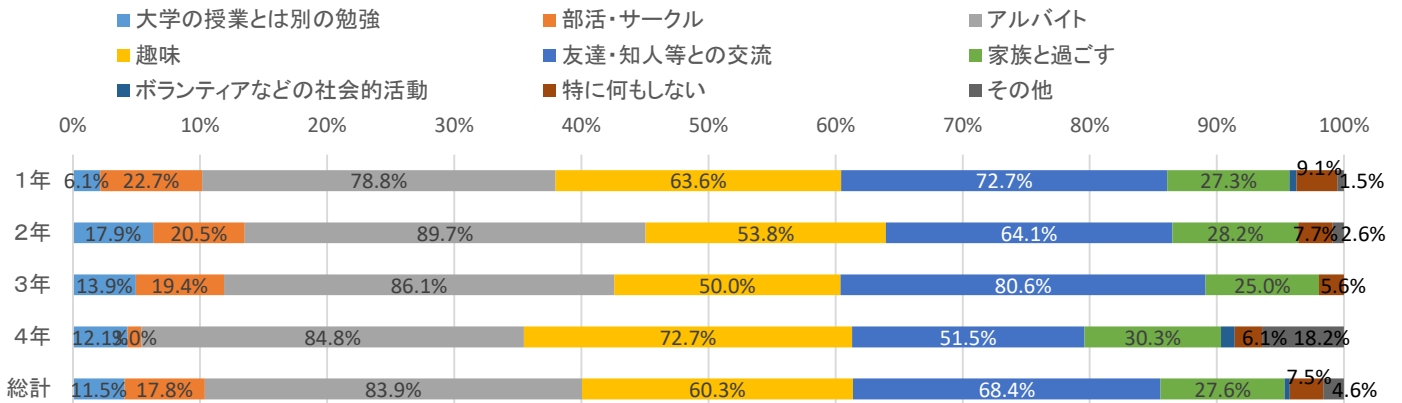


(6) 先生から指示された課題等とは別の自発的な授業の予習と復習

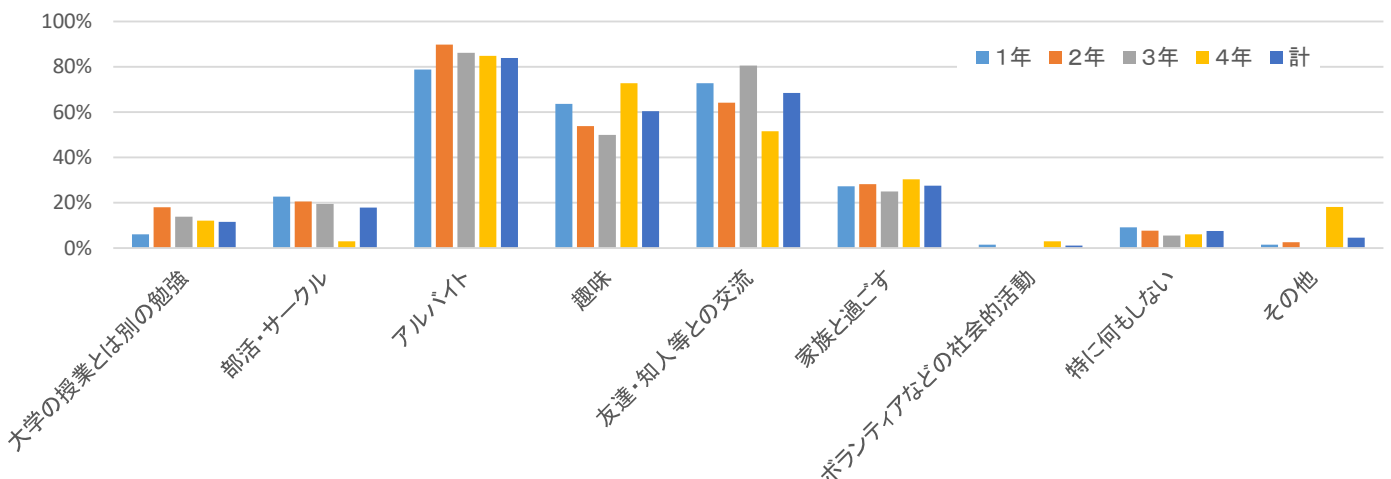


## 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)-1 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答総数に占める各選択肢の回答割合



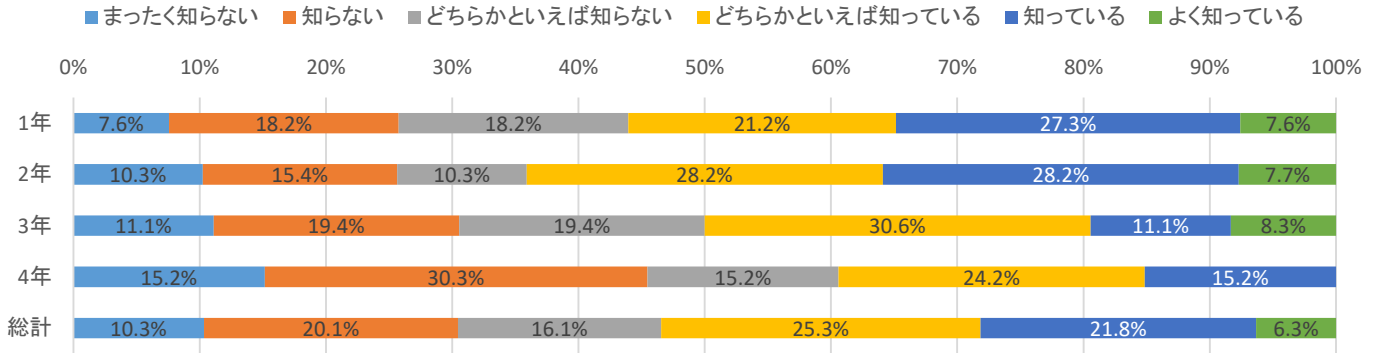
(7)-2 授業以外の時間で主に行っていること（上位3つ） ※回答者数に占める各選択肢の回答割合



【学修成果調査】 経営学科

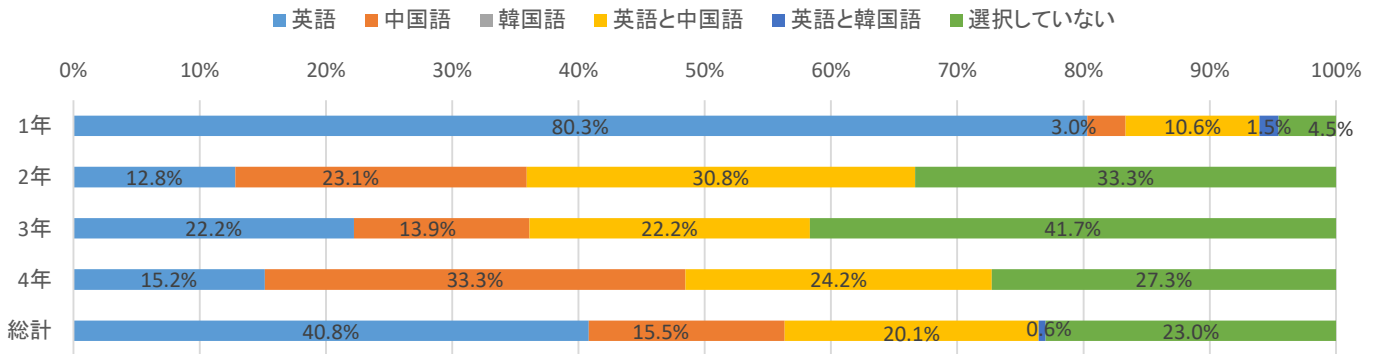
1. 教育理念について

(1) 本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか

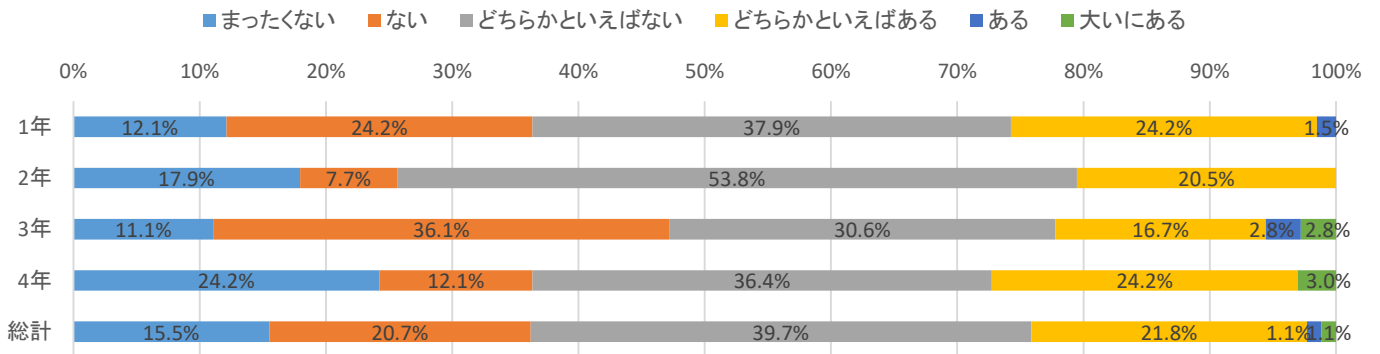


2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業を選択していますか・いましたか

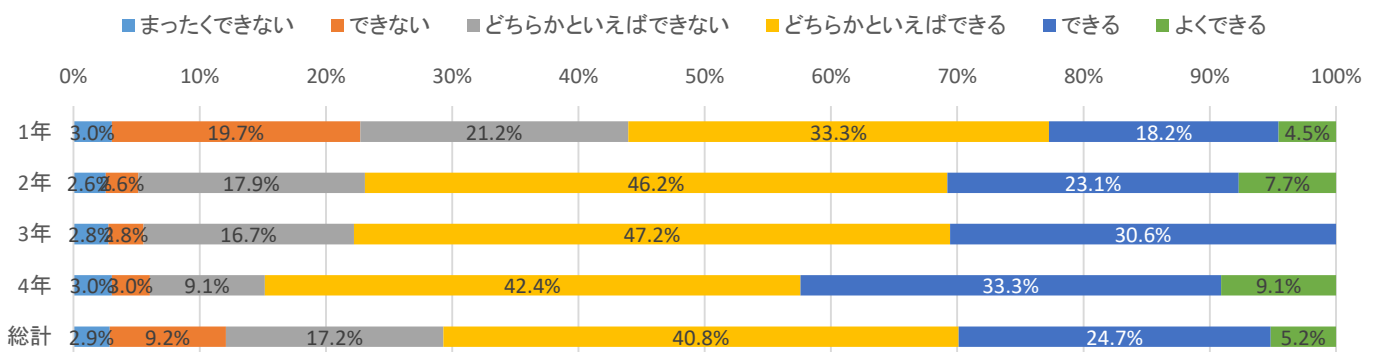


(3) 外国語を読む・書く・話す力

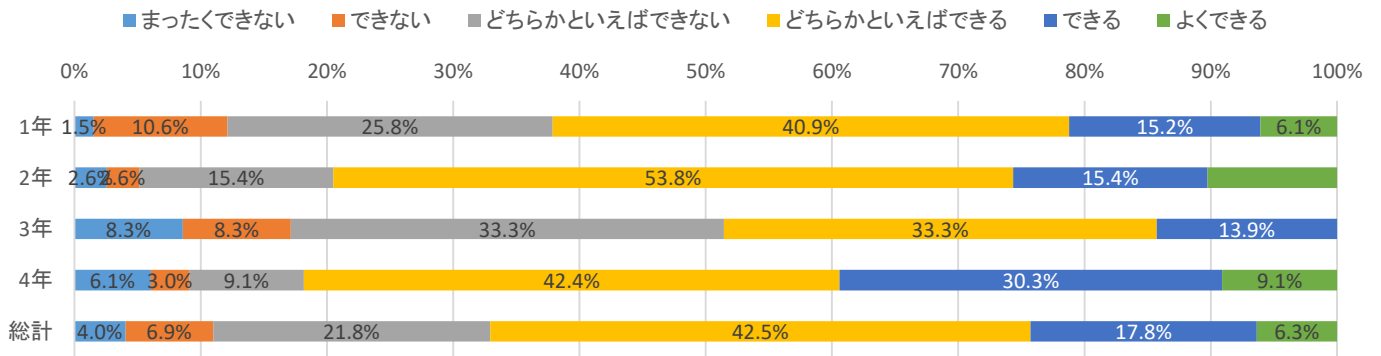


3. ICTリテラシー（=情報機器やインターネットを使う能力）について

(4) 文章作成ソフト（Wordなど）やプレゼンテーションソフト（Power Pointなど）

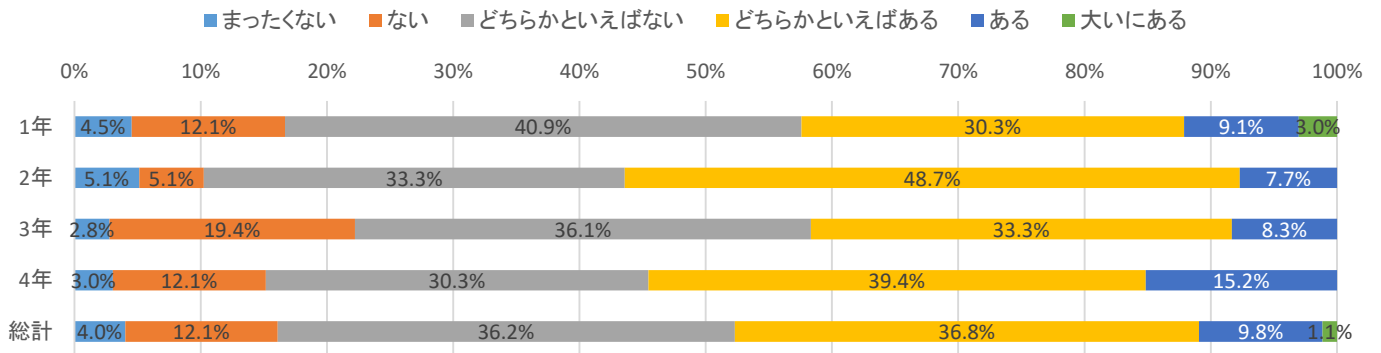


(5) 表計算ソフト (Excelなど)

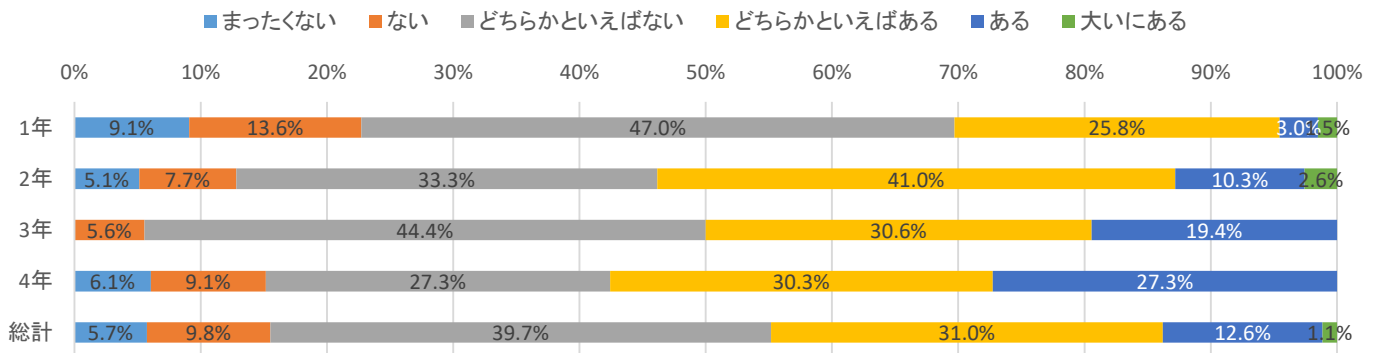


4. 教養・基礎的スキルについて

(6) 専門分野の知識とは別の幅広い知識や教養

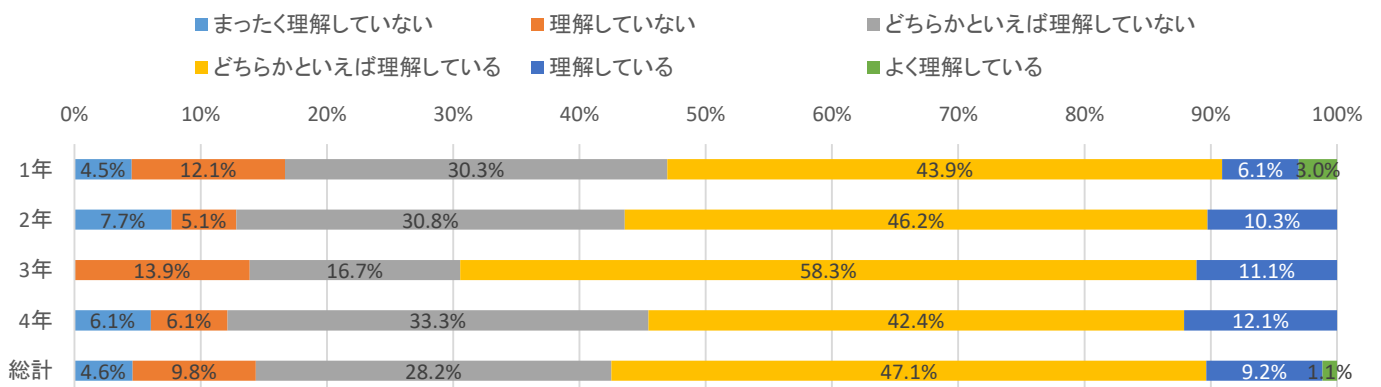


(7) レポートや論文作成に必要なスキル(文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など)

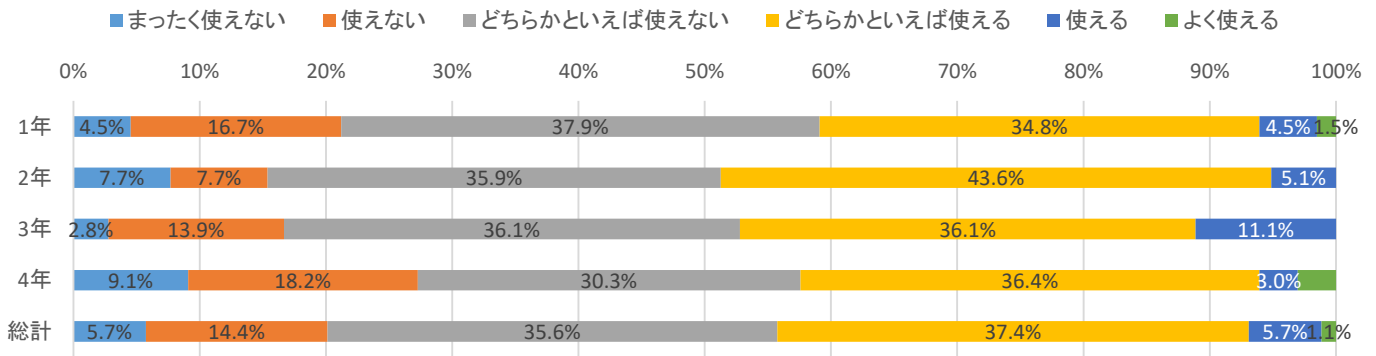


5-1. 専門知識・専門的スキルについて

(8) 専門知識をどの程度、理解したり身につけたりしていますか

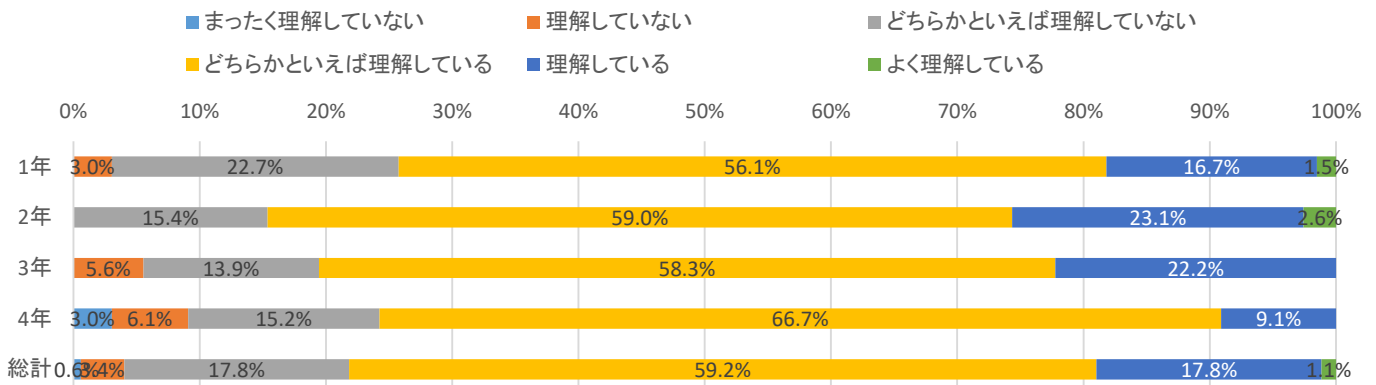


(9) 専門知識を実際の場面で使うことがどの程度できますか

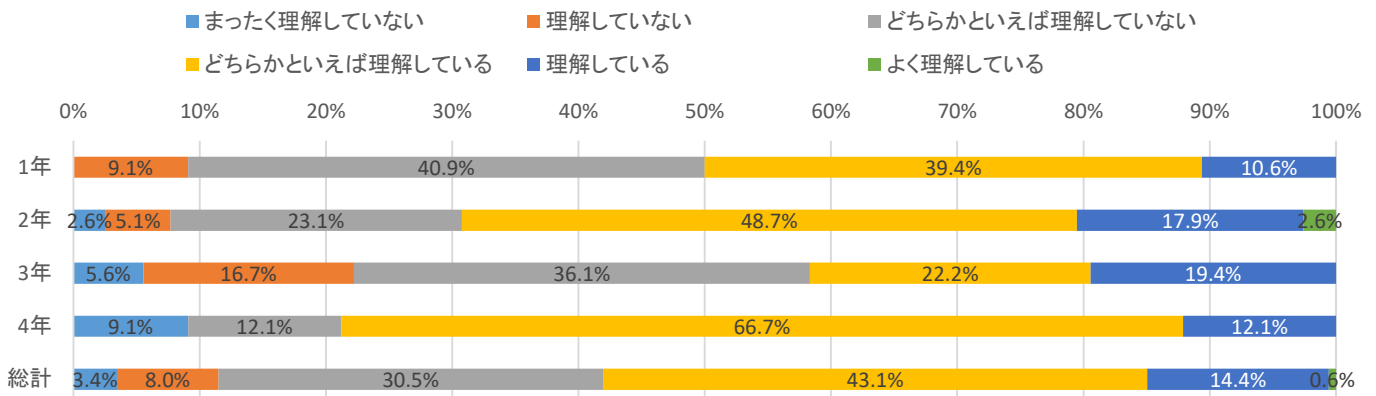


5-2. 経営学部の専門科目の理解について

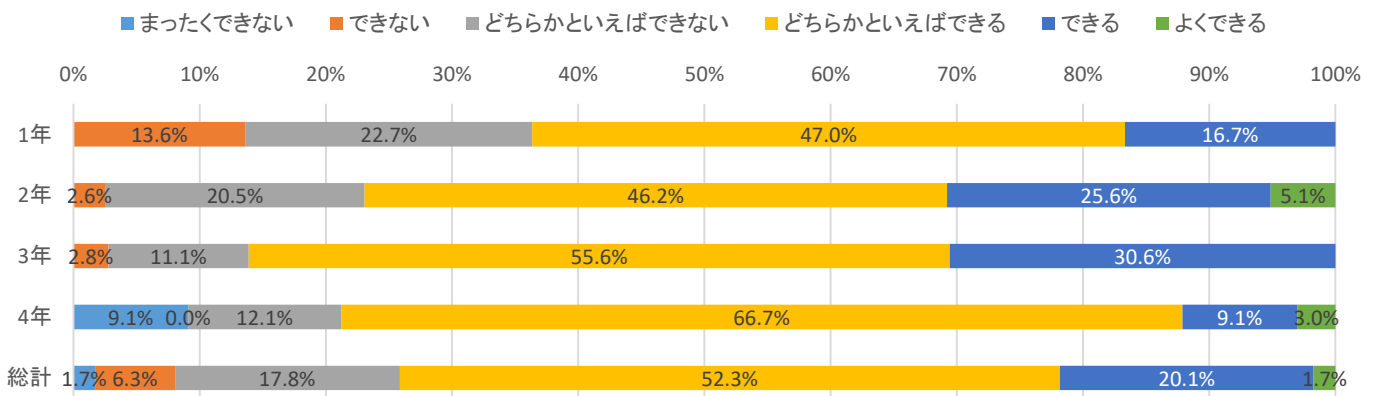
(10) 「経営学分野」の学びを、どの程度理解していますか。



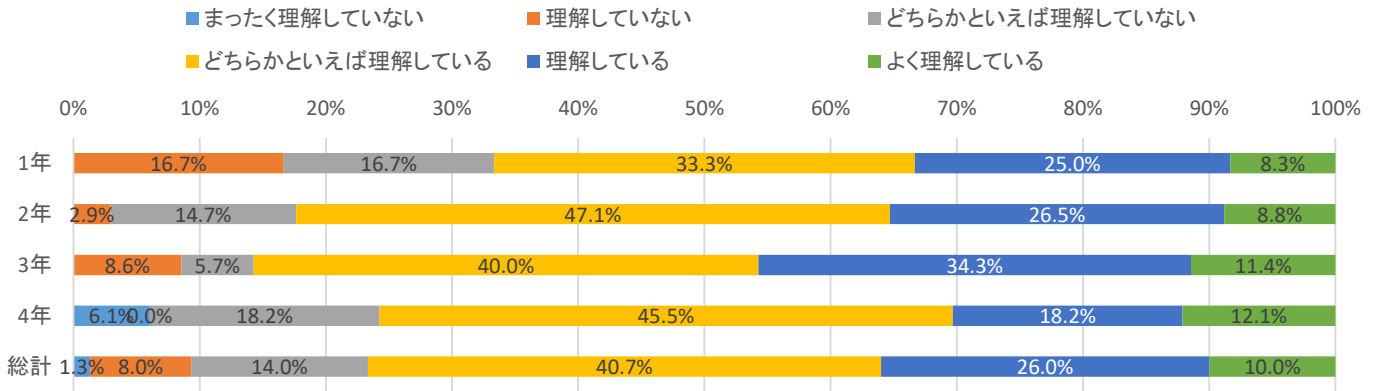
(11) 「会計学分野」の学びを、どの程度理解していますか。



(12) 「マーケティング分野」の学びを、どの程度理解していますか。

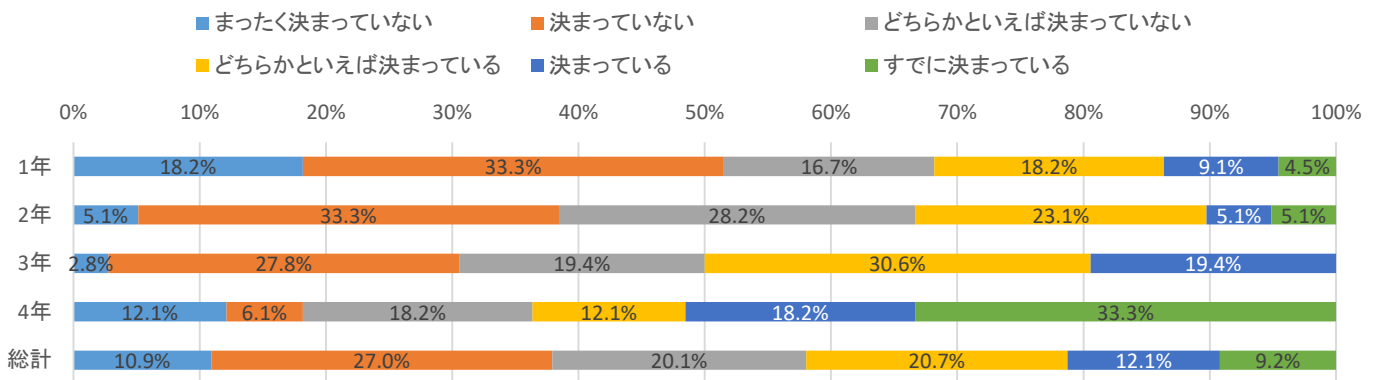


(13) 「ビジネス分野(ファッション分野、エンターテインメント分野、トラベル・ホスピタリティ(観光)分野)」の学びのうち、履修している分野の学びを、どの程度理解していますか。(未履修 1年:18 2年:5 3年:1)

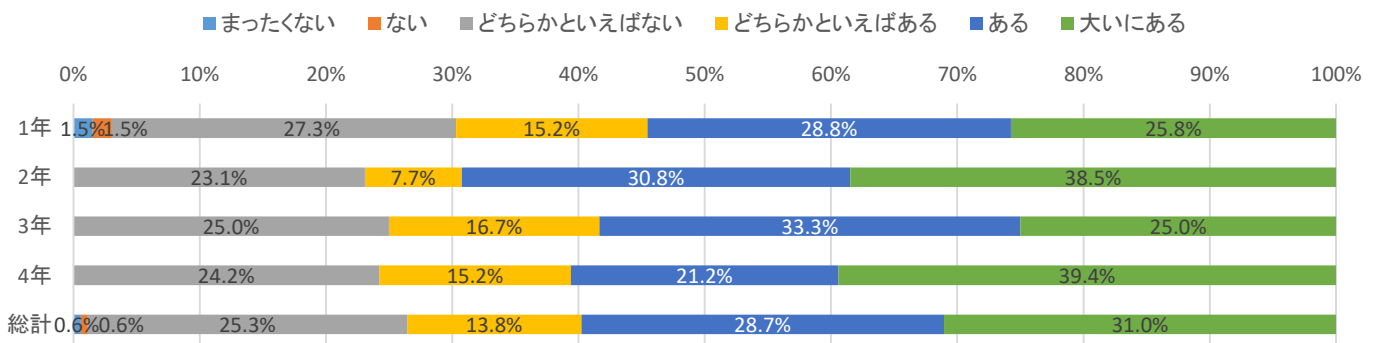


## 6 キャリア形成について

(14) 将来の進路(職業、進学など)がどの程度決まっていますか



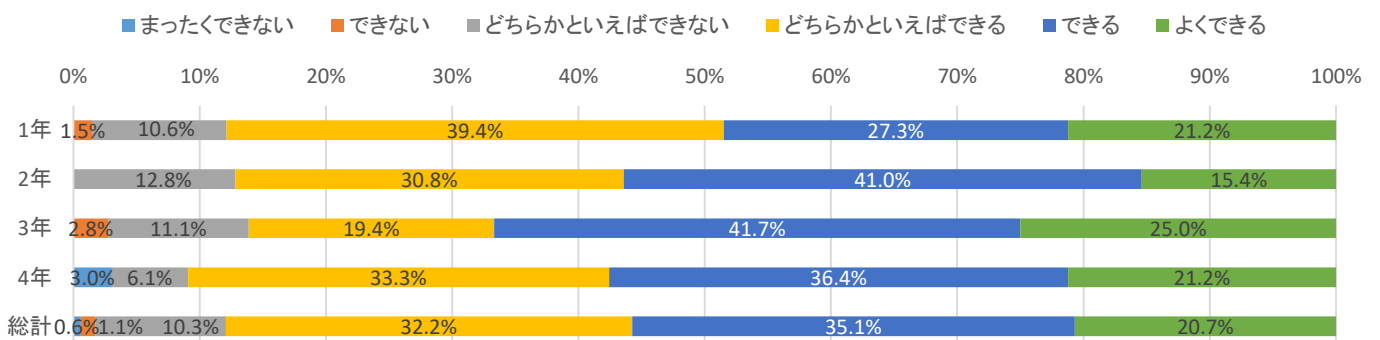
(15) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか



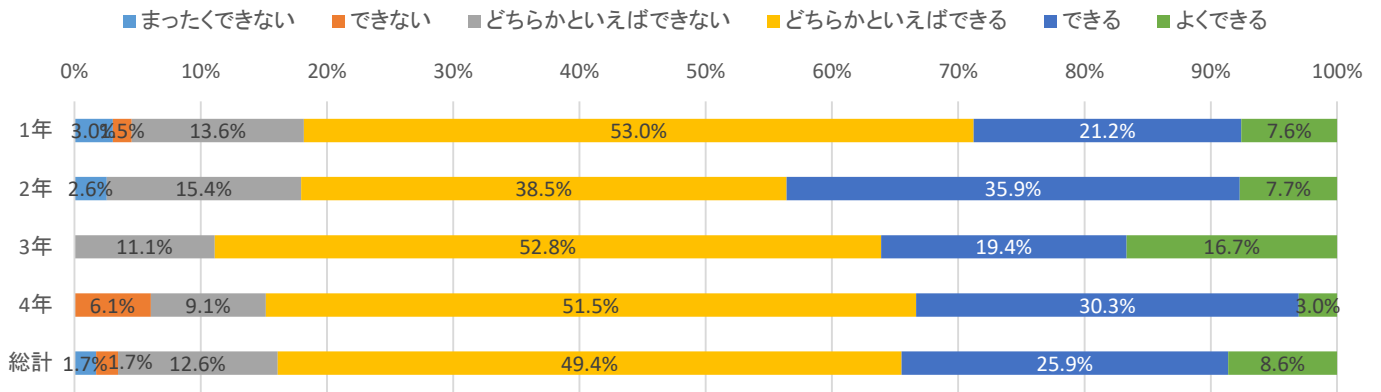
## 7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身についていると思うかお答えください。

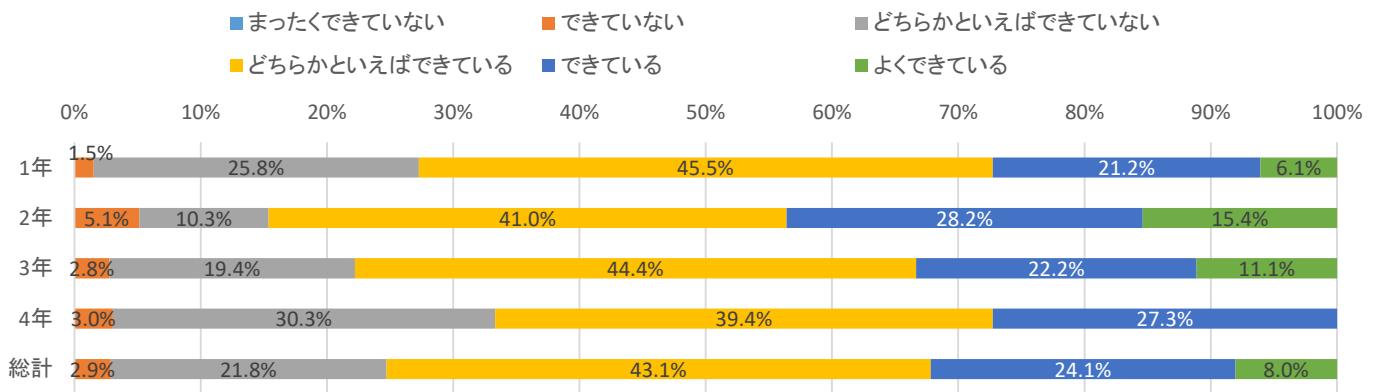
(16) 他者とコミュニケーションを図りながら協働する



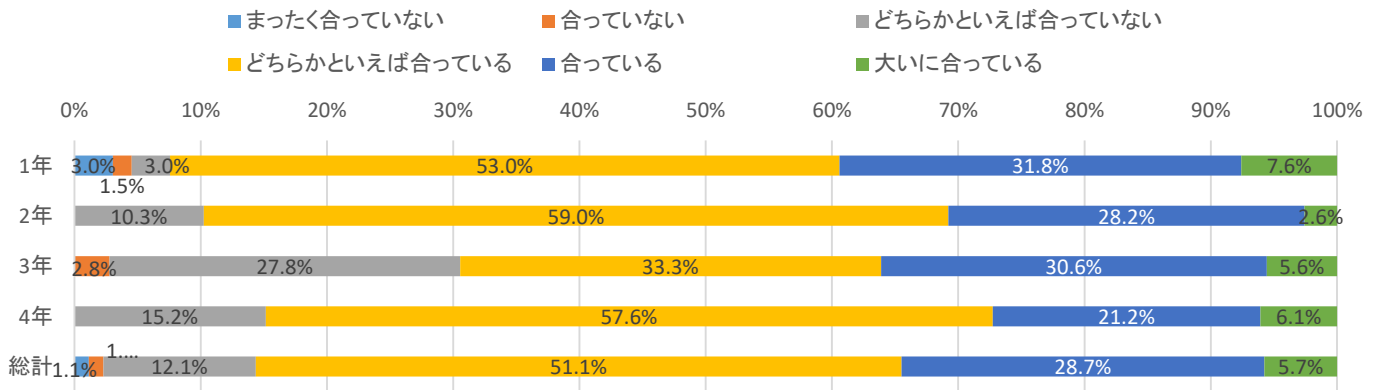
(17) 課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考える



(18) 自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げる



(19) 興味関心や資質・適性からみて学部の学びは自分にどの程度合っているか



### 3 自由記述

(1) 短期大学

(2) 大 学

詳細は下記アドレスをクリックして「**教職員向け (学内専用)**」にお入りください。

<https://www.tsu.ac.jp/guide/education/ir/report/>

### Ⅲ 資料

#### 1 アンケート票

## 2022年度 東京成徳短期大学学修調査（行動・成果調査）

本調査は、学生の学修行動と学修成果に関する実態を把握し、今後の教育の質向上に資する基礎資料を得ることを目的に行うものです。調査によって得られたデータはこの調査目的のみに使用するものであり、個人のデータを公表することはありません。

- ・担任教員名 [   ]
- ・学籍番号 [   ]
- ・氏名 [   ]
- ・学科 回答不要です
- ・学年 ①1年 ②2年
- ・入試 ①総合型選抜      ②学校推薦型選抜      ③一般選抜      ④共通テスト利用      ⑤社会人入試

#### 【学修行動調査】

##### 1.一週間（平均的な）における学修行動について

(1) 授業には何割くらい出席していますか。

- ①0～20%未満   ②20～40%未満   ③40～60%未満   ④60～80%未満   ⑤80～100%

(2) 興味のある授業はどれくらいありますか。

- ①0～20%未満   ②20～40%未満   ③40～60%未満   ④60～80%未満   ⑤80～100%

(3) 授業全体の難易度はどの程度ですか。

- ①非常に易しい   ②やや易しい   ③普通   ④やや難しい   ⑤非常に難しい

(4) 授業には積極的に取り組みましたか。

- ①まったくできていない   ②ほとんどできていない   ③多少はできている   ④ある程度できている  
⑤ほぼできている   ⑥よくできている

(5) 一日に平均何時間くらいパソコン（スマホ・タブレット）等を使用していますか。

- ①0～1.5時間未満   ②1.5～3時間未満   ③3～4.5時間未満   ④4.5～6時間未満  
⑤6～7.5時間未満   ⑥7.5時間以上

(6) 2年間で卒業できる自信はどれくらいありますか。

- ①0～20%未満   ②20～40%未満   ③40～60%未満   ④60～80%未満   ⑤80～100%

##### 2. 1週間（平均的な）における授業時間外での学修行動について

(7) 授業で指示された準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりますか。

- ①やっていない   ②90分未満   ③90分～3時間未満   ④3～4時間30分未満   ⑤4時間30分～6時間未満   ⑥6時間以上



(8) 授業の予習を1週間合計でどのくらいやりますか。

- ①やっていない ②90分未満 ③90分～3時間未満 ④3～4時間30分未満 ⑤4時間30分～6時間未満 ⑥6時間以上

(9) 授業の課題やノートの整理、復習、ピアノ練習などを1週間合計でどのくらいやりますか。

- ①やっていない ②90分未満 ③90分～3時間未満 ④3～4時間30分未満 ⑤4時間30分～6時間未満 ⑥6時間以上

(10) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりますか。

- ①やっていない ②90分未満 ③90分～3時間未満 ④3～4時間30分未満 ⑤4時間30分～6時間未満 ⑥6時間以上

### 3. 授業時間外での普段の行動について

(11) ニュースや新しい情報をどのように取り入れますか。

- ①ほとんど見ない ②たまにテレビで見る ③テレビ、ネットなどで見る ④テレビ、ネットや雑誌新聞などでよく見る

(12) 定期的に読んでいる新聞、雑誌、週刊誌はありますか。

- ①読まない ②漫画雑誌を読んでいる ③週刊誌を読んでいる ④専門誌を読んでいる ⑤新聞を読んでいる

(13) 授業以外のインターネット (LINE やその他 SNS・オンラインゲームを含む) は1日にどのくらい使っていますか。

- ①やっていない ②90分未満 ③90分～3時間未満 ④3～4時間30分未満 ⑤4時間30分～6時間未満 ⑥6時間以上

(14) 本 (専門書を含め) をどのくらい読みますか。

- ①読まない ②月に2冊以下 ③月に3～5冊 ④月に6冊以上

## 【学修成果調査】

### 1. 建学の精神について

(1) 本学の建学の精神『「成徳」すなわち徳を成す人間の育成』を知っていますか。

- ①まったく知らない ②ほとんど知らない ③多少は知っている ④ある程度知っている  
⑤ほぼ知っている ⑥よく知っている

### 2. 外国語能力について

(2) 外国語の授業では、何を選択しましたか。

- ①英語 ②中国語 ③選択していない

(3) 外国語の学習をきっかけに、グローバルな姿勢が身につきましたか。

- ①まったく身につけていない ②ほとんど身につけていない ③多少は身につけている  
④ある程度身につけている ⑤ほぼ身につけている ⑥大いに身につけている

(4) 会話力 (話す、聞く) はどの程度ありますか。

- ①まったくない ②ほとんどない ③多少はある ④ある程度ある ⑤ほぼある ⑥大いにある

(5) 書く力・読む力はどの程度ありますか。

- ①まったくない ②ほとんどない ③多少はある ④ある程度ある ⑤ほぼある ⑥大いにある

### 3. ICTリテラシー (=情報機器やインターネットを使う能力) について

(6) インターネットを利用した授業の受講は支障なくできますか。

- ①まったくできない ②ほとんどできない ③多少はできる ④ある程度できる ⑤ほぼできる ⑥よくできる

(7) 授業課題や研究に、Word、Excel、PowerPointなどのソフトを使うことができますか。

- ①まったくできない ②ほとんどできない ③多少はできる ④ある程度できる ⑤ほぼできる ⑥よくできる

(8) インターネットを利用した授業・研究資料の検索はどの程度できますか。

- ①まったくできない ②ほとんどできない ③多少はできる ④ある程度できる ⑤ほぼできる ⑥よくできる

#### 4. 教養・基礎的スキルについて

(9) 専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養が、どの程度ありますか。

- ①まったくない ②ほとんどない ③多少はある ④ある程度ある ⑤かなりある ⑥大いにある

(10) レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（図書館の利用など）は、どの程度ありますか。

- ①まったくない ②ほとんどない ③多少はある ④ある程度ある ⑤かなりある ⑥大いにある

(11) ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べるのが、どの程度できますか。

- ①まったくできない ②ほとんどできない ③多少はできる ④ある程度できる ⑤ほぼできる ⑥よくできる

#### 5. 幼児教育・保育に関する専門知識・専門的スキルについて

(12) 専門知識を理解している。

- ①まったく理解していない ②ほとんど理解していない ③多少は理解している ④ある程度理解している  
⑤ほぼ理解している ⑥よく理解している

(13) 専門知識を実際の実習の場面などで使うことができる。

- ①まったく使えない ②ほとんど使えない ③多少は使える ④ある程度使える ⑤ほぼ使える ⑥よく使える

(14) 専門的スキルが身についている。

- ①まったく身につけていない ②ほとんど身につけていない ③多少は身につけている  
④ある程度身につけている ⑤ほぼ身につけている ⑥よく身につけている

(15) 大学入学後に取得を目指している（取得した）免許・資格等はいくつありますか。

- ① 0 ② 1 ③ 2 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 5以上

例：幼稚園教諭二種免許 保育士国家資格 社会福祉主事任用資格 救命技能認定  
幼児体育指導者2級資格 認定ベビーシッター資格 准学校心理士資格

#### 6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

(16) 「社会で働く（保育者、一般就職）」ということについてどの程度イメージできていますか。

- ①まったくできていない ②ほとんどできていない ③多少はできている ④ある程度できている  
⑤ほぼできている ⑥よくできている

(17) 将来の進路（保育者、一般就職、進学など）はどの程度決まっていますか。

- ①まったく決まっていない ②ほとんど決まっていない ③多少は決まっている ④ある程度決まっている  
⑤ほぼ決まっている ⑥すでに決まっている

(18) 就職活動を最後まで頑張る自信はどの程度ありますか。

- ①まったくない ②ほとんどない ③多少はある ④ある程度ある  
⑤かなりある ⑥大いにある

7. 総合力について— 短期大学での学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思いますか。

(19) 自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することが、どの程度できるようになりましたか。

- ①まったくできていない      ②ほとんどできていない      ③多少はできている      ④ある程度できている  
⑤ほぼできている      ⑥よくできている

(20) 社会人（保育者、一般就職など）として仕事や活動を行うために必要な力はどの程度身につきましたか。

- ①まったく身につけていない      ②ほとんど身につけていない      ③多少は身につけている  
④ある程度身につけている      ⑤ほぼ身につけている      ⑥よく身につけている

(21) 他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことは、どの程度できますか。

- ①まったくできない      ②ほとんどできない      ③多少はできる      ④ある程度できる  
⑤ほぼできる      ⑥よくできる

(22) 東京成徳短期大学に入学してどの程度よかったと思いますか。

- ①まったく思っていない      ②ほとんど思っていない      ③多少は思っている      ④ある程度思っている  
⑤ほぼ思っている      ⑥大いに思っている

・アンケートに答えてみて、自分の学習活動について気づいたこと、考えたことを自由に記述して下さい。



### 3. 1週間（平均的な）における授業以外の学修活動や行動について

(7)授業以外の時間で主に行っていることは何ですか、上位3つをお答えください。

- ①大学の授業とは別の勉強 ②部活・サークル ③アルバイト ④趣味 ⑤友達・知人等との交流  
⑥家族と過ごす ⑦ボランティアなどの社会的活動 ⑧特に何もしない ⑨その他

## 【学修成果調査】

### 1. 教育理念について

(1)本学の建学の精神「徳を成す人間の育成」を知っていますか。

- ①まったく知らない ②知らない ③どちらかといえば知らない ④どちらかといえば知っている  
⑤知っている ⑥よく知っている

### 2. 外国語能力について

(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。

- ①英語 ②中国語 ③韓国語 ④英語と中国語 ⑤英語と韓国語 ⑥中国語と韓国語  
⑦英語と中国語と韓国語 ⑧選択していない

(3)外国語を読む・書く・話す力は総合的に見てどの程度ありますか。

- ①まったくない ②ない ③どちらかといえばない ④どちらかといえばある ⑤ある ⑥大いにある

### 3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

(4)文章作成ソフト（Wordなど）やプレゼンテーションソフト（Power Pointなど）を使って、文章作成やプレゼンテーション用資料を作成することはどの程度できますか。

- ①まったくできない ②できない ③どちらかといえばできない ④どちらかといえばできる ⑤できる  
⑥よくできる

(5)表計算ソフト（Excelなど）を使って図表を作成することがどの程度できますか。

- ①まったくできない ②できない ③どちらかといえばできない ④どちらかといえばできる ⑤できる  
⑥よくできる

### 4. 教養・基礎的スキルについて

(6)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養が、どの程度ありますか。

- ①まったくない ②ない ③どちらかといえばない ④どちらかといえばある ⑤ある ⑥大いにある

(7)レポートや論文作成に必要なスキル（資料・文献検索、書式・作法、論理構成、文章作成など）が、どの程度ありますか。

- ①まったくない ②ない ③どちらかといえばない ④どちらかといえばある ⑤ある ⑥大いにある

### 5-1. 専門知識・専門的スキルについて

(8)専門知識やスキルをどの程度、理解したり身につけたりしていますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(9) 専門知識やスキルを実際の場面で使うことがどの程度できますか。

- ①まったく使えない ②使えない ③どちらかといえば使えない ④どちらかといえば使える  
⑤使える ⑥よく使える

※ 5-2. 専門知識・専門的スキルについて (学科独自の質問：臨床心理学科、経営学科のみ実施)

【臨床心理学科】

(10) 「心理療法・カウンセリングの展開」に関する学び、をどの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(11) 「学校・子どもの臨床心理学」に関する学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(12) 「社会・産業の臨床心理学」に関する学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(13) 「心理学における実験や調査の方法」に関する学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

【経営学科】

・経営学部専門科目は、「経営学分野」「会計学分野」「マーケティング分野」「ビジネス科目 (ファッション・エンターテインメント・トラベル・ホスピタリティ)」などから構成されています。各分野の学びをどのくらい理解していますか。

(10) 「経営学分野」の学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(11) 「会計学分野」の学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(12) 「マーケティング分野」の学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している

(13) 「ビジネス分野 (ファッション分野、エンターテインメント分野、観光分野)」の学びのうち、履修している分野の学びを、どの程度理解していますか。

- ①まったく理解していない ②理解していない ③どちらかといえば理解していない  
④どちらかといえば理解している ⑤理解している ⑥よく理解している ⑦履修していない

6. キャリア形成について

(14) 将来の進路 (職業、進学など) がどの程度決まっていますか。

- ①まったく決まっていない ②決まっていない ③どちらかといえば決まっていない  
④どちらかといえば決まっている ⑤決まっている ⑥すでに決まっている

(15) 就職活動を最後まで頑張る自信がどの程度ありますか。

- ①まったくない ②ない ③どちらかといえばない ④どちらかといえばある ⑤ある ⑥大いにある

## 7. 総合力等について

・「学修成果」に関する上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度、身につけていると思うかお答えください。

(16)他者とコミュニケーションを図りながら協働することが、どの程度できますか。

- ①まったくできない ②できない ③どちらかといえばできない ④どちらかといえばできる ⑤できる  
⑥よくできる

(17)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることが、どの程度できますか。

- ①まったくできない ②できない ③どちらかといえばできない ④どちらかといえばできる ⑤できる  
⑥よくできる

(18)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることが、どの程度できていますか。

- ①まったくできていない ②できていない ③どちらかといえばできていない  
④どちらかといえばできている ⑤できている ⑥よくできている

(19)自分自身の興味関心や資質・適性からみたとき、自分が入学した学部の学びは自分にどの程度合っていると思いますか。

- ①まったく合っていない ②合っていない ③どちらかといえば合っていない  
④どちらかといえば合っている ⑤合っている ⑥大いに合っている

・(自由記述) アンケートに答えてみて、自分の学修行動・意識と学修成果について気づいたこと、考えたことを自由に記述してください。

## 2 回答用紙

本調査は、東京成徳短期大学、東京成徳大学とも Microsoft 社の Forms で実施した。

回答用紙の書式は Forms の書式による。

### 3 回収状況

#### 2022年度 学修調査（行動・成果調査）回収状況

2022年度	1年生 (2022年度入学者)			2年生 (2021年度入学者)			3年生 (2020年度入学者・編入学生)			4年生 (2019年度入学者・留年生)			合計		
	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率
短大 幼児教育科	79	85	92.9%	110	136	80.9%							189	221	85.5%
国際	34	51	66.7%	(2)	(47)	4.3%	41	65	63.1%	27	49	55.1%	102	165	61.8%
臨床心理	85	118	72.0%	89	112	79.5%	51	119	42.9%	48	121	39.7%	273	470	58.1%
健康・スポーツ心理	7	61	11.5%	21	47	44.7%	24	67	35.8%	20	50	40.0%	72	225	32.0%
子ども	123	129	95.3%	99	144	68.8%	117	149	78.5%	31	151	20.5%	370	573	64.6%
経営	66	133	49.6%	39	145	26.9%	36	151	23.8%	33	166	19.9%	174	595	29.2%
大学 計	315	492	64.0%	248	448	55.4%	269	551	48.8%	159	537	29.6%	991	2028	48.9%

※留学中、休学中などの学生は調査対象外、国際学科2年生は集計対象外

#### 2021年度 学修調査（行動・成果調査）回収状況

2021年度	1年生 (2021年度入学者)			2年生 (2020年度入学者)			3年生 (2019年度入学者・編入学生)			4年生 (2018年度入学者・留年生)			合計		
	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率	提出者数	対象者数	回収率
短大 幼児教育科	132	139	95.0%	122	183	66.7%							254	322	78.9%
日本伝統文化										20	41	48.8%	20	41	48.8%
国際言語文化										29	51	56.9%	29	51	56.9%
国際	42	54	77.8%	7	34	20.6%	32	49	65.3%				81	137	59.1%
福祉心理										0	1	0.0%	0	1	0.0%
臨床心理	95	113	84.1%	84	123	68.3%	47	114	41.2%	41	117	35.0%	267	467	57.2%
健康・スポーツ心理	44	49	89.8%	35	68	51.5%	20	50	40.0%	18	51	35.3%	117	218	53.7%
子ども	105	144	72.9%	25	144	17.4%	89	152	58.6%	50	144	34.7%	269	584	46.1%
経営	102	149	68.5%	70	155	45.2%	96	150	64.0%	66	133	49.6%	334	587	56.9%
大学 計	388	509	76.2%	221	524	42.2%	284	515	55.1%	224	538	41.6%	1117	2086	53.5%

※留学中、休学中などの学生は調査対象外